暗黒拠点月presents

ロリコンブームの跡を追って

In the wake of Lolicon-Boom



全エロ同人誌の母の姿が明らかに！

ロリコンブームの跡を追って

暗黒拠点月

まえがき

〔略〕「ロリコン誌ブーム」は確実にわれわれの中に何かを残して行きつつある。われわれは「ロリコン誌ブーム」というファンダムの変革を通りすぎることによって、**今まさに何かを得ようとし、また失なおうとしている**のである。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号 98 頁

女性（腐女子含む）に占拠されていた初期コミックマーケット（以下、本誌では「コミケ」と略）に、1979 年以降**多くの男性参加者が訪れる**ようになりました。その原因の一つが、今や伝説となっている、**全てのエロ同人誌の母たる存在**[1]**である同人誌『シベール』**です。「謎の黒本」と呼ばれたこの同人誌は、'79 年 4 月開催のコミケ第 11 回（以下，「コミケ第＊＊回」を「C＊＊」と略す）で創刊され、'81 年 4 月の C17 発行の第 7 号をもって終刊となるまで、コミケで頒布され続けました。有名漫画家とそのアシスタント氏によって結成されたサークル“シベール編集部”は、ロリコン小説作家やアニメーター志望者など、多くの有能な賛同者を集めます。『シベール』は号を重ねるごとにページ数を増やし、内容を充実させます。

『シベール』最終号が発行された C17 では、“シベール編集部”のスペース前に長い行列ができ、**500 部が約 1 時間で完売**しました。当時のコミケ参加者数から考えて驚異的な部数を売り上げたことになります。

（「シベール」創刊号の扉）



http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconDoujinshiReview より

その後、他の多数のサークルが同様のロリコン同人誌を創刊したため、それまで女性とやおい本に支配されていたコミケが、男性向サークルとロリコン同人誌（または男性向萌え・エロ同人誌）の浸食を受けていきます[2]。

また、いわゆるエロ漫画雑誌はそれまで劇画調の作品ばかりでしたが、1981 年 11 月以降、アニメ・マンガ調の漫画を中心とした新しいタイプのエロ漫画雑誌が多数刊行されました。その結果、**エロチシズムに可愛らしさが融合した日本的美意識特有の「かわいいエロ」**[3] が商業誌に蔓延します。

さらに、同人誌業界内にとどまらず、一部の商業誌やオリジナルアニメビデオ等においても、ロリコンや美少女を謳った作品が出現します。特に，オリジナルアダルトアニメ『**くりいむレモン**』シリーズが人気を博します。

以上の経緯により、現在では、コミケ最終日のサークルの大部分は「男性向」（エロ描写がある本）ジャンルになり、男性一般参加者が多数来場しています。1975 年 12 月に開催されたコミケの第 1 回では、参加者の「**90%が少女マンガファンの女子中高生**」だったそうですから、隔世の感があります。

上記の現象は**ロリコンブーム**と呼ばれています。現在（2020 年）はこのブーム発生から約 40 年が経過しており、当時の様子を知っている人も少なくなっております（自慢じゃないが 40 代後半の私も最近までほとんど認識していなかった）。本誌では、このロリコンブームについて、私（降間）が古い雑誌や文献等を調査して、その痕跡（＝跡）を記録するとともに、伝説的存在であるシベールの内容をレビューした結果[4] をまとめたものです。**ブームの原因、当時の出来事、シベールの内容、ブーム後にもたらされたもの**、そして「**われわれが得た何かと、失った何か**」をできる限り明らかにします。

【本誌の執筆方針及び注意点】

- **笑いや面白さ**を最優先する。
- 図、表、絵を可能な限り盛り込み、見ていて楽しいものにする
- 事実関係については、文献調査により可能な限り正確を期す。
- 作品に対する評価等は全て私の主観。また、参考にした資料の選択、本誌が導いた結論等も全て私の独断と主観による。
- **引用文中の強調や文字サイズ・フォントの変更**は特に断りがない限り、**引用者（私）が施したもの**。〔〕で囲われた部分は**引用者が追加した注釈やツッコミ**。
- Web ページからの引用は、引用元の内容が後で更新・削除され、本書に引用した内容と異なることがある。
- ロリコンブームの発生に寄与した現象として、1970 年前後のアリスブームと、'80 年前後の少女ヌード写真集・自販機本・ビニ本のブーム[5] があるが、これらの本の名称などは本誌では一切触れない[6]。
- 本誌を読む際に、コミケットや同人誌即売会などに関する知識が必要になることがある（このへんについて知らない人は本誌を読むことはないだろうけど）。
- 現在では差別的・不適当と考えられている用語については、当時の状況をかんがみ、基本的に伏字などせずそのまま引用する。

---

[1] あくまで降間の意見です。森川嘉一郎氏は『文藝別冊[総特集]吾妻ひでお 美少女・SF・不条理ギャグ、そして失踪』において「やおいはロリコン同人誌の母だったとさえいえるかもしれない」（同書 182 頁）としていますが、私はやおいが祖母、三流劇画が祖父、そしてシベールがロリコン（エロ）同人誌の母と考えております

[2] もっとも「男性系サークルは全体の三割を超えはしなかった」（『別冊宝島 104　おたくの本』、JICC 出版局、82 頁）そうである

[3] 『文藝別冊[総特集]吾妻ひでお 美少女・SF・不条理ギャグ、そして失踪』　河出書房新社、2011 年、31 頁

[4] シベールは vol.1～vol.7 まで刊行されましたが、諸事情により、本誌では vol.5 までのレビューを掲載しています

[5] 『ロリコン 日本の少女嗜好者たちとその世界』高月靖、バジリコ より

[6] 理由は、これらに触れなくても論旨に影響はないことと、児童ポルノ法違反行為を誘発したくないこと、及び私が捕まりたくないため

「ロリコンブームの跡を追って」目次

まえがき　3

第1章　天地(あめつち)が闢(ひら)いたころ　——シベール以前の「おたく」業界　6

第2章　大地母神(シベール)の生と死

——シベールが生まれた理由とその盛衰　18

第3章　エロ同人誌の母

——シベール各作品レビューと当時の評価　31

第3章補足　59

第4章　大地母神への評価

——シベール刊行当時の商業誌での評価　63

第5章　シベールの子ら

——シベール以後に現れた同人誌など　69

第6章　その後の世界

——ブーム発生後のメディアとロリコンの浸透・拡散　91

最終章　得たものと失ったもの　——ロリコンブームの功罪　118

ロリコンブームに関する年表　129

参考文献・Webサイト　132

後書き・奥付　134

第1章　天地が闢いたころ
——シベール以前の「おたく」業界

昔、この世界の一番始めの時に、天で御出現になつた神様は、お名をアメノミナカヌシの神といいました。次の神様はタカミムスビの神、次の神様はカムムスビの神〔略〕。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

ロリコンブームが発生する前、1970年代中盤から79年初頭までのアニメ・漫画・同人誌業界の状況は次のとおりです。

アニメの状況

70年代の中ごろより、それまで子供向けのものとしか認識されていなかったアニメが、徐々に青年や大人の鑑賞に堪えうるとみなされ始めました。その象徴として『宇宙戦艦ヤマト』が挙げられます。

「宇宙戦艦ヤマト」は、〔略〕SF作家の豊田有恒が監修を担当。〔略〕一説では〔略〕幼児～低学年より上の世代へのアピールを狙ったともいわれる。もっとも**本放送時は視聴率が振るわず、39回の放送予定が26回で打ち切られた。**

『ロリコン』高月靖、バジリコ、95頁

『ヤマト』は今でこそ何回もリメイクされる超人気作品ですが、当時は打ち切られたのですね……。しかし、再放送されることで若者のファンが徐々に増えていきます。

ところが**再放送を通じて若者の間で反響が広がり、のちにアニメファンと呼ばれる層の存在が表面化**する。それまでのアニメに比べて凝ったSF的考証、スタジオぬえと松本零士によるマニアックな美術、主要登場人物がみな18歳以上で子供が出てこないという高い年令設定などが、若者に支持された主な要因だろう。

『ロリコン』96頁より

〔略〕**旧世代の人々の多くは、成長するにつれて映像から活字SFへと関心の中心を移していくのがふつう**だった。しかし七〇年代後半になると、**大人になってもアニメ中心というファンが増えてきた**のである。

新世代アニメの最初の衝撃は「宇宙戦艦ヤマト」だった。〔略〕それまでのアニメとは〔ヤマトは〕一線を画する完成度に達していた。これによってアニメは子供のものという認識から、**青年が見ても十分に価値があり、批評の対象たりうるものへと変化しはじめた**〔略〕。

『戦後SF事件史』長山靖生、河出書房新社、2012年、160～161頁

この『ヤマト』を初期段階で取り上げた雑誌として、『月刊OUT』（みのり書房）が知られています。1977年5月に創刊された同誌は「**明日はオトナになるボクたちのマガジン**」（恥ずかしい文面じゃのう）をコンセプトとする若者向けサブカルチャー誌でした。創刊号ではSF等が特集されています。『月刊OUT』創刊号の画像は次のとおり。なお、次の画像はかつて存在したWebサイト『早坂未紀の世界』中の、“1970年代の資料”（https://web.archive.org/web/20190330160544/http://www.geocities.jp/azicon1/1970_S.html）から引用したものです。

（月刊 OUT 創刊号表紙）



『早坂未紀の世界』“1970 年代の資料”より

……この表紙で**売れると思っていたんでしょうか**、当時のみのり書房の人達は。案の定創刊号はまったく売れず、このままの路線が続けば早期に**廃刊まっしぐら**だったのですが、第 2 号（'77 年 6 月号）でこの雑誌の運命は大きく変わります。「どうどうの 60 ページ！」と銘打ち、『宇宙戦艦ヤマト』の大特集を行いました。この**ヤマト特集号が大ヒット**し、雑誌としては異例の増刷が行われるほど[1] でした。なお、同号に収録されていた**森雪のヌードパロディグラビア**（笑、降間は未見）を目当てにした読者も多いと思われます。

創刊号以降、月刊 OUT は各種の特集を世に出しましたが、アニメ関係のものだけがヒットし**他が全部ハズれた**[2] ため、同誌はアニメ中心になります。現在では若者向けアニメ雑誌が多数ありますが（徳間書店のアニメージュ、学研のアニメディア、KADOKAWA の月刊ニュータイプが「御三家」とされている）、この当時はアニメ情報誌というものが存在せず、月刊 OUT がその先駆者だったのです[3]。

'77 年以降、ヤマトの映画化（TV 放送内容の総集編）、続編の新作映画公開（若者が開館前から映画館に行列を作って報道される）、及び『機動戦士ガンダム』[4] の開始（'79 年）など、子供向けではないアニメ作品が登場します。子供が若者になってもアニメを卒業せず、その世界に親しみ続けるようになってきたのです。

'77 年の時点で中高生から社会人 1～2 年生ころの年代の人は、1960 年以降生まれで、**物心ついたときから漫画やアニメが身近にあり**、アニメチックな絵に慣れていました。よって、以降で説明する三流劇画雑誌のリアルでえぐい画風のエロ描写より、アニメ・漫画調の絵柄にエロチシズムを感じることができたのでしょう。

少年漫画の動向

このころ（1960 年代後半～1970 年代前半）の少年漫画は、ある事件[5] により週刊少年マガジンが劇画傾向に走るなどの理由で、どちらかというとリアルで硬派な絵、ストーリー、及びハードな内容のみが重視され、**女の子の可愛さなどの面がおろそかになっていた**ようです。前掲『早坂未紀の世界』“1970 年代の

資料”中の少年マガジン 1970 年 11 月 15 日号の目次を見てみると、当時の連載（一部）は…

・『巨人の星』（川崎のぼる、梶原一騎）
・『ワル』（影丸譲也）
・『アシュラ』（ジョージ秋山）
・『光る風』（山上たつひこ）

……うん、どれも**暑苦しいスポ根とかの劇画**ばかりですな。

これだけだとナンなので、コミケ第 1 回が開催された 1975 年からその翌年あたりの間に『週刊少年マガジン』で連載されていた作品群を表にしました[6]。15 ページの「1975～76 年に週刊少年マガジンで連載されていた作品群の表」です。この表の「開始」、「終了」列の“1971.22”などの記述は、1971 年 22 号を表します。この表の各作品のタイトルだけを見ても、いわゆるラブコメ系漫画や可愛いヒロインで有名な作品のたぐいがほとんどなく、**『聖マッスル』**[7] とかの**暑苦しい劇画**のオンパレードと推測できます。

（『週刊少年マガジン』1976 年 38 号 124-125 頁 聖マッスルのケツのどアップ……）



『早坂未紀の世界』“1970 年代の資料”より

“1970 年代の資料”中の 1975 年 5 月 12 日号の週刊少年ジャンプの作品も、冒頭の手塚作品『低俗天使』はともかく、『アストロ球団』、『トイレット博士』、『包丁人味平』、『花も嵐も』（？）、……と、おおよそ似たようなものでした。この当時、「右手に〔朝日〕ジャーナル、左手に〔週刊少年〕マガジン」というフレーズが生まれるほど、マガジンは大学生や若者には支持されていました[8]。しかし、少年の支持は必ずしも得られなかったようです。

「劇画」を売りにしていた少年マガジンは青年層を中心として支持を得ていましたが、少年達は複雑なストーリーや残忍な描写について行けず、少年マガジンから離れていきます。

“1970 年代の資料”より

こんな状況の中で可愛いキャラを求めていた漫画ファンは少女漫画を愛好するようになりました。『シベール』の主宰者や参加者が少女漫画の絵を模写したり、少女漫画的なキャラを描いたりしていたのも、このような理由があったようです。

少年マンガ週刊誌の主流が劇画だった時代、そこには**筋ばったイモ姉ちゃんしか見当たらず**、可愛い女の子を見つけるには少女マンガに手を出すしかなかったのだ。で、男達は忠津陽子とか萩尾望都とか千明初美とかの描く女の子を「カワユーイ!」とか言いながら愛でていたのである。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』阿島俊、久保書店、23 頁

「筋ばったイモ姉ちゃん」って……米澤さん（阿島俊氏のこと）も辛らつですな（笑）。

エロ漫画雑誌の状況

現在、とらのあな等の商業雑誌コーナーに行けば、『快楽天』、『コミックマショウ』、『ペンギンクラブ』、『Comic LO』など、アニメ調・萌え系の絵柄のエロ漫画雑誌を容易に入手できますが、1970 年代においてはこの種の雑誌は存在せず、**エロ漫画雑誌と言えば劇画調の**いわゆる**“三流劇画”**誌だけでした。（↓当時の劇画エロ漫画の絵のイメージ）



上：『サルでも描けるまんが教室 21 世紀愛蔵版』、小学館、2006 年、91 頁コマの一部
下：『戦後エロマンガ史』、米沢嘉博、青林工藝舎、148 頁



↑「漫画エロトピア」80年1月3·17日合併号

1940 年～60 年までに生まれた、アニメや漫画に親しみがない人はともかく、それより遅く生まれた世代にとっては、前節で説明したように、このような絵よりもアニメ・漫画調の絵柄のほうが親しみやすかったようです。コバヤシマル氏がニュース系サイト「ねとらぼエンタ」にて執筆した名記事**“かつて、吾妻ひでおは神だった”**を見てみましょう。

> いつの時代も男子中学生の脳内はエロまみれだ。**考えることの 9 割はエロ妄想**、残り 1 割にその他の全てが詰まっている。ネットのない時代、紙媒体以外でエロは入手できない。だが、**そのころのエロ漫画といえば、劇画調の汚い線とデッサンの狂ったキャラクターがぐちょぐちょぐちょと描かれた雑誌のみ**。〔略〕手に入れても絵柄のせいであまりグッとこなかった。
>
> そこに降臨したのが同人誌即売会に出現したロリコン美少女マンガだ。そりゃ、小遣い貯めてコミケに行きますよ。

「かつて、吾妻ひでおは神だった」コバヤシマル、https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1704/15/news038.html

1981 年の年末に世界初の美少女エロコミック誌『レモンピープル』が発刊されるまで、エロ漫画雑誌＝劇画ものばかりという状況でした。'78 年時点のこの状況に不満を持っていた、ある漫画家とそのアシスタントが、後（のち）に「世界初のロリコン同人誌を作る」という行動を起こしたのです。

なお、シベール発行前後の'79～80 年頃において、三流劇画誌でロリコン的な表現をしていた作家もおられました。中島史雄、村祖俊一、谷口敬、野口正之（内山亜紀）の各先生です。以下は、昭和 54 年に発行された伝説のムック『別冊新評　三流劇画の世界』などを参考にしています。

●中島史雄先生

昭和 50 年＝1975 年にデビューされ、華奢な肢体のヒロインが登場するエロ劇画で人気を博しました。女子高生を描くことに定評があり、後述の村祖俊一先生とともにロリコン漫画家とみられるようになります。『別冊新評　三流劇画の世界』では「レモンセックス派」とのキャッチフレーズで呼ばれました。後に『レモンピープル』にも作品を発表されます。



↑中島史雄「幼女と少女がもんちっち」(「桃割れビーナス」)80年2月

『戦後エロマンガ史』、青林工藝社、226 頁。著者名の右に「レモンセックス派」とある

●村祖俊一先生

昭和 43 年に貸本漫画でデビュー後、『少年ジャンプ』や『少年マガジン』に「鳴神俊」のペンネームで作品を連載。その後昭和 51 年頃より『漫画エロジェニカ』や『漫画大快楽』等に村祖俊一名義で活躍[9]。

『別冊新評　三流劇画の世界』で村祖先生を評した相田洋（米澤嘉博氏の別名義。元 NHK のディレクターとは無関係なので注意）氏は、先生の作品を「静謐な完成品のきらめき」を持つとし、「彼の作品には、〔略〕ギラギラとした欲望も、愛液に濡れた肉体の匂いも存在しない、あるのは美少女にまつわる様々の幻想だ」と批評しています。



↑「漫画エロジェニカ増刊　娼婦マリー　村祖俊一特選集」79年1月（海潮社）

『戦後エロマンガ史』、青林工藝社、226 頁

引用画像からも推察できるように、当時の多くのエロ劇画作家とは異なり、端正な絵柄の美少女を描く村祖先生はロリコン作家の一種とみなされ、中島先生とともに『アニメック』17 号（後述）で紹介されました。また、

「美少女にまつわる様々の幻想」を描くという点も、後で紹介するロリコン同人誌のテーマと共通します。

●谷口敬先生

1979年に『漫画エロジェニカ』でデビュー。デビュー時のペンネームは「野島みちのり」。『漫画大快楽』で活躍し、ロリコンブーム発生後は『レモンピープル』や『漫画ブリッコ』及び一般漫画誌『アップル・パイ』などでも作品を発表されます。

私見ですが、この当時の谷口敬先生が描く絵の最大の特徴は少女の「眼」です。



『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、79頁。右の方の影みたいなのは気にしないで下さい

黒目が描かれているだけで、目の中の光など少女漫画的な表現がなにひとつない、陳腐な言い方ですが「死んだ魚のような目」のはずなのに、驚くほどの「意志と表情」（高取英）を感じさせるのです[10]。上の引用コマのほか、『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号に掲載された「うわごと」という作品の3ページ目の2人の少女の絵も、ものすごく生き生きした表情です。最初読んだとき、とても驚きました。同誌では、劇作家の高取英氏（漫画エロジェニカの編集長も務めた）が谷口先生の絵柄を次のように評しています。

> 谷口敬の少女たちは、凡百のエロ劇画と違って、**意志と表情を持っている**。エロ劇画の少女たちは、人形のようなものが多い。
>
> 『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、79頁

なお、谷口敬先生の美少女は『漫画エロジェニカ』の人気投票で1位になった[11]そうです。

●野口正之（内山亜紀）先生

「東京デザイナー学院卒業後、会社勤務を経て『まんぱコミック』1977年6月号に掲載された『怪人豊島区巣鴨にのくのにじゅうはち』（野口正之名義）で漫画家デビュー」[12]。三流劇画誌ではややリアルなタッチで幼女を描いておられました。その後、「内山亜紀」名義で、アニメ・漫画的な絵柄のロリコン漫画を『レモンピープル』等の各誌に発表して大人気を博します。

内山先生の特徴は「**オムツ**」です（笑）。多くの作品で少女がオムツを付けられています。なぜオムツなのかというと……

> **内山**〔略〕たまたまあるときSMの小道具のひとつに“オムツ”があると知りまして、それを題

材にマンガを描いたら、**変にいやらしくておもしろかった**。女の子からくるファンレターにも、オムツがいいというのもあったりして。

『アニメージュ』1982年5月号、127頁

また、他の漫画家の絵柄を正確にまねてパロディ漫画を描く技術、女の子の可愛らしさなど、先生の作品は少ない行数で語るのは困難なほど魅力にあふれています。

（内山先生が陸奥A子先生の絵柄をまねた作品）



『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、151頁

なお、内山先生は1982年1月の『週刊少年チャンピオン』1・2合併号で新連載「**あんどろトリオ**」を開始しています。主人公の**10歳の少女つかさちゃんがいろんな目に遭いオムツしたり丸出しにしたり放尿したりする**、少年誌に**絶対掲載してはいけないレベル**のものすごい漫画でした（私の幼少時、家にチャンピオンがあってこの漫画を読んだ記憶があり、衝撃を受けた）。当時の秋田書店編集部は何を考えていたのでしょうか。

同人サークルの状況

コミケ第1回が開催された1975年前後は、同人サークルと言えばほとんど複数人から構成され、現在のような「個人サークル」（**矛盾した言葉**ですが……）はごく少数しか存在していなかったようです。高校・大学の漫画研究会、または漫画やアニメのファンクラブ（FC）などがサークルの母体となり、会員から会費と原稿を集めて、代表者らが中心となって同人誌を作成し、会員のみに配布することが一般的な運営形態でした。このような運営形態では、過大な利益が発生することはまずなく、また「本を何部以上売らないと費用をペイ出来ない」などの心配も必要なかったのです。

マンガ同人誌もかつては、〔略〕**仲間の同人内に配布するものが中心**だった〔略〕。

『同人誌ハンドブック』、阿島俊編、久保書店、10頁

〔コミケの〕発足当初は三十ニサークルで、一般の参加者を入れて六百～七百人の規模でした。まだまだ同人誌自体に商品価値なんかまったくなかった時代ですから、**会員内でばらまかれて終わっちゃう**という、本当の同人誌でしたね。〔略〕一般に向けて出すという発想はないんです。

『別冊宝島 358 私をコミケにつれてって!』宝島社、17～18頁

サークル「水底森」を主催し、けもショタで活動されておられるMacop（まこぷ）先生は、かつての同人サークルの活動形態を次のように述べておられます（注、現在の形態はかなり変わっています……）。

> 同人誌というのはそもそも同人サークルのサークルメンバに「頒布」されるサークル誌なのです。**本来ならサークルメンバ以外の人が手に入れる事はできません。**
>
> しかしサークルメンバでない部外者で、サークル活動の結果である同人誌が欲しいという方がいらっしゃる場合には、本来サークルに参加し、原稿を描き、同人誌製作活動しなければならない所、そのような諸々のコストを金銭で支払う事でお分けしています。
>
> 同人誌を手に入れるために支払ったお金は、同人誌という商品の価格ではありません。**本来なら同人サークルメンバとして活動に参加し、原稿を描き、印刷代を出し、共に同人誌を製作し、サークルを維持していかなければならない**「あなた自身の労働コスト」なのです。
>
> “●同人サークルと同人誌に対価があることの成り立ちと歴史の話” https://togetter.com/li/929525

上のようなサークルの例として、『ジ・アニメ』1981年11月号のサークル紹介記事に掲載されていた、ガンダム・イデオンのサブキャラ同人誌を発行している某サークルの紹介文から。なお、同紹介文と当該同人誌の画像を16ページに掲載しています。

> 会費を納めない、**会費を納めて会誌を届くのだけを待っている（投稿しないというイミ）**、資料めあてで入会する、などの方々は**お断り**です。
>
> やる気のある方を大募集！〔略〕
>
> 『ジ・アニメ』1981年11月号171頁

Macop先生が主張されるとおり、「同人サークルメンバとして活動に参加し、原稿を描き、印刷代を出し、共に同人誌を製作し、サークルを維持」した人しか、このサークルの同人誌を手にできないということです。それにしても、なんですかねこの**態度L**のサークルは……入会する人はいたんでしょうか（こらこら）。ともかく、このような同人サークルが当時あったわけです。

なお、例えば会員数が60人のサークルにおいて、印刷所に依頼して同人誌を作成するとき、会員数と同じ冊数だけ発行することが難しい（当時、100部単位での受注が一般的）ため、どうしても発生してしまう余部を、特別に会員以外の希望者にも実費と引き換えに頒布するということがありました。

この場合、1975年以前はコミケ等の同人誌即売会というものがまだなかった[13]ので、サークル内でしか知られていない同人誌の存在を効率的にサークル外に知らしめ、余部を頒布する方法がありませんでした。「せっかく作った同人誌を多くの人に見てもらう方法がなかった〔略〕学園祭で売る、SF大会などのイベントで売るなど、**限られた方法しかなかった**」[14]ことから、コミケという場が作られたのです。

コミケ発足当初からロリコンブームが盛り上がるまでの間は、多くの同人サークルは上記のように**牧歌的**な運営をしていました[15]。会員が同人誌の制作費を折半して負担しているので、前述のように「即売会で何部以上売らないとまずい」という問題はまず起こらなかったのです。

コミケ・同人誌即売会の状況

現在（2020 年）、コミケには 3～4 日間で合計数十万人の参加者が殺到し、3 万数千サークルが新刊を頒布しています。おそらく同人誌即売会としては世界最大の規模を誇ります。しかし、1975 年 12 月に開催された第 1 回では、参加者数は**推定 700 人、サークル数は 32** しかありませんでした[16]。現在と比較して約 1000 分の 1 の規模です。ここまで大きくなったイベントも珍しいですね。

当時のコミケの内実は「参加者の 90%が、少女マンガファンの女子中・高生」[17] でした。コミケと言うと「男性向エロばかり！　きもい！」などと的外れな非難をする奴がいますが、ごく最近のコミケはともかく[18]、少なくとも開始から最近まで**コミケは女性のもの**だったのです。当時のコミケで頒布される本も、24 年組（萩尾望都、竹宮恵子など、昭和二十四年前後生まれの先進的な少女漫画家を指す用語）の FC（ファンクラブ）が発行する会誌や、ヤマトなどのアニメの二次創作本が多かったようです。中でも、**アニメに登場する美少年主人公や美形悪役を対象として、彼らに同性愛を演じさせる本**（いわゆる「**やおい**」）が人気でした。



『コミックマーケット 30’s ファイル』、青林工藝舎、2005 年、49 頁の漫画コマの一部

上の引用コマ中の「洸くん」や「古代くーん」というのは、『**勇者ライディーン**』の主人公ひびき洸や『ヤマト』の主人公古代進でしょう（あと「ジョー」という文字も見えるが……『**あしたのジョー**』か？　あるいは『ガッチャマン』のコンドルのジョー？）。当時の女の子たちは、これらの主人公のファン本（やおい本も含まれる）を求めてコミケに殺到していたのです。

当時は男性向のエロ本を出すサークルはほぼなく（あったかもしれないが、ごく少数であり記録にも残っていないので特定は困難）、コミケは女の園といった状態でした。前述の漫画家とそのアシスタントは、この状況に不満をもつとともに、女性たちが「やおい」を楽しんでいるのを羨望していたのです。

■1975～76 年に週刊少年マガジンで連載されていた作品群の表

作品名	作者（作画）	原作者等	開始	終了
空手バカ一代	つのだじろう・影丸譲也	梶原一騎	1971.22	1977.52
愛と誠	ながやす巧	梶原一騎	1973.03/04	1976.39
釣りキチ三平	矢口高雄	-	1973.32	1983.19
おれは鉄兵	ちばてつや	-	1973.33	1980.2
紅の挑戦者	中城健	高森朝雄	1973.37	1975.52
うしろの百太郎	つのだじろう	-	1973.5	1976.01
三つ目がとおる	手塚治虫	-	1974.28	1978.12
狼の星座	横山光輝	-	1975.02	1976.27
B.C.アダム	赤塚不二夫	-	1975.07	1975.26
うどん団兵衛:闇魔祈願帖	さいとう・たかを	-	1975.12	1975.29
十兵衛えん魔帳	真樹村正	-	1975.27	1976.08
ジョウダン海賊	中島ザボウ	-	1975.3	1975.38
ゲタバキ甲子園	小畑しゅんじ	-	1975.33	1976.02
海商王	かざま鋭二	雁屋哲	1975.34	1977.12
デロリンマン	ジョージ秋山	-	1975.36	1976.13
鉄面探偵ゲン	石森章太郎	-	1975.38	1976.2
さすらい麦子	里中満智子	-	1976.01	1976.31
ドラ馬ハコテン	野性派のおづ	-	1976.02	1976.21
野球狂の詩	水島新司	-	1976.03/04	1977.24
その他くん	つのだじろう	-	1976.05/06	1976.52
あるぷす犬坊	山上たつひこ	-	1976.16	1976.2(*)
マダラ 闘犬無頼控	木村えいじ	-	1976.21	1976.33
ガクエン遊び人	新田たつお	-	1976.22	1977.2
ぼんくら同心	ジョージ秋山	-	1976.25	1977.15
影忍	野田たみ樹	-	1976.28	1976.29
聖マッスル	**ふくしま政美**	**宮崎惇**	1976.32	1977.01
姿三四郎	本宮ひろ志	-	1976.34	1977.48
手天童子	永井豪	-	1976.36	1978.18
轟け!少年三柔志	中村まこと	-	1976.38	1977.18
蒼きパンサー	木村えいじ	-	1976.45	1976.52

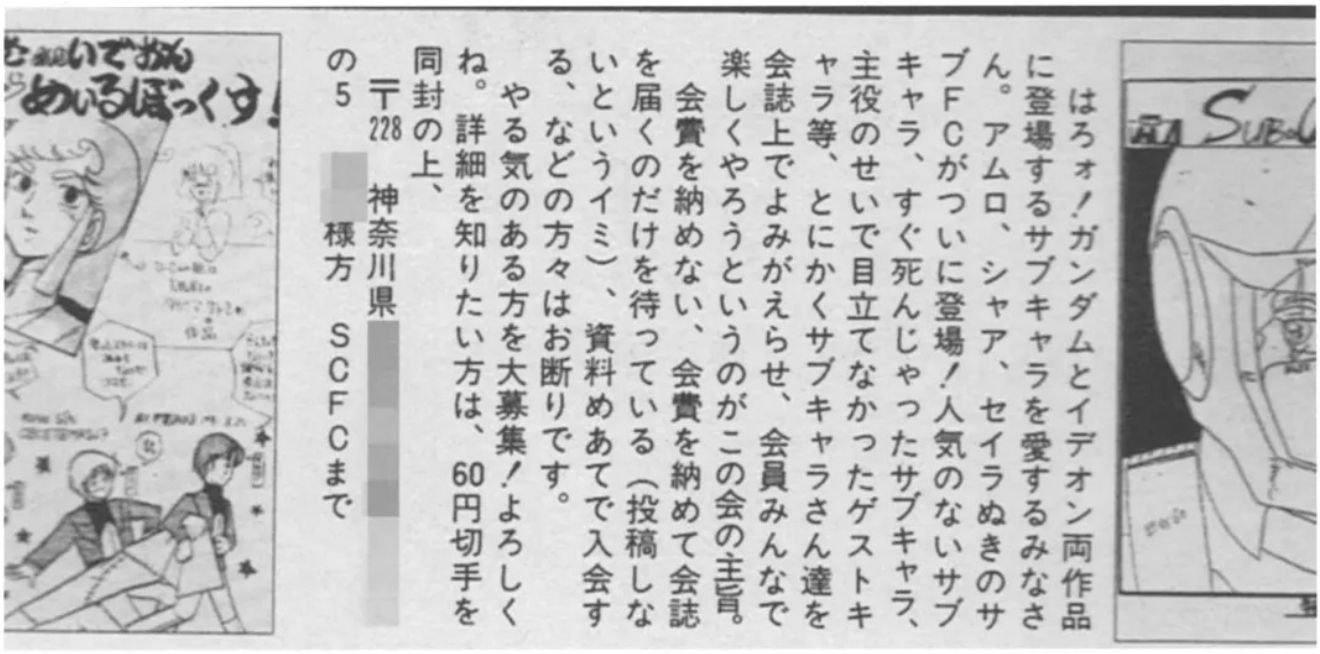
＊“週刊少年マガジン連載作品の一覧” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%B1%E5%88%8A%E5%B0%91%E5%B9%B4%E3%83%9E%E3%82%AC%E3%82%B8%E3%83%B3%E9%80%A3%E8%BC%89%E4%BD%9C%E5%93%81%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7 の情報を利用して作成

＊「開始」、「終了」の“1976.22”などの記述は“1976 年 22 号”を表す

＊作品名から、おおよその作品が**暑苦しい劇画**と予想できる

(*) 1977.2 の誤り？

■かつての同人サークルの活動形態を示す紹介文



はろォ！ガンダムとイデオン両作品に登場するサブキャラを愛するみなさん。アムロ、シャア、セイラぬきのサブFCがついに登場！人気のないサブキャラ、すぐ死んじゃったサブキャラ、主役のせいで目立てなかったゲストキャラ等、とにかくサブキャラさん達を会誌上でよみがえらせ、会員みんなで楽しくやろうというのがこの会の主旨。

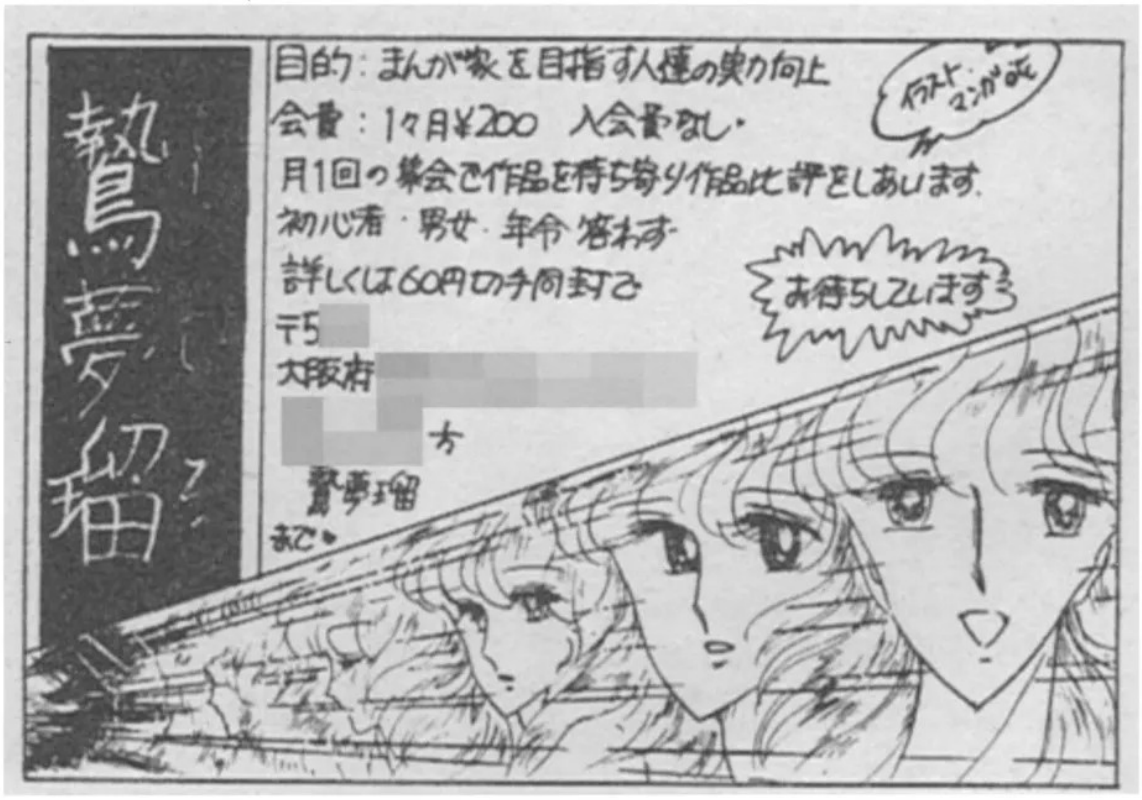
会費を納めない、会費を納めて会誌を届くのだけを待っている（投稿しないというイミ）、資料めあてで入会する、などの方々はお断りです。

やる気のある方を大募集！よろしくね。詳細を知りたい方は、60円切手を同封の上、

〒228 神奈川県[redacted]の5 [redacted]様方 SCFCまで

『ジ・アニメ』1981年11月号171頁

・当時のサークル紹介・勧誘の例その2。絵がなんかおもろかったので引用



『アニメック』1983年11月号、151頁

[1] 『ロリコン』高月靖、バジリコ、94 頁

[2] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E5%88%8AOUT

[3] 厳密には同人誌『ファントーシュ』が最初のアニメ雑誌といえるが、商業誌では月刊 OUT が初

[4] そういえばガンダムも打ち切りされたっけ

[5] 「W3（ワンダースリー）事件」のこと。詳細は https://ja.wikipedia.org/wiki/W3%E4%BA%8B%E4%BB%B6 参照

[6] “週刊少年マガジン連載作品の一覧” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%B1%E5%88%8A%E5%B0%91%E5%B9%B4%E3%83%9E%E3%82%AC%E3%82%B8%E3%83%B3%E9%80%A3%E8%BC%89%E4%BD%9C%E5%93%81%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7 のデータを利用させていただいた。

[7] 原作：宮崎惇、劇画：ふくしま政美、**お花畑で目覚めた全裸の**マッチョ主人公（記憶喪失で自分の名前もわからない）が**フルチンで**旅をしつつ悪を倒したりしていく超絶カルト漫画。ふくしまの絵に惚れた当時のマガジン編集部が鳴り物入りで連載開始するが、まったく人気が出ず打ち切りに。詳細は Wikipedia の“聖マッスル”のページ参照

[8] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%9D%E6%97%A5%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%AB

[9] 『別冊新評　三流劇画の世界』、新評社、102 頁より

[10] その後、1982 年刊『アップル・パイ』（徳間書店）などの作品では黒目に光が入ったりしている

[11] 『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、79 頁

[12] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%85%E5%B1%B1%E4%BA%9C%E7%B4%80

[13] 厳密には「日本漫画大会」の同人誌販売コーナー（？）のような小規模な場はあった

[14] 『同人誌ハンドブック』、阿島俊編、久保書店、25 頁

[15] やおい系で当時有名だった「合体同盟」のようなサークルで、コミケ黎明期から不特定多数に大部数の同人誌を頒布していた、いわゆる「大手サークル」も少しはあっただろうが、現在と比較してその数は非常に少なかったと思われる

[16] 『コミックマーケット 30's ファイル』、青林工藝舎、2005 年、32 頁より

[17] 『コミックマーケット 30's ファイル』、青林工藝舎、2005 年、32 頁より

[18] 最近（2019 年以降）のコミケは女性（腐女子）離れが進み、女性向けサークルの数が急激に減ってきている。理由は、抽選があるため参加したいときに参加できるとは限らない（大手サークルは除く）こと、参加費が高額なことなどが考えられる。自分のサークルも 3 連続落選を何度もくらっているので準備会に……って、こんな所で私怨を書くな！

スペースが余ったので穴埋めイラスト
（章の先頭に1枚ずつ入れる予定でしたが
頁数が多すぎることやペンタブレットが
死んで絵を描けなくなり1枚のみ）



第2章　大地母神（シベール）の生と死
——シベールが生まれた理由とその盛衰

そこで天の神様方の仰せで、イザナギの命・イザナミの命御二方に、「この漂つている國を整えてしつかりと作り固めよ」とて、りつぱな矛をお授けになつて仰せつけられました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

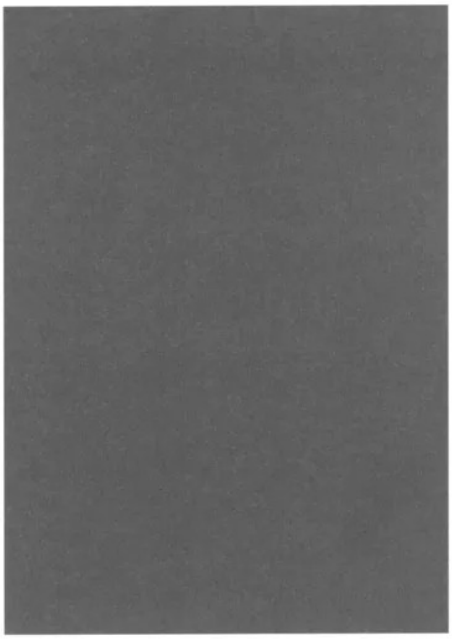
シベール創刊号まで

エロ漫画といえば**三流劇画**ばかり、**コミケは女性に支配**され、美少年ものとやおいがブームになっている状況。この状況に反発し、自分たちが好きなものを生み出そうとした漫画家とアシスタントがいました。**吾妻（あづま）ひでお**先生と**沖由佳雄（おきゆかお）**先生です。1978 年末のころ、両先生は次のような怪しい謀議（笑）をこらしていました。

「今の同人誌界は
「やおい」ばっかりだ
そろそろ我々が
決起する時が来た
日本初のロリコン同人誌を
出そう」〔吾妻先生〕
「やりましょう
先生!」〔沖先生〕

『出家日記—ある「おたく」の生涯』、蛭児神建(元)、183 頁、漫画内の台詞のみ引用

C11（1979 年 4 月開催）において、このお二人が中心となって発行された同人誌こそ、日本初（おそらく世界初でもある？）の男性向ロリコン漫画同人誌[1] である『シベール』です。その表紙を見ていただきましょう。



http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconFanzine より

え？　**何ふざけとんねん**って？　いえ、これが本当にシベールの表紙なんです。「何も印刷されていない、黒いラシャ紙を表紙にした不気味な装幀で」[2] 頒布されていました。

『シベール』各号の内容は第 3 章「シベール各作品レビュー」で紹介するとして、この章ではシベール誕生の経緯をもう少し追いかけます。

吾妻ひでお先生についてはもう説明の必要もないでしょう……と書きたいところですが、若い方で同先生の作品を知らないという人、あるいは最近話題となった『**失踪日記**』のみ認識している人もおられると思うので説明します。1969 年に漫画家デビューし、斬新なギャグ・SF に関する深い造詣・不条理な内容・そして**女の子キャラの可愛さ**などで、1970 年代後半から 80 年代前半にかけて、特に漫画マ

ニアや美少女ファンの間で絶大な人気を誇ります。その後、精神的不安などから失踪してホームレス生活を送ったり、アルコール中毒のため強制入院を体験したりするなど苦境に立たされますが、2005年に自身の体験を漫画化した『失踪日記』を上梓して再ブレイクされました。2019年に亡くなられています。

自分の姉は漫画おたくで、家には少女漫画（特に萩尾望都先生の作品が多数……姉は**萩尾先生の大ファン**だったようです）や『マンガ少年』（朝日ソノラマ）、『ぱふ』（清彗社のち雑草社）などのマニアックな漫画雑誌・漫画情報誌が多数収蔵されていました。それらには多くの場合、吾妻先生の作品または先生のイラストを用いた広告が掲載されていまして、幼い自分もその絵を見て可愛いと思っておりました。あと一番衝撃的やったのは『やけくそ天使』（秋田文庫）の2巻か3巻でした。小学生高学年のころ読んでしまい、エロ表現（今見ると、エロ度はおとなしいしギャグチックですが……）に驚いたことがあります。

吾妻先生の功績の一つに、**手塚・石ノ森系の体に少女漫画の顔を組み合わせた**ことが挙げられます。『文藝別冊[総特集]吾妻ひでお 美少女・SF・不条理ギャグ、そして失踪』というムック本（以下、吾妻ムックと略）より。

吾妻 あと、〔自分の絵は〕少女マンガの影響もありますね。〔略〕

吾妻 〔略〕**劇画のエロは全然エロくない**と俺は思ったんだけど、一般の人も実はそう思ってたらしい。だって『シベール』を出したら、**そのあとみんなそういう雑誌になっていった**（笑）。〔略〕

――（笑）

吾妻 みんな、**手塚さん石ノ森さんの絵や少女マンガの絵でエロを見たい**んだって。『シベール』の直前ごろに少女マンガの模写をして、エロの落書きみたいなのを描いてたんです。〔略〕

吾妻 〔略〕**少女マンガは顔だけ模写して、体は手塚・石ノ森系**なんですよ。それを組み合わせると、すごいエロチックになるという。

――それは**現代の日本的美意識の本質「かわいいエロ絵」誕生の瞬間**じゃないですかね。

吾妻 そうかな（笑）。

吾妻ムック、河出書房新社、2011年、30~31頁

『シベール』に掲載された吾妻先生や他の皆様の作品は、多くの場合、以上のように少女漫画の影響を受けた絵になっています。少女漫画の絵でエロを描くという斬新な業（わざ）によって、新たなエロチシズムの表現が生まれたと考えられます。

かわいい子が載っているという理由で少女マンガを読んでいた男性陣は、少女マンガにおけるプラトニックラブにもの足りなさを感じていました。かといって**エロ本はリアルな劇画**ばかりでした。

そんな中**「シベール」は少女マンガの絵柄でエロという、読者のニーズにマッチした内容**で人気を集めます。

これ以降、「美少女コミック」という新ジャンルが登場する事にまります〔ママ〕。

『早坂未紀の世界』“1970年代の資料”

なお、素人考えですが、劇画のエロがえろ

くないというのは「不気味の谷」現象[3] に起因しているのではと思いますが、この点にこだわると先に進めないので、とりあえず今はシベールの方に戻ります。

シベール刊行の意図に関する吾妻・沖両先生の証言が、吾妻ムックに掲載されています。

吾妻 やおい本は読んだことがあったんだけど、理解できないし楽しくもないし、別に興奮もしないし。喜んでるのは女性だけだしね。それがコミケをほとんど独占した状態で、男の肩身が狭かったというのもありますね。

吾妻ムック、河出書房新社、2011 年、181 頁

吾妻先生はやおい本を読んだことがあったようです。しかし、男性同性愛が好きでないと確かにやおいで興奮するのはきついでしょうし、当時は男性同性愛に対する偏見が現在よりも強かったこともあり、違和感をもったと考えられます。なお、当時のコミケには「女性しか喜ばない」作品が多かったことと、「男の肩身が狭かったこと」が伺えます。

続いて、沖由佳雄先生を紹介します。沖先生は高校時代に吾妻先生の初期作品『二日酔いダンディー』のファンレターを出し、丁寧な返信を受け取ったことがきっかけで吾妻先生のアシスタントとなりました[4]。そののち、『アニメック』誌で漫画家デビューされ、各種雑誌でライターとして同人誌レビューを務めるとともに、同人活動を現在まで継続されています。

沖先生はいくつかの文献において、三流劇画ブームや、やおいに対する反発等を語っておられます。

沖 当時は三流劇画ブームで、エロといえば人妻で、せいぜい女子高生。〔略〕われわれが欲しいものとは違うという、物足りなさを感じていました。もう一つあったのが、女性サークルを中心とした耽美ブーム。**これが許されるんだったら、俺たちもやりたいことをやっていいんじゃないか**という。誰もやらないからとりあえず始めたんですが、**自分たちで描くというよりは、上手い人が描いたのが見たい**、というのが一番の目的でした。

吾妻ムック、河出書房新社、2011 年、181 頁

米沢 「シベール」って、今で言う男性系のはしりだったんですけど、そのあたりは？

沖 当時、**三流劇画が全盛の時期で、それに対しての反発**と、若かったんで勢いにはしった部分もあったかなあ(笑)。

『コミックマーケット 30's ファイル』、青林工藝舎、2005 年、242 頁

上記引用文の「耽美」とは、大雑把にいえばやおいのことです。沖先生の証言から、**三流劇画に対する反発**、そして**やおい（耽美）に対する反発と羨望**（“やおいで男同士のエロを描いていいのなら、男が好むエロを俺たちが描いてもいいじゃん”という考え）の二つが、シベールが世に出る要因だったのです。

なお、「自分たちで描くより上手い人が描いたのが見たい」というのも重要な点です。この点は後ほどまた示します。

「しかし俺達だけ
描くのではつまらんな」
「同じ趣味を
持つ漫画家の

ロリな
エロ漫画が
読みたいっすよね」

『出家日記―ある「おたく」の生涯』、蛭児神建(元)、183 頁、漫画内の台詞のみ引用

吾妻先生と沖先生は、『シベール』に寄稿してくれる人を探します。その際に勧誘用として、8 ページのコピー誌『シベール vol.0 予告&原稿募集号』を作成します。



吾妻ムック、河出書房新社、2011 年、183 頁

この号に掲載された「シベール発行に際して」という勧誘用の文章が傑作なので一部を引用します。

アリス・ロリータ等に見られる美少女の妖精の様な均整美は美の極致です。しかるに！ 現在**13才未満の少女に対して関係すると相手の同意を得ても不当にも罰せられます**。これらの状況を打破し美少女を我等に!! 微力の執筆陣に原稿の御協力を!

吾妻ムック、河出書房新社、2011 年、183 頁

沖先生、**「13 歳未満の少女と関係」して罰せられるのは不当じゃない**と思います（笑）……いや、笑い事じゃなく、性に関する自己決定権や十分な判断力のない子供に対してそういうことをしてはいけないと考えます（注：現実の世界の話。漫画・小説等フィクション内では子供との SEX だろうが殺人だろうがいくらやってもいいと思う）。とにかく、両先生は『シベール』創刊号を発行する前から、自分たちだけで原稿を描くのではなく、寄稿者を求めていたとわかります。

吾妻先生から新人ロリコン漫画家のスカウトを命じられた沖先生は、ある人に出会います。後に“ロリコンの神”などと呼ばれる、**蛭児神建**（ひるこがみけん）氏です。

蛭児神建氏との出会い

しかし結婚をして、これによつて御子（みこ）水蛭子（ひるこ）をお生みになりました。この子はアシの船に乗せて流してしまいました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

蛭児神建氏はハードなロリコン小説の同人作家として、C11 以降に同人界で頭角を現していき、やがて商業誌（レモンピープル等）のライターや某ロリコン漫画誌の編集長などを務められます。

蛭児神建氏を有名にしたのは、その作品内容とともに、ご本人の当時の風貌でした。**ハンチング、サングラス、マスク、長髪、（夏**

コミでも）トレンチコート、手袋を身にまとい、片手に鈴、片手に女の子の人形を逆さに持ち、コミケの会場でロリコン同人誌を頒布していました。



『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、ラポート、83 頁（肖像権保護のため一部モザイク）

どうみても変質者にしか見えませんが、このような「**変質者スタイル**」で蛭児神建氏はコミケに出没していたそうです。

―― 最近は、蛭児神さんの**変質者スタイル**が、コミケットのシンボルみたいになってきましたね。

蛭児神 まあ、なんて言うか、初めは悪い冗談でしてね。**このカッコして会場の隅の方から『ニーサン、ニーサン、おもしろい同人誌あるんですがね』**と……これがかなりうけましてね。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、ラポート、82 頁

なお、沖先生と蛭児神建氏が出会ったのは、当時、江古田駅の近くにあった喫茶店「**まんが画廊**」です。まんが画廊とは「手塚プロが手塚以外の作品企画のために設けたアニメ企画会社、ひろみプロダクションが経営母体の店で、店内にはセル画や同人誌が並び、漫画家のタマゴやアニメファンのサロンと化していた」[5] 喫茶店です。なお、この店の常連には**ゆうきまさみ**先生、**しげの秀一**先生、永野護先生、声優の川村万梨阿氏、後に KADOKAWA 副社長となる井上伸一郎氏など[6]、そうそうたる方々がおられます。漫画家、アニメーター、編集者、それらを志していた人々、漫画・アニメファンなどが集い、アニメや漫画について語ったり人脈を広げたりしていた場所でした。



『マニフィック』1978 年創刊号、7 頁広告、“1970 年代の資料”より

まんが画廊には「落書き帳」がおいてあり、来店者が絵などを描いていました[7]。沖先生は「その落書き帳を見たくて、あるいはそこに描きたくて、行っていたところはありますね」と証言しています。この落書き帳に蛭児神建氏が「**私はロリコンです**」と書き込み[8]（よく書き込めたものである）、それが沖先生の目に留まって両先生が出会うきっかけになった

ようです。蛭児神建氏は沖先生の紹介で吾妻先生と知り合い、シベールに参加することになりました。

〔略〕初対面の沖由佳雄氏に手渡された本を見て、私の全身の血液は一瞬で頭に昇った。

それは二つ折りのコピー紙をホッチキスでとめた、ほんの数ページの品である。しかしその内容は、彼の可愛い絵の少女が靴下だけの全裸になり、**ワレメがくっきりと描かれた**、当時としては衝撃的なものであった。

私は頭がクラクラした。アニメ的美少女をエロの対象とする、その偉大なる先駆けは沖由佳雄氏である。〔略〕

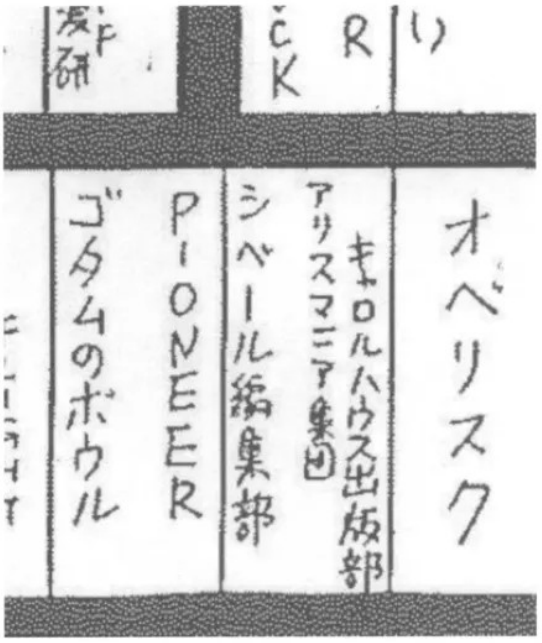
私の、エロの血は燃え上がった。

私は沖由佳雄氏に「シベール」の計画を教えられ、吾妻ひでお先生に紹介された。全く、当時の私としては夢のような出来事である。

『出家日記—ある「おたく」の生涯』、蛭児神建(元)、角川書店、46-47 頁

なお、「二つ折りのコピー紙をホッチキスでとめた、ほんの数ページの品」というのは、前述のコピー誌『シベール vol.0』と思われます（ぜひ読みたいんだけどな　これ……）。

以上の経緯で、シベールの創刊号は吾妻先生、沖先生、蛭児神建氏、仁科蒼一（にしなそういち）氏（蛭児神氏の紹介で加入。蛭児神氏が最初に入った漫画評論サークル「ユニオン・エカルテ」に所属していた[9]）の四名の作品から構成されます。また、蛭児神建氏のサークル「アリスマニア集団キャロルハウス出版部」（……）がC11 にて発行した新刊『**ロリータ**』には、吾妻先生のイラストエッセイ「美少女製造の手引き」[10] が掲載されています。『シベール』の頒布サークル「シベール編集部」（吾妻先生の事務所 無気力プロダクションが主体）と、「アリスマニア集団キャロルハウス出版部」は、C11 の当日、隣り合って配置されました。



コミックマーケット 30’s ファイル、青林工藝舎、2005 年、65 頁

シベール創刊号が最初からヒットしたのかについては、人によって意見が分かれており、今のところ明確になっていません。

当時から〔シベール創刊号は〕かなりの好評をもって迎えられたらしく、同年 6 月 15 日には第 2 版が出ている。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、108 頁 “シベールとは何だったのか” 原丸太

コミックマーケットでは、最初から行列ができていた訳ではなかった。

“米沢嘉博記念図書館|沖由佳雄氏、KAZUNA（計奈恵）氏トークイベント「『シベール』の頃」” https://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/t_event9.html

ともあれ、全ての（男性向）エロ同人誌の母たる存在が、'79 年 4 月に生まれたのです。

なお、「シベール」という題名は映画「**シベールの日曜日**」[11] から取られたものです。また、「シベール」は「アナトリア半島のプリュギア（フリギア）で崇拝され、古代ギリシア、古代ローマにも信仰が広がった大地母神[12]」キュベレーの別名です（古代ギリシャ語で“Κυβέλη”、フランス語で“Cybèle”）

M〔森川嘉一郎氏〕『シベール』以外のタイトルの案は、あったりしたんでしょうか。
吾妻 いや、『シベール』であっさり決まったような気がする。
S〔彩古氏〕 映画の『シベールの日曜日』（1962 年／フランス）からですよね。

吾妻ムック、河出書房新社、2011 年、34 頁

第 2 号以降

●第 2 号

シベール第 2 号から、**孤ノ間和歩**（このまわほ）先生とその弟子（上司と部下？　どういう関係なのか不明）の**計奈恵**（かずなけい）先生、及び**豊島U作**（とよしま）先生（「豊島ゆーさく」表記も）が執筆者に加わります。

孤ノ間和歩先生はアニメーターを目指しつつ『シベール』に参加し、また後に創刊された美少女コミック誌『レモンピープル』に漫画を執筆されていました。また、ポプラ社の絵本のイラストを担当されるなどの活動も確認できます[13]。

計奈恵先生はシベールに参加後、『アニメック』誌のカット描きでデビューし、同誌やガンガンコミックスなどの商業誌で活動されていました[14]。現在も同人活動を継続されています。

豊島 U 作先生については Web 上に有用なページが見当たらないため（Wikipedia 上にもない）、経歴を明確にするために書籍から引用します。

〔略〕豊島氏とは漫画画廊〔ママ〕以前にも一度顔だけは合わせていたぞ。大泉にある東映の撮影所で開かれたファンのためのイベントで、アニメや漫画のキャラのバッジを売っているグループの一人だった。私が萩尾望都先生の某美少女キャラを買おうとすると、
「いやっ、**この子は僕のっ！**」
なぞとほざきおったよな、あのデブ。なんだコイツは？ と思った。彼は当時、**既に実力派のアニメーター**であったのだけど。

『出家日記―ある「おたく」の生涯』、蛭児神建（元）、角川書店、46 頁

豊島ゆーさく。**ペドで獣**な人。本人はいたってまじめな人だが、ひとたびア・バオア・クーあたりに理性を置き忘れ、たががはずれた状態のパロディの破壊力はすさまじく、**沖氏がうみうしになる**ほど。

『コミックマーケット 30's ファイル』、青林工藝舎、2005 年、243 頁

……すみません、豊島氏の経歴を明らかにするつもりが、**余計わけがわからなく**なりました。わかったのはシベール参加前からアニメーターだったこととペド・獣属性ということです。なお、“沖氏がうみうしになる”の意味は本誌第 3 章の『シベール』vol.5 レビューをご覧ください。

以上の各先生方のうち、計奈恵先生はシベ

ール加入当初「**エロが嫌**だった」ようです。

計奈〔略〕私は少年誌志望だったんで、**エロは嫌**だったんですよ。だから、シベールメンバーに入った途端に、**何こんなの作ってるの**って、正直驚いた。
沖 ははは。
計奈 それを豊島（ゆーさく）さんに話したら、「まんが画廊でロリコンと呼ばれ、ここ抜けて、お前に行く道があるのか」って言われてしまって。「**しまった、もう俺は抜けられないんだ**」と。
一同（笑）

『コミックマーケット 30's ファイル』、青林工藝舎、2005 年、242 頁

……暴力団じゃないんだから（笑）。

と、ともかく、新たなメンバーが加わり、シベールの第 2 号が C12 で発行されます。

この頃〔創刊号発行後？〕、編集長の沖がまんが画廊の「らくがき帳」を通じて孤ノ間和歩と接触し、それに伴い弟子の計奈恵も 2 号目から本誌に参加したが、計奈は「**真っ黒い本で殆ど手に取ってもらえなかった**」と証言しており、グループ客も「こんな本売っていいのか」と立ち読みで騒ぐだけで、そのまま買わずに通りすぎて行ったというが、例外的に**その中のひとりが後でこっそり戻ってきて、中身も見ないでお金を置いて帰っていった**と回想している

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

“グループ客も「こんな本売っていいのか」と立ち読みで騒ぐだけ”いるなぁそういうやつら……（筆者もサークル活動をしているのでよく分かる）。買わないのにいろいろうるさいんですよ こういう奴ら、●ね……って、すみません、独り言です。

なお、第 2 号を最後に蛭児神氏はシベールに寄稿しなくなります。次のような事情によるものと思われます。

その本〔蛭児神氏が出した「ロリータ」〕のための絵描きとして「シベール」のメンバーを利用した。それが「ロリータ」である。「シベール」と一緒に作り、「シベール」と一緒に売った。

しかし、私のそんな製作態度、そして私の致命的な性格的欠点が**「シベール」メンバーとの間に亀裂を生んだ。**

ほとんど友人というものを知らず育った私は、人付合いの礼儀や常識に欠けている部分が大きかった。どこまで相手に甘えていいのか、その限度も分からなかった。
〔略〕
特に、生真面目な沖氏はそれが許せなかったのだろう。喧嘩した記憶は無い。ただ、**私が仲間外れにされるという形で、道を分かつ事になった。**

『出家日記—ある「おたく」の生涯』、蛭児神建（元）、角川書店、49-50 頁

沖先生と蛭児神氏との間の関係悪化[15] により、蛭児神氏はシベールから離れ、『ロリータ』も終刊になります。その後、蛭児神氏は『シベール』よりも更に過激なロリエロ小説同人誌『**幼女嗜好**』を発行します。

そして、蛭児神氏はサークル「サーカス・マッド・カプセル」（後述）の千之ナイフ先生や破李拳竜先生らと交友を深めます。しか

し、諸事情により同サークルとも後に袂を分かつのです……[16]

●第3号

第3号目からは人気が出てきたのか、開場前からシベール編集部のスペースの前に人だかりができ、「不審に思った会場スタッフが参列者に同誌の購入希望者かどうか尋ねると、**ほとんどの人が満面の笑みで一斉に挙手**した」[17]とされています。なお、コミケ等同人誌即売会では、一般参加者は開場前に会場に入れないので、このとき並んでいた人たちはサークル参加者だったと考えられます。当時、インターネットもパソコン通信もない[18]ので、おそらくは口(くち)コミでシベールの評判が多くのサークルに広まったのでしょう。

なお、吾妻先生は第3号が発行されたC13からコミケには行かなくなりました。『シベール』への寄稿は続けられていたので、同人誌がいやになったのではなく、この当時は多忙だったのではと推測します。

●第4号

第4号（C14にて発行）から、**森野うさぎ**先生が参加されます。『シベール』参加ののちに自身の同人サークル及び商業誌にて活動され、また『光戦隊マスクマン』などのキャラクタデザインも手掛けられています。

森野先生のインタビュー記事が、『同人漫画大百科』（辰巳出版、平成4年）に収録されています。なお、このインタビュー記事は**失礼ながら質があまり高くない**（明らかな間違いがあったりする。インタビュアーがちゃんと確認していないようだ）ので、適宜注釈を入れています。

コミケットの第7回目〔1977年12月18日開催のC7〕の時、友達に無理やり連れていかれましてね。その時は産業会館でしたっけかね…〔略〕それで、8回目か9回目ぐらいの時に**シベールを買おうとしたら年齢聞かれまして…（笑）まだあの頃は高校生だったんで「いやーちょっと…」って言って…でもなかなか売ってくれなくて…何回か食い下がったらようやく売ってくれました**けど（笑）

『同人漫画大百科』、辰巳出版、1993、115頁

「産業会館」とは大田区産業会館のことです。後に取り壊され、代替施設として大田区市民プラザPioが建造されます。

コミケの「8回目か9回目の時に」シベールを買おうとしたと森野先生は仰っていますが、『シベール』創刊号が頒布されたのはC11なので、これは記憶違いと思われます（買おうとしたのがシベールの第何号なのかは不明）。インタビュアーが証言の妥当性をチェックしていないようです。また、高校生が成年向の本を買うのも売り子が売っちゃうのも……（**現在のコミケでこれやったら大変なことになる**）。当時はおおらかだったのですね。

その後、**江古田にある漫画ガロー**〔ママ〕にはまっていったんです。〔略〕そこでシベールの人達と知り合いまして…。

〔略〕その頃は描けるタイプではなく完全に読むタイプだったんで、やっぱり読んでいても〔創作本などの〕絵は凄いけど内容が分からないという事がよくありましたね。そういう中でシベールは別の意味でさきがけでしたからね。

●**じゃあ、同人誌に係わって描き始めたの**

はシベールに入ってからなんだ。

そうなんですよ。**シベールの連中に描かないと許さない**と言われまして（笑）落書き程度はちょこちょこやってたんですが、漫画なんかこれっぽっちもやってなかったですからね…

『同人漫画大百科』、辰巳出版、1993、115頁

「漫画ガロー」…… おそらく「まんが画廊」のことでしょう。これもインタビュアーや編集者がよく分からないまま文字起こししたようです。その場で森野先生に「“まんがガロー”とは何ですか？」と確認するべきでしたね[19]。なお、これらの記述から森野先生はシベールに参加するまで絵やマンガをあまり描いていなかったと読み取れます。しかし、シベール等で作品を発表していくことで先生の才能が開花したのでしょう。シベールは森野先生だけでなく、計奈恵先生など後にプロとして活躍された多くの人達にとって、**ゆりかご**のような役目も果たしていたようです。

●第5号

第5号（C15にて発行）では、**早坂未紀**先生が参加されます[20]。早坂先生は吾妻ひでお先生や村上もとか先生のアシスタントを務めながら、サークル「トラブル・メーカー」に参加して同人活動を行い、個人誌『FRITHA』（“フリス”と読む）を刊行します。

実は自分は最近まで早坂先生とその絵についてまったく知らなかったのですが（降間は**この程度の人間**です）、『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号に掲載された先生のイラストを見てファンになりました。女の子が可愛いのはもちろんですが、普遍的なかわいらしさだけでなく「この人にしかこの絵は描けない」という独特の雰囲気を纏った絵柄が素晴らしいです。同誌の目次や口絵部分に掲載されたイラストを引用します。



『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、口絵より



『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、目

次より

窓から淡い光が差し込む様子といいレオタードの 3 人の可愛らしさといい……うっ（うっじゃねーよ）。……し、失礼しました。

早坂未紀先生は 82 年に漫画家デビューされ、以降、幾つかの雑誌で活躍されます。しかし、80 年代末には郷里の富山に戻られ、メディアに現れることはなくなります[21]（何があったのだろうか……）。

●第 6 号

第 6 号（C16 にて発行）では、**三鷹公一**（みたかこういち）先生の作品が本のトップを務めます。現在も月刊コロコロコミック等で様々な作品を発表されておられるプロ漫画家です（経歴等は Wikipedia の「プロジェクト:漫画家/日本の漫画家_ま行」の Web ページ参照）。なお、第 6 号が発行された C16 の開催直前に発売された『月刊 OUT』'80 年 12 月号の記事「病気の人のためのマンガ考現学　第一回ロリータコンプレックス」（米澤嘉博）で、『シベール』が紹介されました。

〔略〕マンガ同人誌『シベール』はコミケットなぞで見かけたら買っておくこと。〔ロリコンの〕汚染度 90%である。

『月刊 OUT』80 年 12 月号、みのり書房、97 頁

見開き 2 ページのこの記事のうち、『シベール』を紹介しているのは上の部分のわずか 40 字程度です。しかし、少なくとも数万部は出版され[22]、全国の書店で販売されていた『月刊 OUT』で紹介されたことで、『シベール』は更にその名を広く知られるようになりました。

'81 年 3 月 1 日前後（推測）に、アニメ雑誌『**アニメック**』17 号（発行日＝1981 年 4 月 1 日）が発売されます。この雑誌の特集記事「“ろ”はロリータの“ろ”」中でも、約 1 ページを費やしてシベールが紹介されています（この記事については第 4 章で詳しく触れます）。この特集を見て同年 4 月の C17 に突入した人も多いのではないでしょうか。

●第 7 号（終刊号）

C17（1981 年 4 月の春コミ）で発行された第 7 号で終刊となりました。Wikipedia の「シベール_(同人誌)」ページ中に示された第 7 号の執筆者名を抜き出します。

蔵栗鼠（三鷹公一）、海猫かもめ、山の一本杉、藤野矢舞、畦砥夢兎蘭（森野うさぎ）、×××（川猫めぐみ）、美少女通信社、MORINO（森野うさぎ）、かっぱふえにっくす（孤ノ間和歩）、タイバーン・ヘルミ（沖由佳雄）、佐久向心眼、糧丹新聖（計奈恵?）、らぶりい・φ・きゃっつ（豊島 U 作）、どーどー（吾妻ひでお）、パパラパー（孤ノ間和歩）

Wikipedia「シベール_(同人誌)」ページより

説明が遅れましたが、『シベール』では各参加者は通常のペンネームではなく、その場限りの別のペンネームを使用していました（**絵柄でだいたい誰が描いたかはわかる**ようですが）。vol.0 では吾妻先生と沖先生だけだった執筆者が、最終号では 13 人前後に増えています。当初の目的は十分に果たせたようです。

また、シベールが創刊されてからこの時期

までの間に、影響を受けた他のサークルもロリコン系同人誌を多数発行するようになりました。詳細は第5章で説明します。

終刊——大地母神の死

コミケで大人気となった『シベール』でしたが、'81年4月のC17で発刊された第7号において終刊となります。なぜ、人気があったのに終わったのか。

> ブームの折りから次第に吾妻をはじめとする**参加者の本職が忙しく**なり、それに加えて同誌に追随する**複数のロリコンファンジンも現れ始めたこと**から「**やるべきことはやった**」という確信のもと、1981年4月5日のコミックマーケット17で頒布された7号目を最後に本誌は終刊宣言する。
>
> Wikipedia「シベール_(同人誌)」ページ

『シベール』第7号の編集後記に「やるべきことはやった」との語句があります。

> 短いあいだでしたが御愛読いただきありがとうございました。シベールはこのVOL-7をもってめでたく終刊となります。えー終刊の理由についてですが、たぶんまー「**やるべきことはやった**」とゆーよーなことではないかと思うのですが、どうでしょうか編集長？
> 編集長のお答え「どうだびっくりしたか!!」
>
> Wikipedia「シベール_(同人誌)」ページ

Wikipediaの「シベール（同人誌）」記事[23]では以上の理由が示されています。ただし、私はこの理由の一部に疑問をもっています。参加者の本職が忙しくなったのは事実のようですが、その後、沖先生らはC18で『**ミャアちゃん官能写真集**』を、C19以降で『**エピカル**』（非エロオリジナルファンタジー系同人誌）を刊行するなどの活動を見せているからです。本当に仕事が忙しいなら同人活動をしている余裕はないと考えます（この点については、沖先生などにインタビューするなどして真相を究明すべきと思っている）。

なお、「追随する複数のロリコンファンジンが現れた」というのは適切と思います。

> **沖**（略）。誰もやらないからとりあえず始めたんですが、**自分たちで描くというよりは、上手い人が描いたのが見たい**、というのが一番の目的でした。
>
> 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、181頁

> **吾妻**（略）俺たち、そういうの〔ロリコン漫画同人誌〕が好きなのは少数なのかなという疑問があって。だから、自分らが描きたいというのもあるんだけど、**他人の描いたものを読んでみたい**ということが、根本にあったんですよね。もう創刊号から、**描いてくれる人を募集してた**。そういうのを読ませてもらいたいという願望があったんで。
>
> 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、181頁

沖先生や吾妻先生の証言強調部分は、一応エロ同人誌を出している自分もよくわかります。他の人が描いたものを読むほうが楽しいし楽（らく）やし（笑）……漫画等を描いたことのある方ならわかると思いますが、**自分で作品を描くのって非常に辛い**ことです。誰かが自分の性癖や好みに合うものを描いてくれるなら、自分で描くよりそっちを読むほうを優先したいと考えるのは自然です。

シベールの人気が高まるにつれ、同様のロリコン同人誌やエロ（男性向）を主題としたファンジン等がコミケに多数現れます。これによって「上手い人が描いたのを見れる」という、当初の目的が十分に果たされるようになったので、沖先生らは「ロリコン同人誌を出す」という段階から、次のステップに移ろうとされたのだと考えます。現在では、男性向で活動するサークルの数はコミケ初期と比較して飛躍的に増加し、いわゆる「薄い本（男性向エロ同人誌）」の発行部数が非常に大きくなっています。沖先生ほか『シベール』参加者の諸氏は、まさに「やるべきことをやった」のです。

“古事記”では、イザナミは多くの神を生んだ後に、火の神を生んだため陰部を傷つけて死にました。同様に、男性向エロ同人誌の母として生まれた『シベール』はその役目を終えて早期に死にましたが、それまでの過程で多くの一般参加者と同人サークルの人々に影響を与えることで、コミケの男性参加者比率を増加させるとともに、多数の男性向同人サークルやエロ同人誌を生みだしたのです。

かような次第でイザナミの命は火の神をお生みになつたために遂にお隠れになりました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

---

1 小説本なども含めた場合、蛭児神建氏が1978年12月のC10で発行した『愛栗鼠（アリス）』が初のロリコン誌となる。

2 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、180頁

3 “不気味の谷現象” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8D%E6%B0%97%E5%91%B3%E3%81%AE%E8%B0%B7%E7%8F%BE%E8%B1%A1 参照

4 米澤嘉博記念図書館Webサイト「沖由佳雄、KAZUNA（計奈恵）トークイベント「『シベール』の頃」」https://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/t_event9.html

5 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、182頁

6 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、184頁

7 https://togetter.com/li/768205 参照

8 吾妻ムック、河出書房新社、2011年、184頁

9 『出家日記—ある「おたく」の生涯』、蛭児神建(元)、角川書店、40頁より

10 吾妻ムックに掲載されている

11 『ロリコン』（高月靖著、バジリコ）34～36頁にあらすじが紹介されている。

12 “キュベレー” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%99%E3%83%AC%E3%83%BC

13 “孤ノ間和歩” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A4%E3%83%8E%E9%96%93%E5%92%8C%E6%AD%A9 参照

14 “計奈恵” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A8%88%E5%A5%88%E6%81%B5

15 だが、沖先生はのちに（1984年?）蛭児神氏が編集長を務める『プチ・パンドラ』誌に漫画を寄稿している（『戦後エロマンガ史』281頁参照）。両者の関係が本当に悪化したのかは不明

16 詳細は『出家日記』参照

17 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

18 厳密には、1969年の時点でインターネットは存在していたが、1979年当時、日本でインターネットに接続できる人間はほとんどいなかった。日本のインターネットの始まりであるJUNETは1984年の誕生である。また、日本でパソコン通信が誕生したのは1983年前後（諸説あり）である。

19 我ながらイヤな性格である

20 第5号のみ参加。第6号以降、早坂先生の参加はないようである

21 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A9%E5%9D%82%E6%9C%AA%E7%B4%80

22 この当時の『月刊OUT』の実売部数ってどのくらいだったのでしょうか……

23 この記事には私（降間）も若干関わっている（一部項目の追記や修正など）が、大部分の執筆は虫塚虫蔵氏（Wikipedia上では「ケラ氏」名義）によるものである。

第３章　エロ同人誌の母

――シベール各作品レビュー

イザナギの命はお隠れになつた女神にもう一度會いたいと思われて、後を追つて黄泉の國に行かれました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

この章では、私が閲覧した『シベール』第1～5号[1]の作品をレビューします。

はじめに――お詫び

まずお詫びしたいことがございます。本来はシベール各号を入手するか、同誌（Vol.1、2、3、4、6のみ）が所蔵されている米澤嘉博記念図書館で閲覧するのが正当な方法なのですが、皆様ご存じのとおり2020年3月から5月にかけ（注：本誌執筆開始は2020年2月、本章の執筆は2020年6月初旬開始）、新型コロナウイルスの流行が問題になり、同図書館が4月初めから閉鎖されました[2]。当初5月中旬ころまでの閉鎖が月末までに延長されまして、その後、5/31で閉鎖は解除されるとの記述が同図書館公式サイトにUPされ、**6月には あの伝説のシベールを読めるとわくわくしていた**のです。しかし、5月30日に同サイトを閲覧すると……

「本学〔明治大学〕の教職員、院生・学部生のみ、6月1日よりご利用いただけます」

明治大学の「活動制限レベル」とやらで大学関係者しか米澤嘉博記念図書館を使用できなくなったのです……（7/22現在継続中）

この体制がいつまで継続するか不明ですが、新型コロナウイルスの流行の状況によっては、米澤嘉博記念図書館が今後永久に使用できないということもありえます。最近はオークションサイト等で『シベール』が出品されることもまずないので、このままでは閲覧のチャンスが全くないことになります。

レビューを除外してもよかったのですが、やはりエロ同人誌の母たる伝説の存在をちゃんと読んで評価したいという希望があり、やむなく、ある手段によって（具体的には書きません）同誌創刊号以外の内容を確認したことをお詫びします。ご批判は甘受します。

なお、例えばですが、シベールが復刊ドットコム等で再販されていたり、オークションサイトで発見したり、または国会図書館等で閲覧できたりしていた場合、正規の方法で入手又は閲覧していました（天地神明に誓います）。今回の手段は入手・確認が困難な歴史的資料に対する非常手段とご理解いただければ幸いです。上記のような手段を使用せざるを得なかったことは残念です……

●以下のレビューでは**「オチ」は基本的に省略します**（ネタバレ防止・著作権的な配慮）。ただし、説明に必要な場合は各話のオチを明示することがありますのでご注意下さい。

創刊号(vol.1)

発行日：1979/4/8　B5、コピー誌、26頁、定価300円。第2版（1979年6月15日発行）もあり。

創刊号（vol.1）のみ上記手段では確認でき

ませんでしたが、『赤ずきん in わんだあらんど』のみ『ワンダー・AZUMA・HIDEO・ランド』（復刊ドットコム）に収録されています。この作品は、vol.2 以降に参加した各先生方の作品内容に影響を与えたと考えられます。



『シベール創刊号』扉（沖先生）。
http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconFanzine

●赤ずきん in わんだあらんど（著：れおなるど・だ・ちんぽ＝吾妻ひでお先生　頁数：10）

【ストーリー概要】とてもかわいい女の子の赤ずきんちゃん。お風呂に入っているとオオカミに覗かれ、興奮したオオカミの長大な×××が壁を突き破る（……）。「これなにかしら？」「えーとあのそのなーんつーか。タワシかな」（←んなわけあるかっ）



『ワンダー・AZUMA・HIDEO・ランド』復刊ドットコム、37 頁 3 コマ目上部のみ（コマの大部分にオオカミの×××が描かれているので……）

赤ずきんちゃんはちょうどよいとそれを借りて体を洗う（……）。果てるオオカミ。お母さんが登場し赤ずきんをおじいさんのお使いに行かせ、自分はオオカミと（略）。

赤ずきんちゃんは森で毛虫に襲われるは、水辺でうなぎに吸われるは、裸にされたうえ興奮したいろんな動物にまとわりつかれるはで……うさぎが赤ずきんちゃんを犯そうとするが**「なかなかはいんないな……」（←重要なセリフ）**。そこにヘトヘトのオオカミがやってきて動物たちを退け（婉曲的表現）、いよいよ赤ずきんちゃんに挿入しようとする。痛くて抵抗する赤ずきんちゃん。挿入寸前に……。

【評価】さすが吾妻先生の作品だけあって、赤ずきんちゃんの可愛さは筆舌につくしがたいほどです。

また、「わんだあらんど」＝おとぎ話的な世界を描いたことがポイントです。シベール vol.2 以降に『不思議の国からフシギな国にやって来た不思議の国の小リスのアリスのふしぎなふしぎな物語』や『西遊記 in wander

land』など、同様のタイトル及び内容の作品が多く表れているのは、この作品の影響があったからでしょう。

なお、この作品では**赤ずきんちゃんが常に無垢な存在として描かれています**。赤ずきんちゃんはオオカミの×××が何なのかわからず、毛虫が自分を犯そうとしてもその意味を理解していません。うさぎの性器は赤ずきんちゃんに入っておらず、オオカミのモノも同様です。赤ずきんちゃんは**最後まで処女的な状態（男性器を体内に挿入されていない）を守った**のです[3]。現在のロリコン系エロ同人や商業エロ漫画だったらこうはならず、女の子は**男等にこれでもかといわんばかりに犯されている**でしょう。吾妻先生及びシベールメンバー各氏は、単なるえぐいエロを描こうとしていたわけではないと読み取れます。

性に関する描写も、現在のエロ漫画等と比較して非常に抑制的です。オオカミの×××は黒塗りされているし、赤ずきんちゃんの女性器はお風呂シーンでＷＲＭ（婉曲的表現）が描かれている以外は明確な表現がなく、ページ中に性器が占める割合は非常に少ないです（今のエロ同人等でよく見る、性器や結合部分がアップになったコマもない）。こちらも現在のエロ漫画等と比べて明らかに異なるところです。

【細かい点】オオカミのモノが壁を突き破るのは『太陽の季節』（石原慎太郎）のパロディでしょうか。

vol.2

発行日：1979/7/27　B5、コピー誌、46 頁、定価 400 円。第 2 版（1980 年 8 月発行）ではオフセット誌に変更され、vol.1 の一部作品が追加収録された。



『シベール vol.2』1 頁（扉）。孤ノ間和歩先生。カケアミの細かさに注目！

●不思議の国からフシギな国にやって来た不思議の国の小リスのアリスのふしぎなふしぎな物語（著：らち・メリア＝孤ノ間和歩先生　頁数：10）

【ストーリー概要】平凡な男の前に子リスのアリスが現れるが、サイズがでかい…（笑）



『シベール vol.2』4 頁 5 コマ目

「ご免なさいこっちの世界では私はどれぐらいの大きさか…まだよくわからないの」「『ミ・ポン・ミウ・クミイ』といって 2 回手をたたくとあなたと同じ大きさになります」　この呪文？　を唱えるとその通りになり、理性が崩壊した男（オオカミ耳が生えている）はアリスを脱がせ一発決めようとするが、ネズミが呪文を唱えアリスはそのサイズに小型化。しかしネズミにたかったノミが同様にしてアリスまた小型化し毛の中へ。アリスのあの液を吸うノミ。しかし今度はノミに吸われていたネズミの血液中の白血球が同様にしてアリスまた小型化しノミの体内へ。白血球にまとわりつかれ、悶えるアリス。しかし、ネズミが再度呪文→アリス巨大化→ネズミはアリスの足を押さえ挿入 TRY→だが男が再度呪文→アリス巨大化→「よっこらしょ」男のリターンマッチ成功か……と思いきや、なんとものすごい存在が呪文を！

【評価】まず……**タイトル長いわ！**（笑）

孤ノ間和歩先生初参加作品です。「不思議の国から～」というタイトル、奇想天外なお話、童話または「不思議の国のアリス」的な世界観は創刊号の吾妻先生作品の影響でしょうか。孤ノ間先生の少女漫画的な絵柄の可愛らしさに魅かれました。

この作品でもアリスは愛撫されたり愛液（書くなっ）を吸われたりはされてますが犯されてはいません（男性器を女性器に挿入されていないということ）。ノミに吸われるコマではアリスの足しかコマ内に描かれておらず、女性器は明確には描写されていません。創刊号と同様、性に関する描写は抑制的です。

【細かい点】『ミ・ポン・ミウ・クミイ』の元ネタは何なのでしょうか……あと男がオオカミになるのも創刊号吾妻先生作品の影響？

●みかさちゃんききいっぱつ（著：沖由科雄〔ママ〕先生　頁数：part1＝8、part2＝8）



『シベール vol.2』13 頁 1 コマ目(トリミング済)

【ストーリー概要】　[part1…創刊号に収録され、第 2 号第 2 版に再録] バンダナポニテ少女の敷島みかさは両親を亡くし慈善家スワロフ夫人の元へ。長女アウロラ、次女セニャーウィン、長男リューリック（IQ300 の天才だが機械マニアで自閉症的）を紹介された後、

長女に薬を盛られベッドで縛られる。長女と夫人（両方ともみかさちゃんを×××しようとしている）が争っている間に次女に唇を奪われ服を剥がれ愛撫されク××され悶えてしまう。「や〜ん！！　あ……ンやめてェ。　あ…はァ　や…め…」　ぬけがけに怒った夫人・長女が次女をおしおきのため別室に連れて行った隙に、長男を口車にのせて小型核爆弾（……）を作らせ、部屋のドアを破壊して脱出。その後、別の慈善家？の元に向かうが……

［part2…第 2 号初出。著書名が「プラ・ナリア」になっている］弁護士からの「叔父の養子の双子を二日間預かり互いに気に入ったら合格」との条件で、製紙王の叔父が残した「国家予算に匹敵する」遺産を相続できることになったみかさちゃん。その双子、千早（姉）・千歳（妹）から映画[4] に誘われるが、双子（エスパー）はみかさをめぐって館内で超能力バトル。二日目も食事中に争うはレズるはで……その後、双子に愛撫されるみかさちゃん。3 人が愛し合ってる間に、実は弁護士が時間稼ぎをして遺産を他の親戚に相続させようとしたことが判明、弁護士は双子にボコられる。遺産を相続できたのだが……

【評価】この作品、part1 は vol.1 が初出なのですが、第 2 号第 2 版に part2 と共に再録されたので vol.2 でまとめて紹介しています。

沖先生が描く少女漫画的[5] な顔と、手塚・石ノ森・そして吾妻系譜の体型を持った美少女キャラがとても可愛らしいです。vol.2 第 2 版目次ページ掲載の「へんしゅうぶから」という文章では、「シベール黎明期のアイドルキャラクターみかさちゃんを少しでも多くの方々に見ていただこう」との意図で、この作品を再録したと述べています。私もいいキャラだと思っております。

part2 のオチですが、遺産が実は「国家予算に匹敵するティッシュペーパーの山積み」だったという……（笑）。叔父が製紙王だったのが伏線です。ちゃんとオチがあるのは、後に沖先生が『アニメック』誌や『プチアップル・パイ』誌に発表された各作品群（『プレジデント・カプリス』や『天翔けるセールスマン』等）と共通しています。また、この双子キャラはなんとなくですが『インパクター・ジェミニィ』（『アニメック』誌等に掲載）の双子をほうふつとさせます。ラストの「あなたたちが最高の遺産よ」という締めもほのぼのしてて良いです。



『シベール vol.2』28 頁最後のコマ

この作品でも、みかさちゃんは愛撫・ク×

×・ペッティングはされていますが、犯されてはいません（男性器を女性器に……）。だから「ききいっぱつ」なのでしょう。60 ページに引用した、part1 で次女に責められるシーンでもわかるように、やはりエロ描写は抑制的です。

【細かい点】「敷島みかさ」という名前の元ネタは日露戦争で旗艦を務めた戦艦「三笠」（敷島型戦艦）でしょうか。スワロフ、アウロラ、セニャーウィン、リューリックというのもおそらくロシアの艦艇か何か？[6]　千早は日露戦争時の通報艦「千早」[7]、千歳は第 2 次大戦時の水上機母艦「千歳」が元と考えられます。沖由佳雄先生のミリタリーマニアっぷりが伺えます。

●Me？（著：谷真似＝計奈恵先生　頁数：12）

【ストーリー概要】魔女？　か何かの家系らしきサミヤ（本頁引用コマ参照）とルシア（アンジェ[8] っぽい髪形）は留守番中。退屈なサミヤは『白雪姫』の本（両者の身長以上の大きさ……サミヤらが小人なのか、それとも本がデカいのか）のストーリーに入り込む。本の世界はめちゃくちゃになっており、狩人や王子に襲われ（王子が股間を「おうごんばっと」と言って全開するのにわろた）、逃れて小人の家で寝ていると小人に服を剥がれる。継母が狩人と盛っているのを覗いているうち変な気分になりエロチシズムに目覚めるサミヤ。なんとか元の世界に戻る。「（ルシア）つまり長い間しまっていたから本がよごれてたのよね。だから中の人の心までおかしくなっちゃったのよ」。本の中の経験から性に目覚めたサミヤは……

【評価】計奈恵先生初参加作品。アップや大ゴマを多数利用している現在のエロ漫画と比較して、一つのページ中のコマ数が多いなどの点で相違があります（自分も現在のエロ漫画に慣れているので最初読んだとき戸惑った）。特徴は、ほとんどの効果を手書きしていることです（以下引用コマ参照）。



『シベール vol.2』29 頁　最初のコマ

この当時、PC も Photoshop も CLIPSTUDIO もなく、スクリーントーンも高価[9] な時代ですので、多くの漫画家はカケアミや点描などの効果を手で描いていました。この作品を執筆中の計奈先生の努力に頭が下がります。

この作品でも、サミヤは特に犯されてはいません（男性器を（略））し、性器の描写もほとんどありません。最後のページでサミヤとルシアがレズるのがほぼ唯一のエロいコマ（小さいコマだけど……）です。他の作品同様、エロ描写は抑制的です。

●ロリコン図書リスト（著：蛭児神建先生　頁数：3）

ロリコンに関する小説及び写真集・画集等のリスト（表も含めて手書き）及び文章。蛭児神先生のロリコン関係の蔵書は**二千冊**とのことです……小説ではナボコフの『ロリータ』、『ペピの体験』などがあげられています。ロリコン系の本が買える本屋としてあの芳賀書店の紹介も。

気になった点として……

> それから、〔略〕吾妻ひでおさんの「パラレル教室」は実に面白い。〔略〕やっぱり、あの方は天才だ！一度お会いしてみたいものだ。
>
> 『シベール vol.2』43 頁

このような記述があります。「あの方」というのは文脈から吾妻先生なのでしょうが、この記述から、蛭児神先生は『シベール』vol.2の原稿執筆時点（1979 年 7 月）では吾妻先生にまだ会っていないと読み取れます。しかし、『出家日記―ある「おたく」の生涯』掲載の漫画（著：吾妻先生）では、蛭児神先生と吾妻先生は『シベール』創刊号の制作以前の時点で既に面識を得ているのです。この**矛盾点**については今後調査の必要があります。

●夏の一日（著：y・t＝豊島ゆーさく先生　頁数：5）

【ストーリー概要】海岸で白いポニテ髪の幼女（推定 3~5 歳？　名前分からぬので以下「主人公」）が一人遊び。麦わら帽子で黒髪の別の幼女（以下「帽子」）に話しかけられる。「あんた一人で何作ってんの？」「お山」「ママは？」「ごようなんだって……」帽子に誘われ丘？　を登っていく。「ほらここよウフッちょうどやってるわよォ……」

隠れて覗くと主人公の母と別の男が情交の最中（漫画中では姿がほとんど描かれていない）。「じゃあ、きっとあれウワキよ」「かわいそう……ママなんだかすっごく痛そう……」。主人公は行為の意味がわからず、悶える母親を痛がっていると勘違いする。「あらぁ痛いんじゃないのよ…すっごく気持ちいいんだからぁ」。信じない主人公の唇を奪い、愛撫する帽子。最初、非常に嫌がるが帽子のテクにより（……）初めての快感を覚えてしまう。「ママぁ……気持ちいいね……あたち…これ好きになりそう…」（……）。帽子のク××で上り詰め「あふれるぅ！」と絶頂する主人公。その後、帰りの電車内で……。

【評価】「もとアニメーター」の豊島先生だけあって女の子（かなり幼いですが…）の可愛さと緻密で丁寧な背景・効果の描写（次頁引用コマ参照）は素晴らしいです。4 ページ目から 5 ページにかけてのクライマックスで、ク××の快感で徐々に快感が高まっていく主人公と、波のしぶきまたは愛液が放出する様子のイメージを交互に配置しながら、主人公が絶頂に至る様子を巧みに描き出した過程は圧巻です（引用したかったが、本誌が成年向けになるので断念。**復刊ドットコムかどこかで『シベール』復刊してもらえないだろうか**）。

エロ描写は他作品よりやや強めですが、この作品でも少女のレズが中心で、男のモノが女の秘所に入るということは重視されていません（主人公の母親と男との性交シーンはコマ外にあり、ほとんど描写がない）。やはり

エロ描写は抑制的です。……って同じこと何度も書いているな、わし。



『シベール vol.2』45 頁 5 コマ目。岩・波・陰・木々などのリアルな描写に注目。PC などない時代に、手書きでここまで描くことができる豊島先生の描写力

【細かい点】主人公の母親はこんな小さな子を一人にして浮気してたのか……ダメだろ（怒）。あと帽子は 3 ページ目にて「あたしお兄ちゃんに〔気持ちいいことを〕してもらったんだから…」と言っているが、どういう家庭環境なのか。

●マイ.タウン（著：じゃ.じゃばーうぉっく＝吾妻ひでお先生　頁数：5）

【ストーリー概要】全裸の漫画家？　が、幼女ばかりの町「ロリータシティ」で怪物にさらわれた娘を助けようとし、娘の祖父（少女）、犬（少女）、ターザン？（少女）とさかりつつ冒険、怪物（顔が少女）と娘に遭遇するが、実は……

【評価】すみません、吾妻先生、よくわかりませんこの話（笑）。編集後記を読むと「なんとか間に合った」とあるので、おそらく時間がなくてぶっつけ本番で執筆されたのでしょうか。女の子の可愛さはいつも通りですが、創刊号の「赤ずきん～」と比較してエロシーンにこだわりがあまり感じられませんでした。

●編集後記・作者紹介・奥付（吾妻先生執筆？）

「おかげさまでシベール vol.I がたいへんこーひょうでしたのでここに vol.II をおとどけします。**タダ原よせてくださった**みなさんありがとう。」とあります。シベールでは原稿料を出していなかったのでしょうか……

●vol.2 総評

全体を眺めて思ったのは、**当時の漫画の描き方は現在の漫画（特にエロ漫画）とはかなり異なっている**ということです。60 頁に示したように、『シベール』vol.2 のほとんどのページにおいて、**断ち切り（ページの端まで絵を描くこと）が使用されていません**。沖先生の作品中で数回のみ控えめに断ち切りが用いられている程度です。現在のエロ漫画では断ち切りが多用されているのと対照的です。

すでに何回も書いていますが、**エロ描写は**

現在のエロ漫画等と比較して明らかにおさえ気味です。『シベール』参加者の各先生方は、エロというより少女の肢体やキャラの感情、及びストーリーといった点を優先して作品を描きたかったのではと考えます。また、多くの作品でオチをつけるなど、「マンガの面白さ」[10] を重く見ていたことも理解できます。

vol.3

発行日：1979/12　B5、オフセット誌（vol.4 以降全て同じ）、54 頁、定価 300 円。



『シベール』vol.3　1 頁（扉の一部）孤ノ間和歩先生。WRM が見えているため下の方トリミング

●野良神様（著：羅留下有介＝沖由佳雄先生　頁数：8）

【ストーリー概要】長髪リボンの可憐な「不幸な少女」が教会？　で祈っている。「まま母が私につらくあたるのです。」「昨夜もひどくしかられました。」「**お皿 25 枚割っただけで**」（いや、それは叱られて当然では）

帰り道に「捨てられて野生化した神様」である野良神様（マント着た変なオヤジにしか見えぬ）に遭遇。これから少女は危機に会うのでと渡されたランプ・骨・ペンダント。少女は野良自衛隊（？）や野良モノリスに襲われ、ランプや骨で対応するが役に立たず。帰宅すると少女は客をとらされる……（少女の家は売春屋だった）。ペンダントに助けを求める少女。そして……

【評価】吾妻先生の『スクラップ学園』みたいに、主人公が多数の奇怪な生物やらなんやらに次々と遭遇していくお話です。少女が骨を投げると宇宙船に変化するところやモノリスは『2001 年宇宙の旅』、最後にでてくる怪獣は東宝の有名なアレと、パロディもりだくさんなところも、沖先生の師である吾妻先生作品の影響が見受けられます。前号と同様にエロ描写は抑制的です。少女の裸体が描写されている程度で性行為（特に挿入シーン）や性器の露骨な描写は無し。

【細かい点】野良自衛隊として登場する戦車の緻密な書き込みが凄いです……vol.2 同様、沖先生のミリタリーマニアっぷり。今回の変名「羅留下有介」は「らるげゆうすけ」と読むのでしょうか。おそらく『ウルトラ Q』登場の怪獣「ラルゲユウス」が元かと。

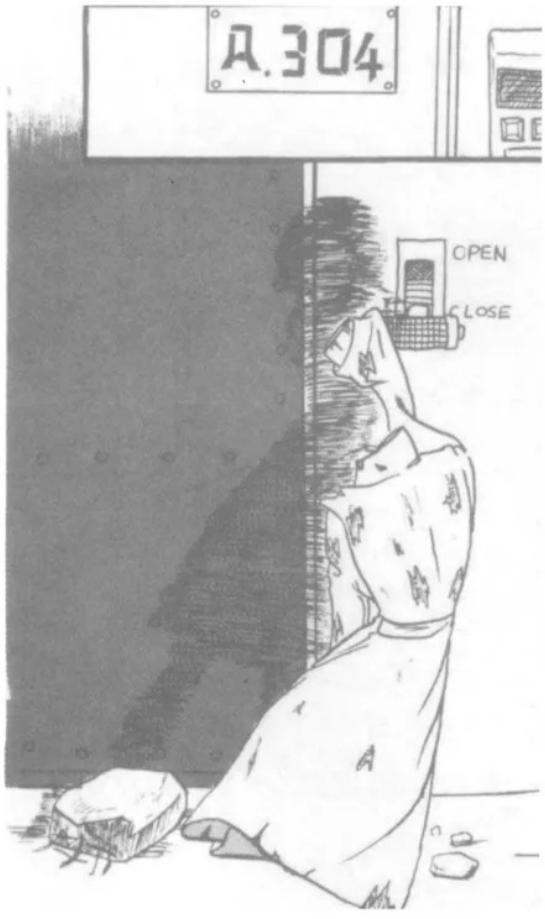
●ライヴ（著：魔化留奈ルナ＝計奈恵先生　頁数：8）

部屋の中で母の帰りを待つ兄妹。「……ママは――」「まだ帰ってない。きっと今日も

お仕事忙がしいんだよ」　妹のウィンは母が三日も帰ってきていないのを心配。風呂に入る二人はふざけあって楽しむがやはり母が恋しい。「ねえっ！ママ、お向かえ〔ママ〕に行っちゃダメ？」「それはダメだよママが…

絶対、部屋から出ちゃいけないって言ってたろ！！」　寂しがるウィンを慰めようと兄は口づけを交わし妹を愛撫する。「ママ、おこらない？」「どうして？だってママがボクに教えてくれたんだ。」（←……）

＊＊以下ネタバレ＊＊　二人が愛し合う部屋。「A.304」との表札。部屋の扉の外。同様の扉が多数並ぶ廊下。突き当りにある建物と外部を結ぶ黒い扉。



『シベール』vol.3 17頁一部

その外側でボロボロのコートが扉の開閉スイッチに引っ掛かり、扉には焼け焦げた影……おそらく兄妹の母の影が人間の形にこびりつく。核爆弾？　戦争？　災害？　破壊・崩壊した都市。何かの原因で世界が滅亡、地球上で生き残ったのは建物の中に残された兄妹だけと暗示し、完結。

【評価】vol.3 で最も衝撃を受けた作品です。兄の「絶対、部屋から出ちゃいけない」という伏線、建物の中で何も知らぬまま幸せな兄弟と、その外側で滅亡した世界を示す最後のページの緻密な描写、「内」と「外」の違いなどを見事に描き出した文句なしの傑作です。なお、エロ描写はやはりおとなしく、性器の露骨な描写はありません。

【細かい点】この兄弟、食料とかどうするんでしょうね……　この二人だけ生き残ったとしても人間滅亡はまぬかれないでしょうし…

●BLOODY MARY（著：怨訃居士＝？？　頁数：3）

【ストーリー概要】〔アガサ？〕クリスティのファンが多い町で主人公の少女（黒く塗られたつり目が怖い）が友人を家に誘う。深夜、家の地下室に入る主人公と友人。次の日？に友人の（おそらく死体が）川で……

【評価】怖い！　怖いわこの話！（-_-　；）

コマの間の余白がすべて真っ黒に塗られ、暗黒なムードの小品。エロが全然ないのはどうかと思いますが……　実はとある作家の作品に登場する探偵のファンだった主人公の不気味さ、背景描写の巧みさなどがムードを出していますが、『シベール』の基調に合っているかどうかはやや疑問。あと著者が分かり

ませんでした…

●もぎたて新聞（著：T.ルナ＝？　頁数：4）

漫画ではなく文章です。当時人気だった某アイドルやロリコン写真集、マンガなどについて縦横無尽に語っています。

●だれもしランドファンタジー（著：あ～さ～・ゆ～ばん＝孤ノ間和歩先生、頁数：5）

【ストーリー概要】平凡な男が美少女をほしがっていると**リヤカーの美少女屋**が売ってくる（笑）。けも耳シッポで裸のロリ美少女に興奮する男。



『シベール』vol.3　27　頁一部　引用中の最後のコマ、男の性器が明示されていない点に注目

男は美少女を押さえつけて**一発決める（！！）**。「ああ……っ…」「終了　もっぺんいけるかな？」　2 発目に突入。「いってしまった　2ページで2回も」(メタいのう)。終わった後、落ち着いてよく見ると耳やシッポがあっていぶかしがる男だが、突然登場の謎の**天パ男**の催眠術？　で普通の少女と思い込み 3 発目。そこに**チリ紙交換業者**が「やりたての美少女をチリ紙とコーカンします」とやって来る（笑）。　**＊＊以下ネタバレ＊＊**

男は美少女をチリ紙と交換する（すんなっつーの）。怪しく微笑む少女。森に帰ると美少女屋・天パ男・チリ紙交換業者の男達が。「ハイ…みんなごくろーさま」　美少女の合図で男達は元の姿……カメなどの動物に戻る。少女と動物らは去っていく。「こうして……今日も妖精たちはその子孫を後世に伝うべく人知れずにその使命をはたしていずくともなく去っていくのであった」

【評価】この作品は『シベール』の歴史上**記念すべきもの**です。この作品で、初めて「男性器が女性器に挿入」されたのです！　(「！」つけることかっての）すなわち、**セックスが最後まで完遂された**のです[11]。第 2 号までは愛撫・ク××程度で挿入はなかったのですが、この作品及び次に紹介する「エレネアの子ら」で、ついに少女の処女性が破られる行為が描かれたのです。

米沢〔『シベール』は〕最初からロリコン漫画っていうコンセプトなの？

沖　そうですね。今に比べればかわいらしいものですけども。

計奈　孤ノ間（和歩）さんかな。最初に（性器を）全部入れちゃったのは。

『コミックマーケット30's ファイル』青林工藝舎、242 頁

上の引用部分で語られているように、『シベール』で最初に性器の挿入（性行為）を描写したのは孤ノ間和歩先生でした。この号から徐々に性描写のレベルが高くなります。

もっとも、挿入箇所のアップなどはやはり存在しません。前掲の引用部分でも男が性器に話しかけているコマでは下半身がトリミン

グされ上半身しか描かれていません。現在のエロ漫画ならペニスが描かれる可能性が高い（当然モザイク又は黒線等での修正は入りますが……）。2 発目実行中の描写は以下のようなもので、女性器とその周辺は白抜きにされ、見えなくなっています。前号と同様にエロ描写のレベルはソフトなままです。また、この状況では男と少女が抱き合っているようですが、男の姿は省略されています。現在のエロ漫画でも見られる手法が、この時点で存在していたのは興味深いです。



『シベール』vol.3 28 頁 1 コマ目（大丈夫かなこれ……本誌が成年向けにならないことを祈る）

話の雰囲気も本号の他作品にみられる破滅志向な点や暗さがなく、楽しくてほのぼのしています。

●エレネアの子ら（著：いぬねこうさぎざえもん＝豊島ゆーさく先生　頁数：8）

【ストーリー概要】惑星エレネアの上空で文明を調査中の調査艇ダイム。調査員？　の男はサンプルとして捕獲した同惑星の住人（裸の幼女 2 名。言葉は話さず始終エロ行為ばかり）にズボンを脱がされ怒り。幼女らはレーザーペンを使ってまぐわい、男は再度怒る。「全くなりは小さいくせにサカリばっかりつきやがって……　しかし何故こんな始終サカってるガキどもにあんな文明が築けたんだ……？」（**伏線的セリフ**）　幼女に誘惑され、性欲を抑えるつもりで鎮静剤を注射したと思ったら興奮剤。幼女らに迫られ理性が崩壊し何発も決めまくる男。新しいサンプル確保のため惑星に着陸したところ、何者かに銃をつきつけられ……

【評価】この作品でも「男性器が女性器に挿入」されています。ただし、61 頁引用のコマのように、結合部分はやはりトリミングされています。豊島先生の丁寧な作画、緻密な書き込み、可愛らしいタッチの幼女たち、そして意外性のある物語（実は幼女たちは知能が高く男の言葉を容易に理解・習得していた……）が光ります。ストーリーの核心部分と、最後のコマのある種“楽屋落ち”的なオチの内容はネタバレ防止のため あえて書きません。ご了承ください。

●なんだかとってもイラスト展（著：羅留下有介、あ～さ～・ゆ～ばん、魔化留奈ルナ、いぬねこうさぎざえもん　の各先生方、頁数：計 8）

今号参加の各先生方のイラスト集です。各先生方につきイラスト 1 ページ及びフリートーク 1 ページずつの構成。

沖先生はユニコーンにまたがる裸の幼女イラストと、「美少女のおろし方」という少女の脱がせ方・犯し方等を記したブラックなエッセイ（最後の後始末で「**現金をつかませる**のが最も効果的な様です」とあってツッコミ

不可避）。

孤ノ間先生は SF＋ファンタジー的なイラスト（少女の超ロングヘアやアクセサリー等の書き込みと怪しげな表情が素晴らしい！）と「**絵が弓月光そっくり**なので変えようとして頭身を下げたらロリコンと言われた」という話題[12] のエッセイ。

計奈先生は蝶の羽をもつ少女のイラスト（気が遠くなるほど多数の点描で描かれた羽に圧倒。先生の情念が伺えます）と「眠れないとき美少女を数える」というエッセイ。

豊島先生は「君は何を見ているのかな？」と銘打った いたいけな幼女が寝室で星空をみつめるイラストと好きなアニメキャラ紹介文章（幼女の裸イラスト含む）。キッカ・おちゃめ・テンプルちゃん・さよちゃん・ハイジ（豊島先生が「やはり最高！！私にとっては天使どころかこの世の究極、最大の至福！」と評している）・スー（これのみ絵がない）。

いずれのイラストも各先生の思い入れや技術が発揮されていて楽しめました。

●赤い風（著：にせ海がめ＝吾妻先生　頁数：5）

【ストーリー概要】「未来少年コナン」のラナっぽいおさげ少女（「こーちゃん」「みーちゃん」「るー」の三つの人格が内在。作品最終ページの引用コマでそれがわかる）。

少女は自分の意志で体を動かせておらず、悪人の超能力者？　の力でどこかの部屋に導かれる。悪人の力で剥かれ犯されそうになるが、その瞬間「るー」の人格が発現、超能力で危機を脱する。「出たなおまえをさがしてた」「そう　あんたの汚らしい計画にわたしの力がじゃまだったわけね」「そうだ支配者は一人でたくさんだ」

激しい超能力バトル。悪人の力はなぜかるーには効かず……



『シベール』vol.3 52 頁 5 コマ目

【評価】やはり吾妻先生の漫画だけあって女の子の可愛さは一級品ですが、いかんせん短いページ内にいろいろと詰め込まれていてあわただしい印象の話です。もっとページ数を多くして「支配者」などの不明確な点を明らかにしてほしかった。vol.3 作成中も先生はお忙しかったのでしょうか。

【細かい点】最後のコマの行動から推測するに、るーは異常な淫乱？

●作者アンケート・奥付（吾妻先生執筆？）

各著者に年齢や職業及び「童貞か否か」などを聞いたアンケート（ネタ回答ばかりです）と「シベール編集部では同好の士を求めています。気楽に御参加下さい　**原稿料は出ません**が〔略〕」との記述からなる奥付。やはり

シベールでは原稿料を出していなかったようです。もっとも、昔の同人誌では原稿料という概念がありえなかったのかもしれません。

●vol.3 総評

vol.2 と同様、当時の漫画の描き方は現在の漫画とはかなり異なっており、断ち切りはほとんど使用されていません。

同じ記述の繰り返しになりますが、この号でも**エロ描写は現在のエロ漫画等と比較して明らかに抑制気味**です。『シベール』では、エロはあくまで付随的な要素であり、「いかにしてキャラを可愛らしく見せるか」という点や、計奈・豊島各先生方の作品に見られるように、「オチをつけること」や「ストーリーの面白さ」など、マンガとしての美点を要諦としていたのです。'80 年代半ば以降に出回ったエロ同人誌の一部（すべてではない）がひたすらセックス・性器露出・過激な描写などに走った[13] のとは対照的です。

vol.4

発行日：1980/5　B5、オフセット誌、46 頁、定価 300 円。



『シベール』vol.4 1 頁（扉）沖由佳雄先生

●だれもしランドファンタジー2（著：きくらげ・しめじ＝孤ノ間和歩先生、頁数：5）

【ストーリー概要】ぼろいアパートの一室らしき場所で平凡な男がのべ～～…と寝ているとノックが。入ってきたのは蟻の触角を頭につけた押し売りの美少女。「ペンギンのクンセイいりませんか？」　燻製をプレゼンする少女。しかし「いらんわい！！」と男はつれない。少女は脱ぎつつ「今なら…」「もれなく」



『シベール』vol.4 5 頁 1 コマ目 このコマ、『ふゅーじょんぷろだくと』'81 年 10 月号記事でも引用されていました。

「ついてきます❤❤」「わお」「おトクですよ」

興奮した男は少女と一発。結局燻製を買ってしまう。その後同様に蟻の触角つきのいろいろな美少女がコモド大トカゲやらカモノハシやらの燻製を持ってきては男に体を提供。男のところに多数の少女が……「ぬぎゃ～～！！」

【評価】前号とちがってややブラックな結末

です。　**＊＊以下ネタバレ＊＊**　少女らは軍隊アリの妖精で地上侵略をもくろんでいました。ばてた男は最後に引きずられ●●にされてしまいます（別に男は悪いことしていないので可哀想である）。男とまぐわってあえぐ少女たちの淫猥で切なげな表情、胸が平たい幼児の体つきの丁寧な描写など、前号と比較してエロチシズムの傾向が強くなっています。ですが、性器の露骨な描写はありません。

●ムーンパーティー（著：ビョンビョン＝森野うさぎ先生、頁数：6）

【ストーリー概要】あどけない女の子まなかが眠っていると裸の幼女に起こされる。まなかの飼っているウサギのラビが変身した姿だった。「私みたいにあなたに幸福にされた動物たちは一度だけ人間になれるの…　そしてその幸福にしてくれた人に同じくらいの幸福をかえすために〔略〕」ラビはまなかにキスし脱がし背後から……しかしまなかが痛がるのでク××に移行、絶頂に達する。「これはね人間ならだれでも　いいえ生きものならだれでもするの　けっしてわるいことじゃないわ！」何度も励む二人。夜が明けるとラビは兎に。そして……

【評価】森野先生初参加作品。絵本や童話のようなほんわかした世界観とストーリー、丸っこくて黒目がちな可愛らしい絵柄、そして女の子が自慰を覚えるという世界観と不釣り合いな内容。現在の男性向同人と比べれば非常に穏健で大人しいエロ描写です（性器アップなどなし、挿入なし、WRM が少し描いてある程度）。森野先生は当時「落書き程度はちょこちょこやってたんですが、漫画なんかこれっぽっちもやってなかった」[14] とのことですが、コマの配置やセリフなど読みやすく分かりやすいです。当初から漫画の才を発揮なさっていたようです。

【細かい点】「（自慰を）生きものならだれでもするの」とのことですが、じゃあ植物とかも……？（←性格の悪いツッコミである）

●シベールアニメ考 ACT1「あなたもアニメ貴族（プロ）になれるわけではない…？」（著：著者名なし。計奈恵先生？　頁数：1）

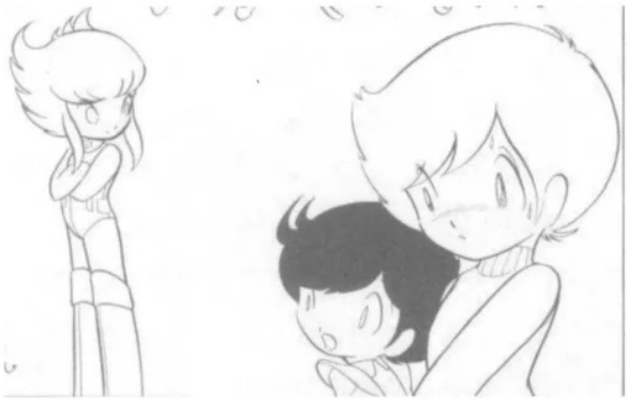
【評価】文章とイラストから成る記事。「美少女アニメセル搾取法」では、いろんなアニメセルを収集してどこぞのアニメ FC（ファンクラブ）に入会、注目を集めたら他メンバと交渉して美少女セルを大量にシャーク[15] し、速やかに FC から●●かるというエグい方法が紹介されています。「あなたもアニメ貴族(プロ)になれるわけではない…？」とは、旧『ぱふ』や『ふゅーじょんぷろだくと』誌で連載されていた「あなたもアニメーターになれるわけではない」という記事のパロディと思われます。

●ふらんていっくいんべいしょん（著：あっさむどらごん＝沖由佳雄先生　頁数：6）

【ストーリー概要】平和な家庭で母・中島栄（25 才）と娘・中島誉（10 才……？）が平和な食事中。窓の外を見ると空中戦。そしてエイ型宇宙船が窓に突っ込む。乗っていた少女（エヴァのプラグスーツ的宇宙服？着用）は怒りながら「我貴星ノ攻撃兵器ニ故無キ攻撃ヲ受ケリ」「我スケッグ星系シーア星連合空間艦隊第 2 水雷戦隊司令ストレラ少将ナリカカル未開ノ地ヘ決死ノ覚悟デ査察ニ来タレリ　従ッテ　急ヤカニ食事ヲ用意セラレタ

シ」とまくしたてる。「ほーほーそうですかおえらいこって」食事を提供しないので富士山が消滅させられる。ビビる母。「我々シーア人ハ**生物ノ快感ニヨル精神波**ヲ食物トスル〔以下、おおよそ皆様の推測通りなので省略〕」仕方なく**母子プレイ**。母がク××で誉を快感に導くと（**導くなよ**）ストレラ少将大興奮。しかし突然……

【評価】SF チックなドタバタ系のお話。沖先生は百合がお好みなのか、女の子同士のからみが多いです。この作品は vol2 の頃と比べて絵柄がやや変わっています（特に目の描き方にご注目。vol.2 のみかさちゃんの目の描き方と比較すると描線がシンプルになっている）。



『シベール』vol.4　15 頁 1 コマ目一部

何度も同じ記述で恐縮ですがエロ描写は控えめ。WRM がある程度でプレイ内容はク××程度。エロ有りのページが 1 ページだけで、他のページはエロがないという構成。

【細かい点】「中島」というのは中島飛行機株式会社（第二次大戦中、陸軍戦闘機「隼」等を製造していた）、「栄」「誉」は同社の航空エンジンが元ネタと思われます。沖先生のミリタリーマニア……

●REMEDY FOR LOLITA COMPLEX ロリコンの治し方（著：キベ・ル・ネテカ　頁数：2）

（文章記事。すみません、読みづらいのでレビュー省略）

●ジュンマネア（著：夢売人（アル）＝計奈恵先生　頁数：7）

【ストーリー概要】ベッドで星空をみつめる少女。そこへ閃光と共に童顔ユニコーン登場。「ぼくはウスク　行こうよ僕達の世界へ」ラム・ティランドなる「時の流れ　人の流れに押し流されない者にだけ見える世界」に導かれる。木陰で人間の姿になるウスク。少女ティオラはウスクと口づけをし裸で愛し合う。いつのまにかティオラに角と羽が……「違う…わ・わたしノワなんて名前じゃない…」「人間の世界を忘れるんだノワ　キミはラム・ティのノワだよ」

ユニコーンと化して 10 年、さまよっていたところ、ある少年と会うノワ。少年は「妖精を信じていた人」を語る。「泣き虫で絵本や人形としか遊ばない娘でね　10 年前神かくしにあったまま……　いじめてばかりいたんだ。けど…好きだったな…　ティオラをね」愕然とするノワ。そして……

【評価】おとぎ話のように誌的で美しく、しかし悲しい話です（ラストの内容はあえて書かない）。エアブラシ？　を使用したと思われる星空の細かく丁寧な描写（以下引用コマ参照）、少女の絶頂を葉の露が垂れ落ちる様子で抽象的に表す技法など、計奈恵先生の漫画技術の成長が読み取れます。



『シベール』vol.4 21 頁 2 コマ目以降

●地下鉄夜話（著：ふろむ・まかおめら＝？？ 頁数：5）

【ストーリー概要】アニメーターらしき男が地下鉄で帰路につき座席に座るが、全裸の女性車掌が……理性がふきとんでおっぱじめると……

【評価】すみません、この著者がどなたなのか特定できていません。吾妻先生のデビュー当時に近いタッチの絵、不条理な内容など、同先生の作品に影響されたフォロワーの作家と考えられます。ただ、いまいちよくわからない内容でした……（女性車掌がアンドロイドで、何者かが精神波による車両の同時制御をもくろんでいたようだが、快感が強すぎて暴走……という話らしい。そんな制御　非効率的すぎませんか）

●母さんの血（著：しかりすねずみざえもん＝豊島ゆーさく先生　頁数：6）

＊＊この項完全ネタバレ＊＊　【ストーリー概要】ピンクキャバレー。腹の出た男と親し気な若作りホステス。「小ネズミ達はもう寝たのか」「あの子達のことはここじゃいわないで頂だい」「いくら若く見せよったって二児の母親にゃあかわりねえよ」「それよかあんた今日はゆっくりしていけるんでしょ？」

安アパートの室に帰る兄。迎える幼い妹。「ごはんさめちゃった……」「いらねえよ」冷たい兄。一人で椀を口にする妹。「駅の南口でかあさん見たぞ　中年の男とふざけながらホテルに入ってった」

母が帰らないのを悲しむ妹。いらだつ兄……「うるせえ母さんが何しようと勝手だろ母さんの！　あれが母さんの商売なんだ！　俺だって…お前だって母さんにとっちゃただのお荷物でしかないんだよ！」

夜。布団で妹は涙ぐみ兄を見つめる。「いつまでもメソメソ」「ちがうの…さみしいのあたし……一人ぼっちじゃないでしょう！　あたし…きらわれてないでしょう！　おいてかないでおにいちゃん！さみしい！こわぁい！」妹に対する感情があふれる兄「みき！　ごめん…　お前は一人じゃない！　一人じゃないさ！」愛し合う兄妹。あえぐ妹を見て兄は気づく「やっぱり……俺にもお前にも　**母さんの血が流れているんだ！**」

【評価】シベール史上**最大の問題作**（失礼な言い方ですが）です。Wikipedia では「兄妹の近親相姦を劇画調に重苦しく描いたことでメンバー間で「意見の相異」を呼んだ作品」[16]と評されています。計奈恵先生の当時を振り返るツイートでは……

> 私的主観ではシベールの頃からのロリコン漫画が劇画寄りに 成ったのも やはりシベールの某作品〔「母さんの血」〕からなんですよ 恐らく当事者も忘れていると思いますけど漫画初

心者の 私には印象的な「意見の相異」がシベメンバーで起こりました 今 思い返すとリバウンドなのかなぁ？(；＾＾；)

https://twitter.com/kazunakei/status/784320483084734464

「意見の相違」とはこの作品がシベール向きかということのようです（計奈恵先生の他ツイートより）。なかなか難しい問題で、同様の作品ばかりでは変化がなくマンネリ化しますし、いろいろな雰囲気の作品が掲載された方がよいという考えもあります。もっとも、だからといって例えば**コロコロコミックに氏賀Ｙ太先生の作品がふさわしいか**というと……ですよね（極端な例です）。

この作品は何から何までこれまでの『シベール』掲載作と異なります。1 ページ目の劇画調の男女。やはり劇画タッチで描かれた兄（妹はこれまでの豊島先生のタッチだが）。母に顧みられない兄妹の辛さ・悲しさ、母の血＝淫蕩さを受け継いでいることに気づいてもお互いの体を求め続けてしまう二人……vol.3 までのほとんどの作品が明るく穏やかで安心して読めるものだったのに対して、「重苦しい」今作で当時の『シベール』ファンは激しく感情を揺すられたと思います。今読んでも同様に感じます。

芸術とは見る者等の感情を動かす（広い意味で“感動させる”）ものと考えています。どんなに辛く暗い内容であっても、この作品はその意味で真に芸術です。また、豊島先生の画力の高さ（1 ページ目の化粧の濃いケバい中年女を真に迫ったリアル調で描いた点など）、緻密な描写などに驚かされました。

なお、兄が最初妹に冷たくしていたのは、兄が実は妹に魅かれていてそれを隠すためだったのかもしれません。以下引用コマからも伺えます。なんだか『くりいむレモン』第 1 作のようです（注：この作品が『くりいむレモン』のパクリだといっているのではない。この作品の方が先である）。



『シベール』vol.4 39 頁 1,2,4,5 コマ
最初の兄の冷たい態度とこれらコマの優しい表情との対照。

【湿っぽい話】妹は「堕ろされる」ところだったという点で泣きそうになった（私も、経済的な理由で両親が堕胎を考えていたようで、最悪この世に生まれなかったかもしれなかったため）

●夢の少女（著：ぐりほん＝吾妻先生　頁数：7）

【ストーリー概要】何者かの夢の中（だからストーリーに整合性がない）。主人公（真っ

黒な人間として描写）が川で幼女にいたずらしたりしているうち、たたずむ案内人の少女に出会う。店に誘ったり手で性器を愛撫したりするが、主人公が他の人と話しているうち……

【評価】あの『純文学シリーズ』のような、シュールで不条理な作風です。性描写は以前と同様にかなり抑制気味（WRM が少し見えているだけでプレイは手マン程度。挿入もなし）。最後、主人公が夢から覚めたのか、本人も含めてあらゆるものが薄れていく描写に鳥肌が立ちました。吾妻先生の発想力はやはり尋常ではありません。

●奥付等（吾妻先生）

感想のおたよりを求めたり、執筆者の紹介をしたり。また、参加希望の方はカットをお送りくださいとしています。広く参加者を募っていたようです。

●vol.4 総評

vol.2 などと同様、漫画は断ち切りが使用されず（例外として、「母さんの血」では一部ページで断ち切りや変則的なコマ割りが使用されている）、性描写のレベルも現在の男性向エロ同人誌では考えられない程度の大人しさです。ほとんどの掲載作において、エロ行為はあくまで（陳腐な表現ですが）刺身のツマ的な存在であり、『シベール』において刺身本体として描かれたのは、ストーリーやキャラの魅力、そして愛や憎しみ、肉親への執着、別離の悲しさなどといった人間の感情のようです。

vol.5

発行日：1980/9　B5、80 頁、定価 400 円。



『シベール』vol.5 1 頁（扉）早坂未紀先生！

●フリーザ（著：じゃっく・ぱんぷきん＝早坂未紀先生　頁数：5）

（注：**戦闘力 530000 のあの人ではない**）

【ストーリー概要】林の中の水面で可憐に舞う、羽が生えた妖精のような少女（次ページ引用コマ参照）。覗く少年。気づく少女。遠くに離れて様子を伺い、少年が去ったのを確かめ、再び舞う。しかしまた少年が現れる。驚いて逃げようとするが、少年が花を差し出す。「これ…きみに」　親しくなる二人……

談笑するほど打ち解けたとき、少年が静かに口づけをしたのだが……

【評価】早坂先生の初参加作です。可憐な妖

精少女の優雅さ、線の美しさ、木々や水面など背景描写の達者さ。そして悲しい結末……（**エロ描写がまったくない**のが凄い）。



『シベール』vol.5 5頁 1コマ目一部

口づけによって純潔さを失った（推測）少女は羽を失い、股から血がしたたります（初潮を迎える＝大人になってしまったということ）。女性は成長することで少女としての美しさを失うという残酷な現実を、妖精に仮託する形で表した佳作です。

●学園無稽帳（著：久輪言＝沖由佳雄先生　頁数：9）

【ストーリー概要】ロングでリボンの少女・霞。実は忍者の末裔で刺客の襲撃も余裕で退ける。学園の忍者の長？　の狭霧（レズ）は霞を取り巻きにしたいと狙っている。「おのれ霞め必ずコレクションに加えてみせる」

続いて黒髪ツインテの刺客・朧（おぼろ）の襲撃。オボロ影の術（実はさんま焼いた煙に映像投射）を見破り、変移抜刀霞斬り（白土三平のカムイ外伝ですね）も破る。ついに狭霧自ら挑む。春花の術（麻酔薬を漂わせ相手を眠らせる忍術。これもカムイ外伝ネタ）を受け逃れる霞だったが……

【評価】白土三平先生の描く忍者漫画風の少女バトル漫画（血生臭くはないです）。**エロシーンが最後のページにしかなく**、大部分がギャグもまじえた忍者バトルです。沖先生は白土先生のファンでもあるのでしょうか。性描写はレズ（男の挿入は無し）・愛撫のみ。

絵柄（特に目の描き方）がvol.2～3のような縦長で線を密集させる形式に戻っています。この当時、沖先生はご自身の絵柄を模索されていたと推測します。



『シベール』vol.5 8頁 1コマ目一部

【細かい点】狭霧・朧・霞というのは旧日本海軍の駆逐艦が元ネタでしょう（主人公が「霞」というのはどうも「このクズ！」（艦これ）を連想するのでいただけませんが）。今回の変名「久輪言」は「くりんごん」（スタートレックの敵役）と思われます。また、

オボロ影で映る幻影の一つが「星雲賞をもらって踊る吾妻先生」だったのに笑。

●プラトニック ソルジャー（著：うにほやなまこ＝孤ノ間和歩先生　頁数：10）

【ストーリー概要】移民惑星クラウディナ。美少女・臣輪美多香（きみわみたか）と祖父（変人科学者）は基地？　の中でサイコエネルギー研究中。鉄を超能力？　で粉々にする美多香。美多香の腕に着けている増幅器の数値に異変があり（この意味は作品中で説明されていない）、祖父は焦って彼女を休ませる。うなされる美多香。そこへ謎のロボット襲撃。捕らえられる祖父、美多香の力は通じず苦戦。「美多香～！！こいつの急所を探してそこに精神を集中して一発でしとめろ！！」　文字通りの「急所」(笑)を渾身の一撃で貫きロボを倒すが、部屋に戻った美多香はのぼせ、股間が湿っている……激しく自らを慰める……　（続く）

【評価】超能力・メカ・バトル・H といった当時の「面白い」要素をぎっしり詰め込んだ作品。特筆すべきは、今までの孤ノ間先生の作品と異なり、ヒロインの頭身が明らかに上がっています（60 頁参照）。



『シベール』vol.5　19 頁 7 コマ目一部

また、一部シーンで鼻の穴を描いたりするなど、顔の描き方も劇画のタッチに近づいています。vol.4 豊島先生作品の影響なのでしょうか。あるいは内山亜紀先生の影響という可能性も。

少女キャラだけでなく、惑星やロボット・最終ページの敵宇宙船・敵のボス？　など、以前よりリアリティを増した緻密で達者な描写も光ります。『シベール』で作品を発表し続けた先生はプロレベルの実力を身に着けられたのでしょう。

【細かい点】最初のページで「みかさちゃんききいっぱつ」part1 の独白のパロディをしているのに大笑い。セルフパロがこの当時からあるとは思わなかったです（62 頁参照）。

【……】主人公の名前が「臣輪美多香（きみわみたか）」…　きびわ　みだが　あ”い”ーがー　まっｋ（以下 JA*RAC 対策のため削除）

●著者：美少女通信社　の文章

当時のある女性アイドルについて語った文章。生物（ナマモノ）[17] なので詳細は略。

●鏡の中のマリー（著：マドーラほしい＝森野うさぎ先生　頁数：8）

【ストーリー概要】ツインテぽい髪にリボンが可愛らしい少女マリー。おにいちゃまの帰りを待ち遠しく思っているが、鏡に触れた時その中の世界に吸い込まれる。ペンギンのような生物に会ったり、元の世界に帰るために「クリスタル」のもとに向かって旅したり。全裸に角の少女クリスタルは服を脱げという。からみあう二人。「なぜこんなこと…」「マリーがのぞんだから　おにいさんとこんなことしてみたいと思ったことがあるでしょ」

「この世界のものはあなたの心がかがみの中に作った想像の世界　だから怪物がでるとかと思うと…それは本当になるわ」本当に巨大な怪物が登場、捕まって秘所を責められるが、そのときマリーの想像が「あるもの」を発現させ……

【評価】不思議の国のアリスのような少女が異世界に迷い込むという話。ロリロリ体形でぱっちり目のマリーが可愛らしく、点描やカケアミ等を駆使して丁寧に描かれた作品世界が面白いです。漫画を描き始めたばかりの段階でこれだけの作品を作り出す森野先生の才にやや嫉妬しました（正直に書きます）。エロ描写は裸が描かれている程度。手での愛撫やWRM描写もありますが……。エッチ度は抑えめになっています。なお、最後のページに森野先生の近況やぼやきを記したコマがあり、「ばとー〔罵倒〕のてがみ　なみだがでました」とのこと。vol.4の作品に対するものでしょうか（「はげまし」も貰ったそうですが）。読者の批判は確かにこたえるよね…

●シベールアニメ考あくと 2（著：ガンバレクローバー＝計奈恵先生？　頁数：1）

アニメセル収集方法などのエッセイとフラウ・ボウやキッカ（成長後？）の可愛らしいイラスト（タッチから計奈恵先生と判断）。

●火星の赤い砂と白い肌（著：息鳴漠＝？　頁数：6）

【ストーリー概要】火星？　の館から脱走する「地球圏宇宙空軍」の兵士の男（低身長ハゲ・不細工系）。「なぜわたしたちをおいて逃げようとするの？おとうさま」美少女ロボットは男を創造者と思い込んでいる。キレた男は錯乱して下半身露出・いたずら開始。だが……

【評価】著者不明（情報いただければ幸いです）。丁寧な絵はいいのですがいまいちストーリーと主人公の行動が理解できず、またエロ度も低かったのが残念。舞台が火星でなければならないという必然性もないような気が……。評価が困難です。

●雨（著：リマジン・アルファ＝？？（vol.4「地下鉄夜話」のふろむ・まかおめら氏？）頁数：6）

【ストーリー概要】雨の音で眠りにつけない少女あずな（全裸）。部屋を出ると彼氏らしき光（ひかる）（昔の特撮戦隊風ヘルメットなど装備）がいる。二人で雨を見ているうち外に飛び出し冷える。「あたためてよ　あなたが…」ベッドで交わる二人。

【評価】「雨は人に時々やさしい」というテーマらしいですが、意外な展開などがなく平坦に話が進み続けるのがやや残念。また、主人公らがどういう立場なのか、主人公らは建物の中にいたのかそれとも宇宙船とかの中にいたのかなど不明確で、設定がよくわからなかったのも惜しいです（光の服装からSF的な話なのでしょうが）。現在の大部分の漫画では、1ページ目最初のコマで建物などを描き、主人公らがどのような場所にいるのかを読者に示してから話が進みますが、そのようなコマがないのでわかりにくくなっています。エロ描写は他作品とほぼ同じレベルです。

●ふろむ いんなあすぺぃす うぃず るぅあぶ（著：堂納豆聖＝計奈恵先生　頁数：10）

【ストーリー概要】双子の天才少女、形（け

い）と影（えい）（ともに**5才**）。「アトミック・ラム」なる美少女ヒーローに変身する力があり、死んだ父が残した研究を狙う悪の組織と戦っている。でも、今日はおねしょをして執事らしき人物に叱られてしまう。

夜、悪の組織の戦闘員（変な兎型仮面着用）達の（セコい）悪事を見つけ、物陰で二人は裸になり絡み合いあえぐ（そうしないと変身できないようです(笑)）。

絶頂？　とともに二人は変身、「公共のポスターを盗みあまつさえヨッパライもおどかすとは、このアトミックラムがゆるさん！」（あえぎつつ）



『シベール』vol.5 53 頁 3 コマ目 頬が紅潮し汗かいているのは直前まで変身前の二人がレズっていたため（不便なヒーローじゃのう(笑)）

悪組織のボスは怪物召喚。CM をはさみつつ戦闘。ラムはヌルヌル触手につかまり剥かれる。満悦するボス。ラム大ピンチだが、ボスの**ある言葉**で……

【評価】いわゆるヒーロー番組的なお話。ドタバタギャグあり戦闘ありピンチあり裸あり逆転ありと、ヒーローもののお約束をたっぷり詰め込んだ佳作。ラムのデザイン等すごく好みです。この作品もエロ（二人のレズ H）は数コマ程度で漫画全体に占める割合は少なく、メインはバトルシーンです。

それにしても二人でしないと変身できないというのも非効率的ですな……バロム 1 やウルトラマン A じゃあるまいし……

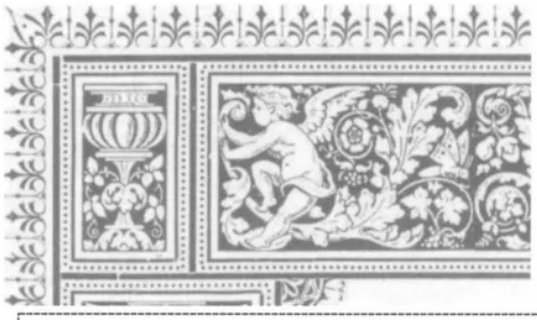
なお敵ボスのキャラは「吾妻先生が描く計奈恵先生」のように見えました。

●シベールアートギャラリー（イラスト集）

vol.5 参加各先生方の描くイラスト。vol.5 出色の出来です。「アートギャラリー」と銘打つだけあって、単にスカスカな裸の女の子のみ描いて終わりという手抜きなもの[18] ではなく、西洋絵画等で見られる緻密で壮麗なレリーフまたは額を配し、その中にイラストを描いています。例えば、計奈恵先生、ひろひろ先生のイラストより。



『シベール』vol.5 60 頁一部



『シベール』vol.5 61 頁一部 引用していない

が、女の子の髪ツヤなどの描き込みも圧巻

現在のように PC の効果や素材集などが使用できない状況ですので、これらを手で描いたと考えられます。気が遠くなるほどの大変な作業だったと思います（絵を描かない人にはこの大変さをいかに説明しても理解してもらえないんだよね……）。そして豊島先生のイラストは圧巻です。輝く太陽の下でたなびく雲と散る波、砂浜、舞う海鳥、海、その中ではしゃぐ幼女（裸）の生き生きとした表情など、あらゆる箇所に手を抜かず丁寧に描画され、同先生の技術と情熱が最大限に発揮されています。**え？　どんな絵か見たい？　無理です**[19]（裸だし WRM ありなので……）。

『シベール』が人気を博したのは、単にエロを描いたからではなく、漫画やイラストに対する誠意と信念があったためということを、このイラスト集は証明しています。

なお、早坂先生のイラスト、女の子がベッドで猫に大事な個所をなめさせていますが、**危険だと思う**（意味が解らない方は猫の舌の構造について調べてみてください）。

●我が国の TV アニメーションドラマにおける幼女キャラクターの魅力と人気についてささか極私的な考察（著：ふんぼるとぺんぎんかものほしざえもんあるまじろ＝豊島ゆーさく先生　頁数：7）

（豊島先生、**タイトルや変名はできる限り短くしていただけると幸いです**）

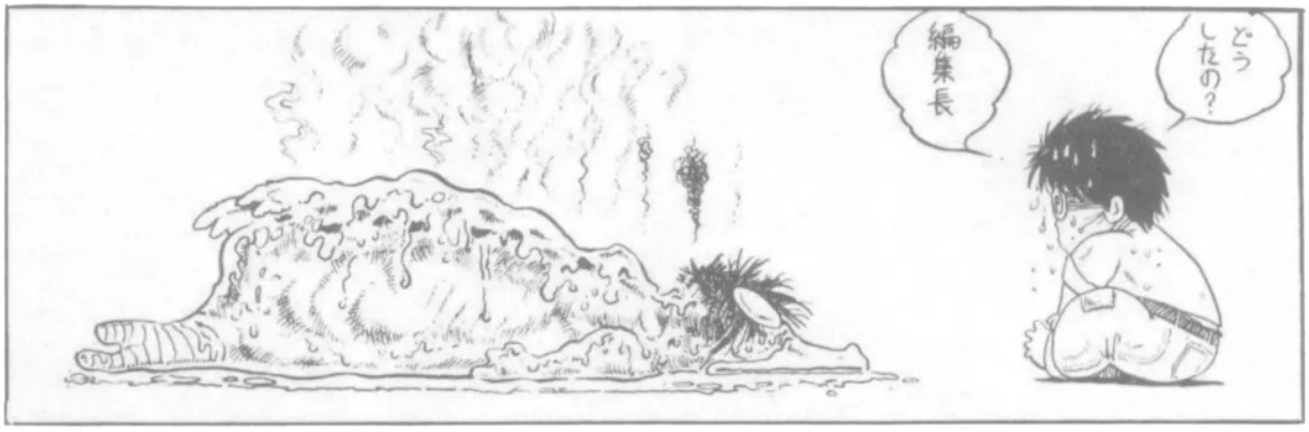
【ストーリー概要】（注：この作品はコマ間の整合性がまったく見られないので説明に難儀した）キッカ（パンツいっちょ…）、「アームロー！」と言いながら水放射。アムロ怒り追いかける。ストリップ劇場の前でしなを作るキッカ。ストリップ開始（……）。なぜか風呂場らしき場所で膝を抱え閲覧。乞食みたいな風貌のブライトも双眼鏡でガン見。「こんとこずっと……お見かけしないとおもっていたらずっとここにいらっしゃったんですか……」「うう」（「**殴って悪いか！」みたいな安易なネタに走らない**のはさすがです）なぜか**富野監督登場**、シベールらしき真っ黒の本を手にし湯気を立て怒り。キッカだけでなくアラレ等アニメ幼女キャラ**全員丸出しではしゃぐ**。「近頃都会で生きる者は精神病の 5 つや 6 つ持ってないとバカにされるらしいわよ」とセイラさん（しらたき）。マドーラ[20]達も登場、「ムダゴマつかうのもいいかげんにしてもらいたいのよね」といいながらメモル？　はリルピットと励む。「ふーりゅーねぇ…」　轟音と共に「話のスジがみえんっ！！」とイデオン登場、「ストーリーなんてある訳ないでしょっ！！」幼女化セイラさんも脱がされ……富野監督ブチギレてシベール編集部へのカチコミを決意、「ああ子ちょっと大泉[21] まで行ってくるよ」と銃を手に。



『シベール』vol.5 71 頁 5 コマ目
このコマ、『ふゅーじょんぷろだくと』’81 年 10

月号でも紹介されていました ギャグコマとはいえ、バックの描き込み・カケアミの丁寧さにも注目

マドーラも『綿の国星』ちび猫も痴態を披露。豊島先生が「てめー理性どこにおいてきた！！」という看板で殴られる。アバオアクー大爆発、舞台は変わって『シートン動物記りすのバナー』[22] のバナーとスー登場。二匹は**発情しておっぱじめる**が舞台は現実？　に切り替わり、ケモノキャラをノリノリで執筆中の豊島先生を編集長（沖先生。太ったカッパみたいな姿）が叱る[23]。「**きさま何やっとるか～～！！**」と激怒。「何ってシベに載っけるスケベマンガ描いてるのよ」「シ、シベールはロリコン漫画誌でしょっ！」豊島先生「**立派なロリコン漫画です！！**」きっぱり



おもしろ編集は死んでうみうし編集長になってしまった ―……

『シベール』vol.5 73 頁 3 コマ目

（『コミックマーケット 30’s ファイル』の「豊島ゆーさく。ペドで獣な人。〔略〕たががはずれた状態のパロディの破壊力はすさまじく、**沖氏がうみうしになる**ほど」は上のコマが元ネタ。それにしても、コミケット準備会は『シベール』読まないとわからんネタ書かないで下さい）

編集長の死を嘆く豊島先生。神に祈る。すると……

【評価】何が何だかよくわからないと思われた読者諸氏も多いと思いますが、すみません、**私にもよくわかりません**。ただコマの内容を忠実に説明していくとこうなりました（一部、キャラがわからないなどの理由で省略したコマもあります）。ガンダムをはじめとする当時のいろいろな人気アニメのキャラやネタをごったまぜに詰め込み、女の子キャラをとにかく可愛らしく描き、適度に H なことをさせた超怪作。ストーリーは完全に破綻しています。ただ、豊島先生の描写力と手抜きなし（格闘技用語でいうとセメント）の描き込みは圧巻です。バナーとスーの登場シーン（61 頁参照）の木々やその他各オブジェクトのリアル

な描写は、当時のプロの漫画家でもかなわないレベルです。

なお、エロ描写も今までどおり控え目です。交合シーンではトリミングや看板などによって、下半身等は隠されています（以下引用コマ参照、他のコマも同様）。



『シベール』vol.5 71 頁 9 コマ目（元ネタ不明。聖悠紀先生作品？）

この当時のアニメファンの若い人たちがこの作品を読んだときの興奮と熱狂はいかほどのものだったか想像がつきません。この作品は vol.5 の中でも大人気だったようです。

それにしても、**どこが「考察」なのでしょうか。**

●10 月の空（著：どーどー＝吾妻先生　頁数：5）

【ストーリー概要】校舎の裏？　で座っている黒長髪ウェーブの不良っぽい少女。眼鏡少年が「吉川くん　君誰とでもねるってホント？」少年は万札を出し頼む。「まけとくか」金を受け取り体育倉庫へ。

「ほらいいわよ」「なんだか落ちつかないなー」「するのしないの！」少年は少女を押し倒しあせりながら愛撫、パンツに手を入れる……童貞らしい仕草。我に返った少年、やめようとするが「えんりょしちゃだめよお金払ったんだから」少女は口で奉仕。邪魔が入って二人は屋上へ。少女は少年を仰向けにし騎乗位で……。行為が終わり……

【評価】端的にいうと少年と少女の売春 SEX です。以前の作品より理解しやすいストーリー。この少女はおそらく高校生なのでロリコンの対象年齢とはやや外れますが、こういう作品もシベールでは許容されていたのでしょうか。行為後、少年が少女にプレゼントしたのが「おたよりセット」。少女に似つかわしくないですが素直に受け取ってくれるし、最後まで少年に奉仕してくれています。一見キツくて怖そうだけど、根はいい子なのでしょうか。

●うわさ・奥付等（吾妻先生）

各メンバーの紹介や「どの人のあの作品がどーのこーのとゆーようなことをお願いします　感想送ってくれた人には抽選で**御希望の美少女をシベールさせます**です〔注・御希望のアニメ・まんがのキャラクターを御指定下さい〕」という、読者の感想を求める告知文など。通信販売のお知らせも。

総合的評価

『シベール』vol.1～vol.5 までを読んだ時点での総合的評価です。

【性描写（現代の男性向本との比較）】

- 性描写は抑制的。
  - 性器描写…WRM はあるがその中身（陰唇やクリ（略）など）の明確な描写はなし。男性器もほとんどなし（vol.1 の黒塗りは例外）。モザイクもなし（当時は PC を使用していないので当然だが）。黒塗り・白ヌキ修正もほとんどなし。
  - 結合部等描写…なし。男女が重なり合っているとき、性器や下半身はコマ外に配置されるか、布団等に隠されている。レズ行為での手マンやク××もコマ内に描かれていない場合が多い。挿入そのものがない作品も多い。
  - アブノーマル描写（SM、ア×ル、猟奇など）…ほとんどなし。
  - ページ中に性器や性行為が占める割合…少ない。
  - 性器等のアップコマ…なし。
  - 全ページ中、性行為のページとそれ以外のページの比率…1：9 から 2：8（現代の男性向本でこのような比率のものは少ない）

【漫画の構成・テーマ等】

- 断ち切り…ほとんどなし。現在の男性向本では大部分のページで断ち切りがある[24]。
- オリジナル傾向が強い（パロディも許容されているが、基本的には著者のオリジナルキャラとストーリーで構成される）
- 主眼は、「キャラの可愛さ」「適度な H 度」「意外性やオチのあるお話」「ストーリーの面白さ」「人間の感情」

以下、実際に読んでみた感想です。過激さ・エロさ・即物的な「抜けるか」という点では、『シベール』は現代の男性向本と比べて明らかに（失礼ですが）劣っています。性欲旺盛な男子中高せ……あ、中高生はあかんね……その、若い人らに、『シベール』と現在の有名サークルの男性向本を渡して感想を聞くと、おそらく大多数は現在の本の方が抜けると答えると思います。しかし、「考えさせられる」「心に（印象に）残る」そして「この本を手元に残しておきたい」という点では『シベール』の方が勝っていると思います。

なお、以上は『シベール』当時と比較して、使用できる機材の性能や漫画・イラストの技術等が格段に向上し、インターネット上には無修正のエロ動画や質の高い二次創作イラスト等があふれている、現在の観点での評価です。'79～'81 年当時の中高生や若い方がはじめて『シベール』を読んだとき、**「アニメ調の絵で H なことをやっている」というコペ転的な漫画やイラストが、どれだけ印象的だった**でしょうか。まさに当時としては「神」レベルの存在が現れたのです。

さて、次章以降では当時の『シベール』への評価、『シベール』に影響を受けて生まれたロリコン同人誌等、そして『シベール』に誘発されたロリコンブームがおたく業界等に与えた影響と各種コンテンツを見ていきます。

---

[1] なぜ 5 号＝vol.5 までなのかというと、〆切、時間の制約、vol.6 以降のレビューは本誌の増補版のネタにしたいという欲望（……）などの理由による。ご了承下さい

[2] 3 月末までの時点で米澤嘉博記念図書館に行っていればよかったのだが、仕事等のため無理でした

[3] この作品の7ページ目1コマ目で、毛虫のモノが赤ずきんの女性器に入っている可能性はあるが、アップになっていないのでよくわからなかった

[4] この映画というのが18歳未満も入場できるロリータポルノ映画の『リトル・プリテンダー』なのが……ギャグがきついっす沖先生（笑）

[5] 私見ですが、part1のみかさちゃんの目は陸奥A子先生の絵に類似していると思います

[6] すみません、現在の知識では元ネタがわからなかった……（ネットで調べれば出てくるのだろうが）降間はこの程度の人間です

[7] 秋津洲型の「千早」（未成）の可能性もある

[8] 『女王陛下のプティアンジェ』の主人公

[9] 自分でアナログ形式の漫画を描いたことのある人ならわかると思いますが、スクリーントーンを絵の形に合わせて切り、線に正確に合わせて貼って上からヘラでごしごしして定着させ、場合によってはカッター等で削って光・ツヤ的な表現をしたりするのってものすごく面倒なんですよ……（降間も書いたことがあるからわかる）

[10] 『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』 阿島俊、23頁「「シベール」は、パロディとお遊び、**そして正しくマンガの面白さで**少しずつロリコンの病原菌をばらまいていったのである。」

[11] vol.3収録の沖先生作品でも少女の住む家が娼館で客をとらされているようだったが、挿入行為までは描かれていない。

[12] 弓月光先生は1960年代後半から少女漫画の分野で活躍されている。孤ノ間先生の絵柄にもやはり少女漫画の影響があると推定される。

[13] 私＝降間もストーリーを考える能力がなく、似たような本を多数出しているので偉そうなことは言えぬが

[14] 『同人漫画大百科』、辰巳出版、115頁

[15] Magic：the Gatheringというトレーディングカードゲームで、知識に乏しい人にトレードをもちかけ、自分の安い（弱い）カードとその人の持つ高価（強力な）カードとを交換する強欲な行為のこと。ここでは、自分の少ないセルと相手の多量のセルとを交換するという意味である

[16] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

[17] 生物＝現実の歌手やタレント等のパロディ（やおいやエロも含む）のこと。

[18] 『シベール』以降、後追いの志の低いサークルが出した（失礼な言い方だが）やや低品質の本には、そのような手抜き的イラストがかなりあったようである。

[19] 乳首等に黒ベタ修正を入れて引用しようかとも考えたが、この絵に私ごときが手を加えるのは失礼と判断した

[20] アニメ『ムーの白鯨』のヒロイン

[21] シベール編集部＝無気力プロ（吾妻先生の仕事場）があった練馬区西大泉のことだろう

[22] '79年にテレ朝で放送されていた動物系アニメ。

[23] 沖先生は『シベール』にはロリ以外＝ケモノ等特殊性癖はあまり描かせたくなかったようである（vol.2豊島先生のエッセイから推測）

[24] 統計的根拠はなく、私の主観です

■第3章補足　①　『シベール』メンバーの絵と少女マンガとの関連性

当時の人気少女漫画(竹宮恵子先生)の例



『SFファンタジア1地上編』学習研究社、101頁、
竹宮恵子『夢見るマーズポート』2コマ目

少女漫画の「美少女」の特徴はとにかく目に凝る。
目の中の光(ハイライト？)を大きく描き、
星のような模様も多数描く。目が単調では可愛くない。

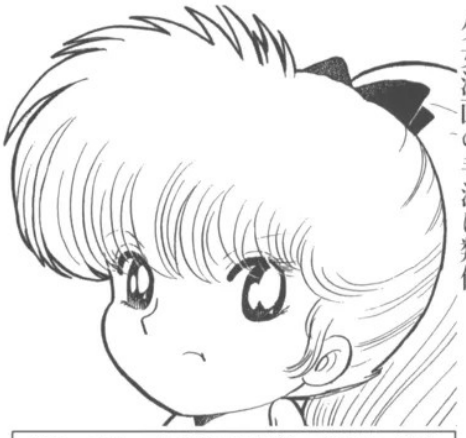
吾妻ひでお先生



初期の吾妻先生の絵
いわゆる手塚・石森
的な少年漫画タッチ

『総特集吾妻ひでお』
河出書房新社、203頁

『シベール』以降の吾妻先生の絵
目の中のハイライトの大きさ・数が
少女漫画の手法に類似



『ミャアちゃん官能写真集』表紙(一部)

孤ノ間和歩先生



孤ノ間和歩先生の美少女。やはり
目の描き方・ハイライトの大きさなど
少女漫画絵と近い

『アップル・パイ』徳間書店、103頁

「かわいさ」と少女マンガの絵の関係を示した藤田尚氏の文章(『おたくの本』所収)

男性雑誌の『GORO』を眺めていても“少女マンガ”にお目にかかることができる。〔略〕目の中にはいろんな形で光が映り込んでいる。単純にフラッシュがひとつ反射しているのもあれば、〔略〕蛍光灯の光のようなものが長く映り込んでいるものまである。これが“少女マンガ”でなくてなんであろう。
〔略〕〔素人の少女を撮った写真集について〕撮り方が悪くて、目に光が入っていないのでたんなる黒目になってしまっている。これもまた、表情をなんとなく暗いものにしてしまっているのである。少女マンガは正しかった。目は大きくパッチリと、かつ月や星が入っていなければならない。「かわいい」というのは、いかに少女マンガに近づくか、だったのだ。

『おたくの本』JICC出版局、127～128頁

■第3章補足　②　『シベール』の性描写、断ち切り、その他



●『シベール』vol.2 17頁(一部)
みかさは胸?をなめられた後
股間に次女の顔を埋められて
いる(ク××されている)が、
肝心な部分がコマ外にあって
全然描かれていない。
当初の描写はこのレベルである。

(最初見た時「え？こんな『エロくなくて』いいの？」と思った)



●『シベール』vol.2 21頁。(灰色の枠はページ境界を明示するためにつけたもの)　ページの端にコマの上下左右いずれかが達する状態を「断ち切り」というが、そうなっていないことがわかる。



●『シベール』vol.5 17頁一部(孤ノ間和歩先生「プラトニック・ソルジャー」)
vol.2～4の同先生の女の子キャラと比較すると明らかに頭身が高くなっている。

■第3章補足　③　『シベール』の性描写(続)、豊島ゆーさく先生の凄さ



●『シベール』vol.3 34頁2〜3コマ目。本誌60ページ 沖先生の描写と同様、
結合部分(←かくなっ)はコマ外にはずれていて見えない。
当時は「結合部分は描いてはいけない」的なタブーが(三流劇画等でも)出版業界にあったのか？
それとも結合部分や性器を描くという発想がなかったのか？
まだこの謎については解明できていません(結合をモロに描き始めたサークルの特定も
今後の課題です)



●『シベール』vol.5 72頁5コマ目。手前の木・枝の質感、細かい線(ここにはスクリーントーンを使用していないことに注目！)バックの山々や雲・木々の描写。カケアミや斜線を駆使した丁寧で地道な
描き込み。超絶テクで描かれた背景の凄さ(当時のプロ漫画家でもここまでちゃんと描いている例はあまりないと考えられる)　そしてケモノ愛好家の先生の執念(笑)
なおこの次の3つのコマも紹介したかったが問題がありすぎるので控えます

■第3章補足　④『シベール』内セルフパロ（楽屋落ち？）





●『シベール』vol.2 13頁2～4コマ目（4コマ目の位置を変更している）
「彼女……は幼くして両親を亡くし……」
「嗚呼なんどあわれな彼女の運…」
「まるで＊＊＊＊の○○○○ね」
「無能！」







●『シベール』vol.5 17頁1～3コマ目
見ての通り、左の展開のパロディ（笑）
同人サークル内でこういうセルフ？パロができるという関係がうらやましい
（私＝降間は個人活動ばかりのため）
みかさちゃん愛されてるよね

第４章　大地母神への評価
――シベール刊行当時の商業誌での評価

そこでイザナギの命が驚いて逃げてお還りになる時にイザナミの命は「わたしに辱をお見せになつた」と言つて黄泉の國の魔女を遣つて追わせました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

この章では、シベール創刊から終刊までの間（'79/4～'81/4）に、その内容やロリコンについて取り上げた商業誌の記事を確認します。

●アニメック第17号（1981年4月）「“ろ”はロリータの“ろ”」

この『アニメック』誌第17号の記事は、のちに志水一夫氏が「その後のいわゆる「ロリコン・ファンジン・ブーム」の方向を決定づけた、あるいは予言した、**一つのエポック**であった」[1]と評価しています。この記事で誘発された次の点により、以後のロリコンブームの方向性に影響が与えられるとともに、「ロリコン」という言葉に様々な新しい意味が付け加えられたのです。

- アニメ美少女キャラを好む者（“二次元コンプレックス”または“アニメ美少女ファン”）がロリコンと呼ばれるようになった
- クラリス（『ルパン三世カリオストロの城』）の異常人気
- 『シベール』、『クラリスマガジン』の人気増加・売上拡大
- 三流劇画へのロリコンの影響
- SFとロリコンとの関係の明確化

この記事の内容の一部を紹介します。なお、『ルパン三世カリオストロの城』を以下『カリ城』と略します。

・22頁「ロリコン伯爵への鎮魂歌」

『カリ城』の絵コンテ等を示しつつ、同作品を「現代によみがえったファンタジィ」とし、クラリスを「“少女”を表現する最高のモチーフ」と評価しています。

・23頁「クラリスへのラブレター　前略❤クラリスさま」（結城まり[2]）

クラリスへのラブレターという体裁で彼女の魅力を語るという企画らしいのですが、このページ、**ものすごく恥ずい**です。なにしろ最初からこうですので……

こんにちは、クラリスさま🖤はじめてお便りします。

なぜか手がふるえています。あがってるのかな。そりゃそうですよね。あこがれのあなたに手紙を書くんですもの。

『アニメック』17号、23頁

……結城さん、**たのむからフィクション内の登場人物に話しかけないでください。ケツの穴が痒く**なります。

……って「ケツの穴が痒くなる」の意味がわからない方が多いと思いますので説明します。私が昔読んでいた『ファミコン通信』（現『ファミ通』）に連載されていた漫画『あんたっちゃぶる』（鈴木みそ先生）が元ネタです。この漫画、鈴木先生と編集者がいろいろなことに挑戦したりするギャグ業界漫画で、大好きでした。

『あんたっちゃぶる』連載39回「ハガキで

こんにちは」では、読者のおたよりについて紹介した後、「ぼくんとこにはさむいファンレターが来ないからいいやね」[3] と鈴木先生が言います。「ほらよく雑誌のおたよりコーナーにあるじゃん」「**鬼のように感情移入しまくってる**やつ」

その「さむいファンレター」の例として示されたコマが……



『あんたっちゃぶる②』鈴木みそ、アスキー出版局、57頁

こういう「漫画等の登場人物に話しかける形式のファンレター」の恥ずかしさに鈴木みそ先生は悶絶します。「ああ…**ケツの穴がかゆい！**」「（編集者）思わず読んでテレますな…」。自分も、こういうの子供のころから非常に恥ずかしく、なんかむずがゆくて嫌でした。鈴木先生も体をかきむしります。

「作者に言えよ！作者に」「登場人物に話しかけるなよぉ！」わかる！　わかります先生！　ほんと恥ずい！



『あんたっちゃぶる②』鈴木みそ、アスキー出版局、57頁

……さて、ケツの穴がかゆくなるのを我慢してこの「クラリスへのラブレター」を読んでいきます。

> あなたは私にとって理想の少女だってことでした。〔略〕全く汚れを知らない、無垢な心を持つあなたは、本当に私のあこがれでした。でも、ふと考えたのです。全々汚れていない人間なんて、この世にいるのだろうかって。だって私は、人間には必ず良い面と悪い面の両方があるものだと信じてるんですもの。だからこそ、“人間”なんだと。となると、あなたは人間ではないことになってしまいます。そんなっ！**それじゃ一体あなたは何者なんですか**!?

『アニメック』17号、23頁

いや、何者って、**アニメのキャラです**よ（たのむからアニメの理想化されたキャラを現実の人間と単純比較しないでください）。この記事、クラリスの良さを語ろうとしたのはわかりますが完全にダダすべりしてます。

「クラリス、あなたは私にとって夢なのです」
〔略〕
それは「カリオストロの城」というひとつの**まんが映画**から始まりました。私は一時間四十分の間夢を見、目覚めた時こう思ったのです。「**ああ、いい夢を見させてもらった**」と……。

『アニメック』17号、23頁

結城さん、もしかして**柳沢慎吾の親戚**ですか？　それにしても「まんが映画」って……「アニメ」という言葉はまだこの時点では一般的でなかったのでしょうか。

・27頁「はみだしファンタジン」

当時人気だった同人誌『クラリスMAGAZINE』及びさえぐさじゅん先生のサークル「三月館」、その他の同人誌の紹介記事です。『クラリス MAGAZINE』については第5章で詳述します。

・28〜31頁「名作アニメの少女たち」

アニメの美少女キャラを、設定資料の線画などと共に紹介しています。また、各キャラを「逆境に負けない強い子」、「メカにも乗れるギャル」「みんなに好かれるスター」の3タイプに分類しています。この頁で挙げられているのは……

①「逆境に負けない強い子」タイプ：ラナ（『未来少年コナン』）、ハイジ、クララ（以上『アルプスの少女ハイジ』）、シャルロット（『若草のシャルロット』）、アンジェ（『女王陛下のプティアンジェ』）、フィオリーナ（『母をたずねて三千里』）、ペリーヌ（『ペリーヌ物語』）など。

②「メカにも乗れるギャル」タイプ：マリ（『勇者ライディーン』）、南原ちずる（『コンバトラーV』）など

③「みんなに好かれるスター」タイプ：マッキー（敷島牧子。『鉄人28号』）など

『アニメック』のこの特集は、アニメの美少女キャラ及びアニメファンと「ロリコン」とを深く結びつけることになりました。また、この記事で紹介された大部分の女の子キャラは、他のアニメ誌等の同種記事でも取り上げられています。

なお、御三家（クラリス・ラナ・ヒルダ）のうち『アニメック』のこの特集ではヒルダに一切触れられていませんでした（ほかのアニメより古かったため外した？　それとも**声が市原悦子だった**から[4] か？）。

・32〜33頁「SFと少女愛好の双曲線」（安座上学）

この安座上学（あざがみ まなぶ）なるライターも正体不明です（検索しても一切情報が出てこない。誰かの捨てペンネームか）。安座上氏がアニメック編集部に出入りするようになると**ロリコンに多数遭遇した**という話を皮切りに、「帝都においてはロリコンでなければSFファンではない！」とします。

SFファンにロリコンが多いという実例をひとつ。TOKONVII（79年〔ママ。79年開催のSF大会は“MEICON3”のはず。TOKONVIIは80年〕SF大会）での26才のSFファンの体験だ。第1日目が終了し、合宿所からぬけだした彼は、浅草のポルノショップへ勇んで出撃した。**もちろんその手の輸入モノを求めて**である。

『アニメック』17号、32頁

「その手の輸入モノを求めて」って堂々としないでいただきたい。それにしても、「26才の SF ファン」ってこの安座上氏のことでは？（笑）　なお合宿所とは、参加者が宿泊する所です。SF 大会は一泊二日で行われるので、参加者はホテルなどに泊まることが多かったのです。

さてこの 26 才ファンが行った各店では「十才前後のモデルを使った本だけが売り切れ」になり、最後に立ち寄った露店でも 15 才までの本が売り切れ。

「あのー、10 才ぐらいの女の子の写真集ありませんかね――？」
「ああ、さっき**あんたと同じようなバッジ（SF 大会参加者用）つけた連中がみんな買いしめていった**よ。こっちに 18 才のがあるけどどうかね？無修正だよ～。」
「**いりませんよ。そんなの。**」
「みんなそう言うんだよね～。」

『アニメック』17 号、32 頁

これが事実なら SF 愛好者にはロリコンが多いということなのでしょうか……

これなどかなり極端な話であるが、読者諸君の間にも似たような伝説はいくつもあるはずだ。私はといえば、車を運転している際中〔ママ〕に**女子小学生の列に目を奪われ信号無視をやらかす輩や、意識的に女の子にぶつかっておいて「あ、ごめんね」などとかこつけて体に触れたがる**友人に囲まれる毎日。

『アニメック』17 号、32 頁

……お前ら全員逮捕されろマジで。

と、ともかく、安座上氏は次のように推測します。

・幼年時に性本能などに関する情動体験（女の子の性器を見せてもらうとか）を持ったことで原センス・オブ・ワンダー（その人の SF 性）が形成される
・成長後、SF に出会うことで意識下の情動体験の快感がよみがえり、SF 中毒になる（したがってロリコンファンは SF ファンにもなることが多い）

SF とロリコンを結びつけるこの記事の影響によって、「大学 SF 研を中心とするロリコンブームの SF ファンダム（同人誌界）への蔓延」[5] をもたらしたと、志水氏は主張しています。

・39～41 頁「吾妻ひでおの仕事場を訪ねて」

『アニメック』特派員の学生 2 名が吾妻先生の仕事場を訪れ、先生の作品等に関することを聞き出すインタビュー記事……なのですが、怒られることを承知でいうと**レベルが低い**です。吾妻先生が仕事で忙しく、作業しながらインタビューに答えたこともあってか、ロリコンに関する深い話などもなく、何だかよくわからないまま終わっているので詳細は省きます。アニメック誌は学生のバイトを多く起用していたようですが、その弊害が出ています。

・42～43 頁「おひとついかがのコーナー」

村祖俊一先生、中島史雄先生のそれぞれに対するインタビュー記事です。三流劇画界ですでにロリコン的表現を行っていたお二人に注目した点は良いと思います。気になった点

は……

中島〔略〕僕、もてなかったんだ。
Q〔インタビュアー〕 え、うそだー。（これはお世辞じゃないですよ）
中島 いや、もてなかったね。**男子の方がずうっと多い学校で……男子クラスで……だからオカマきらいだ。**
（この後のオカマについての会話は見苦しいので勝手ですが略します）
Q アニメックの読者に言いたいこと。
中島 ん一別に……あ、ある。子供は「男女共学」の学校に入れてあげよう。

『アニメック』17号、43頁

……何があったんですか中島先生……

・44頁「「シベール」って本当はナイーブなのだ　はみだしファンタジン PART2」

『シベール』について、その内容やメンバーについて触れた貴重な記事です。なお、無記名のため著者は不明です。

この記事では、当時（80年末のC16？）のコミケットでのロリコンファンジンの台頭について、「**自らのロリータ趣味を具体的な創造性に発展させてゆく**このムーブメント」は「いっそうの**したたかさを感じさせてくれる**」と好意的に評価しています。ロリコンやエロ表現があるからといってバカにしたり差別したりするのではなく、その創造性を評価しているのが重要です。たとえエロであっても**漫画やイラスト等を描いて本を作るというのは非常に大変なこと**であり（サークル活動をされている方ならわかるはず）、その労力を正当に評価していたのは特筆すべき点です。

コミケットに異変が起きている。例年なら人気アニメのファンジンに集中する客足が、昨年あたりから別方向に向きはじめているのだ。すなわち……**ロリコン・ファンジンの台頭**。昨年〔1980年〕12月に川崎市民プラザで開かれたコミケット〔C16〕では、**開場前からロリコン・ファンジンに長蛇の例ができ、会誌も早々に売り切れる**というケースが続出。そのパワーの前にはさすがの「ガンダム」も顔色なしといった風情であった。

『アニメック』17号、44頁

そして、『シベール』を「少女愛好家の間に「シベールする」という新語まで流行させた、ロリータ同人誌の草分け的存在」[6]と紹介しています。「シベールする」というのは、『シベール』第5号のあとがきで吾妻ひでお先生が「感想を送ってくれた人には抽選で**御希望の美少女をシベールさせます**です〔注・御希望のアニメ・まんがのキャラクターを御指定下さい〕」と記した[7]ことから流行った言葉です。おそらく「脱がす」、「エロいことをさせる」ということでしょう。

考えようによっては、シベールは非常に不本意な受け入れかたをされているようなのである。昨年、一部商業誌で紹介（中には無断でカットを使われたケースもあったとか）されたことによって、**何やらいかがわしい趣味を持った集団と勘違い**されてしまった。

『アニメック』17号、44頁

いや、「いかがわしい趣味を持った集団」というのは勘違いではなく**正しい**のでは？（笑）　一部商業誌とは『月刊 OUT』1980

年12月号などのことでしょう。

さて、この記事では『シベール』の内容だけでなく、“シベール編集部”のメンバーについても触れています。

> シベールはもともと**少女マンガを目指して組織された集団**だ。メンバーもマンガ家のアシスタントやアニメーターが多く、**画力や構成力もしっかりしている**。メンバーの中のエース級、堡藝紋〔沖由佳雄先生〕や鶸出矢嵐〔孤ノ間和歩先生〕氏はプロデビューを目標に修業中。**本当はとてもナイーブな集団**なのです。〔略〕シベールは美を求めるファンジンなのである。
>
> 『アニメック』17号、44頁

この「シベールは少女漫画を目指している」という点は重要です。第2章で既に触れましたが、吾妻先生が少女漫画の顔の絵を模写したことや、孤ノ間和歩先生の絵柄など、『シベール』参加者に対して少女漫画がもたらした影響を的確にとらえています。また「画力や構成力がしっかり」している点もうなずけます。この記事の著者は『シベール』を確かに読み、その内容を正しく理解したうえで評価をしています。他の雑誌と比較して“シベール編集部”に大きく肩入れしているので、もしかしたらこの著者は『シベール』のメンバーか、またはその関係者かもしれません。あと「ナイーブ」を**間違った意味で使用**している[8]のがほほえましい。

●月刊OUT '80年12月号　「病気の人のためのマンガ考現学」

米澤嘉博氏が当時の『月刊OUT』に連載していた漫画紹介記事です。この記事でも『シベール』について触れられていますが、その文字数は第2章で引用したようにわずか数十字で、具体的内容は示されていません。この記事では主に、「ロリコン」の定義やナボコフの小説、ロリコンのバリエーション及び当時の漫画業界における「ロリコンを刺激するマンガ作品」が紹介されています。弓月光、高橋留美子、中島史雄、内山亜紀、吾妻ひでおの各先生の作品が挙げられています。書店で容易に入手できるプロ漫画家の作品と異なり、この当時にコミケ以外で入手困難な同人誌の内容をあまり詳細に紹介しても、コミケに行けない読者にとっては不愉快だろうと考え、米澤氏は『シベール』を詳しく紹介するのを控えたのかもしれません。

さて、『シベール』の終刊後にロリコンブームはさらに活性化し、また同ブームについて商業雑誌等でも取り上げられ始めます。その経緯を以降の各章で見ていきます。

---

1 『アニメージュ増刊 アップル・パイ』 徳間書店、116頁

2 正体不明。「結城まり」で検索しても情報が出てこない。

3 『あんたっちゃぶる②』鈴木みそ、アスキー出版局、57頁。以降のセリフも同じ

4 すみません、冗談です。

5 『アニメージュ増刊 アップル・パイ』 徳間書店、116頁

6 『アニメック』17号、44頁

7 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

8 「ナイーブ」を「純粋」とか「傷つきやすい」とかの意味で用いるのは誤り。本来は「だまされやすい（馬鹿）」というニュアンスの言葉である。

イザナギの命が左の目をお洗いになつた時に御出現になつた神は天照らす大神、右の目をお洗いになつた時に御出現になつた神は月讀の命、鼻をお洗いになつた時に御出現になつた神はタケハヤスサノヲの命でありました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

『シベール』が終刊となったことで、ロリコンブームは衰えるか……と思いきや、さらに活発化します。その理由を、志水一夫氏はこう説明しています。

皮肉なことに**『シベール』の終刊は、むしろロリコン誌ブームを本格化・活発化させることになった。**これまでは、ブームといってもしょせんは「シベール・ブーム」であり、あるいは「クラマガ・ブーム」であった。その『クラマガ』がなくなり、『シベール』がなくなったのである。残ったのは「もっとクラマガを」「もっとシベールを」という声だけであった。**ポスト・シベールをねらい、あるいはポスト・クラマガをねらう人々が出てきた**ところで、何の不思議があろう。

『アニメージュ増刊　アップル・パイ』、徳間書店、117頁、原丸太“ロリコン同人誌レビュー”

『シベール』等がなくなったことで、同様のものを読みたいと志した他の多くのサークルがロリコン本を自ら発行するようになったため、ブームの勢いが更に増したのです。もしも、『シベール』がC17で終刊せず、その後もマンネリ化して人気が衰えるまでコミケで刊行され続けた場合、逆にロリコンブームはすぐ縮小していたかもしれません。皮肉なものです。

“シベール編集部”からの分岐

1981年4月のC17においてシベールは終刊となり、サークル「シベール編集部」も解消されたと考えられます。その後、同サークルの参加者はそれぞれ異なった道に進みました。「シベール編集部」から分化していった三つのサークルは次のとおりです。

・グループ601

沖先生は、自身のサークル「グループ601」[1]において、オリジナル非成年向漫画本『**エピカル**』（vol2のみ入手済。創刊号が見たい…）を刊行します（以下 エピカル vol2 表紙、筆者所有。原文の紙は茶色）。



主な参加者は沖由佳雄、孤ノ間和歩、豊島ゆーさく、計奈恵、三鷹公一の各先生方です。創刊号は1981年の冬コミである C19（推測）に刊行されたようです。

特徴としては、『シベール』とは異なり、エロ描写がない[2] ことです。SFまたはファンタジー路線の少年マンガ系作品のみとなっています。シベールではエロ満点で突っ走っていたのに、なぜエピカルではエロを排したの

かというと、「そろそろそれ〔可愛い女の子のエロ〕を卒業してやってみようか」[3] という思いがあったようです。同誌は 1983 年 4 月の C23 あたりで休刊となります[4]。

その後、グループ 601 は『制服コミック・Supreme』や『GRAND SLAM』（エロありオリジナル本）、『4.0』（同。“four point oh”と読む）などの本を刊行します。**同サークルは現在も活動されています**（！）。

グループ 601 の 20 周年を記念する同人誌『GROW UP』が 1998 年（！）に刊行されています（同サークルの活動開始は 1978 年ということで、シベール刊行よりも前にサークル結成されたことになります）。



（GROW UP 表紙、筆者所有。元はカラー）

この本では新田真子（しんだまね）先生、あろひろし先生、米澤嘉博氏、イワエモンこと故・岩田次夫氏など、プロ漫画家やコミケの主要スタッフも含めた錚々（そうそう）たる方々が寄稿されています。

・グループティンカーベル

豊島ゆーさく、三鷹公一の各先生方が主体となったサークルで、ファンタジー系漫画中心の『アスケロン』（未読）を刊行していました。現在の動向は不明です。

・Project Art Studio Baki（プロジェクトアートスタジオバキ）

森野うさぎ先生が中心となったサークルで、『TECHNO RORIA』というメカ少女イラスト本を刊行していました。『エピカル』と同時期に休刊[5]、サークルも開店休業状態になり、「スタジオAWAKE（アウォーク）」（森野先生、あさりよしとお先生らが中心）に移行、オリジナルアニメビデオ『AWAKE』を制作します。その資金を稼ぐためにコミケで各種の本を出していたとのことです。1985 年前半に刊行された同人誌『ん』の参加メンバーは森野うさぎ、I・N・U（豊島ゆーさく先生の別 PN）、くあTERO、あさりよしとお、ふじたゆきひさ、来留間明の各先生方[6] です。

『AWAKE』制作後、サークル「SYSTEM GZZY（ギジー）」に移行し、森野先生は『**遊裸戯（ゆらぎ）**』シリーズを刊行[7] します。「ちゃんとエロチシズムと少女をテーマにした「作品」が、**おそらく初めて同人誌界に誕生することになる**だろう」[8] と、米澤……い、いや、阿島俊氏が高く評価した名作シリーズのほか、『**学習漫画・保健４・女体のひみつ**』なる学習漫画パロの楽しいエロ同人を発行されるなど、硬軟織り交ぜた精力的な活動をされています。

（注：ここに“女体のひみつ”表紙を掲載する予定でしたが、**たとえ修正したとしてもとてもお見せ出来ない**と判断したため、掲載は控えさせていただきます。興味のあるかたは画像検索でもしてみて長介）

自分はお恥ずかしいことに『遊裸戯』シリーズは未見なので評価は控えますが、見つけたらぜひ読みたいと思っています。

「シベール」と同時期の本

シベール編集部と同時期に自分のサークルで活動していた蛭児神建氏は、サークル名を「アリスマニア集団キャロルハウス出版部」→「**変質社**」（……）と変えながら、次の本を刊行します。なお、以下の情報は、『アニメージュ増刊 アップル・パイ』の 116～117 頁に掲載された“ロリコン同人誌レビュー”（原丸太＝志水一夫氏）を基にしています。



http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconDoujinshiReview

『愛栗鼠（アリス）』…’78/12 創刊（創刊号のみ）。おそらく日本初（笑）のロリコン同人誌。小説メインでエロはないとのこと。蛭児神建氏すら現物を持っておられないため当然 降間も未所持。内容確認したい…

『ロリータ』…創刊号’79/4、第 2 号’79/7。第 2 号で終刊。吾妻先生などが寄稿。

『幼女嗜好』…’80/9 創刊、’81 年 10 月の時点で第 3 号まで刊行。ハード描写、SM、その他各種エロ描写あり小説本。臨時増刊号『SM ロリータ』も。



『漫画同人誌エトセトラ’82-’98 状況論とレビューで読むおたく史』26 頁、一部黒ベタ修正

……蛭児神先生、本がどんどんハードになってきてるんですが……。

これらの本によってファンを増やしていった蛭児神建氏。’82 年の春コミでは次のような人が出没するほどの人気となります。



『アニメージュ』、1982 年 5 月号、83 頁

……（ツッコみ不可能）…… なにが「ロリコンコレクター」か！ （クロネコというのはこの人のペンネーム？）

そして、蛭児神氏は『レモンピープル（以下、LP）』誌でライターとしてデビューし、さらに LP の追随誌『**プチパンドラ**』の編集長を務めますが、次のような事情により、おたく・出版業界から離れます[9]。

> 編集長ともなれば、売れることが第一前提だ。漫画家が不足すると同人誌から次々と引き抜く。作家自身がまだ未熟な状態でアマチュアの独善的な世界から卒業できていないから、作品も彼らの好みに偏ってしまう。プロ意識もないから、原稿の締め切りの無視や逃亡は日常茶飯事。〔略〕
> 「〔略〕ある時ふっと自分のいる世界そのものがグロテスクに見えてしかたがなくなったんです。〔略〕」
> 「〔略〕だから、私、おかしくなったんです。〔略〕結局、私自身、自己破産してしまった。最後の一年は、あちこちの雑誌や作家を名指しで非難し、えげつなくこきおろしてもうガタガタ。気が狂う寸前でした」

『別冊宝島 104 おたくの本』、1989 年、JICC 出版局、106 頁

そして、「仏門に入り、修行を終えて葬儀や互助会と契約する〔略〕「サラリーマン坊主」になった」[10] 蛭児神氏。『おたくの本』を読んだ方々は皆「あの蛭児神建が僧侶に！」と驚いたといいます。そして、2005 年に自身の半生を振り返った『出家日記 ある「おたく」の生涯』を出版されます。

シベールの子

シベールまたはロリコンブームの影響を受けて、1979 年以降に発行された各種の本（一部、**シベールとは独立で制作されたもの**もあり）について取り上げます。以下は、『ふゅーじょんぷろだくと』誌 1981 年 10 月号に掲載された“ロリコン同人誌界分布図の試み

ロリコンファンジンとは何か――その過去・現在・未来――”（原丸太＝志水一夫氏。以下、**“ロリコンファンジンとは何か”**と略）を参考にしています。この記事は、当時のロ

リコン同人誌の状況を理解する上で非常に参考になります。

“ロリコンファンジンとは何か”では、ロリコン誌の性質に関して**三つのベクトルがあり、そのうちの二つ以上が組み合わさっている**としています。

その３つのベクトルとは、x=メルヘンチックなあるいはオトメチックな、かわいいものに接したい（見たい、描きたい。以下同）。y=エロチックなあるいはまたセクシャルなものに接したい。z=（主にアニメの）ひいきのキャラクターに接したい。の３つである。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、“ロリコンファンジンとは何か”、92 頁

志水氏、いや原氏は「ロリコン誌登場以前は、この三方向はそれぞれにほぼ独立して存在」しており、**x 方向＝オトメチックイラスト中心ファンジン、y 方向＝ファンジンでは存在せず成人向劇画（いわゆる三流劇画、エロ劇画）**が該当、**z 方向＝通常のアニメ・ファンジン**であるとしています。ロリコン誌を三つのベクトルで分類するという方式は、原氏のドグマ（独善）というわけではなく、阿島俊氏（＝米澤嘉博氏）も同様の分類を行っています。『漫画同人誌エトセトラ’82-’98 状況論とレビューで読むおたく史』（以下、『エトセトラ』と略）の 22 頁。

〔ロリコン同人誌の〕方向性は大きく分けて 3 つあった。(A)一つは、少女という美学にこだわり、キャロル以来の流れにある「ロリータコンプレックス」という「少女妄想」をテーマに創作、研究などを行なう本。(B)ロリコンという言葉をもっと単純に捉えて、女の子の出てくるエッチなマンガ、エロマンガを描く方向。そして、(C)アニメやマンガの中に出てくる少女キャラクターを、男性の性的妄想をテコにパロディにする方向だ。

『エトセトラ』、阿島俊、久保書店、2004 年、22 頁。(A)、(B)、(C)と各下線は引用者が追加

上記の(A)は原氏の x 方向に、(B)は同 y 方向、(C)は同 z 方向（ただし y 方向も多少含む？）にそれぞれ該当します。原氏と同様の分類をしている人もいることから、この分類はおおむね妥当なのではないかと思います（ヨネやんが“ロリコンファンジンとは何か”を参考にした可能性もありますが）。

“ロリコンファンジンとは何か”では、ロリコン誌は x、y、z のうち二つ以上を合わせ持っているとしています。例えば『シベール』はx方向とy方向の両方を持ちます。原氏は、『シベール』のような同人誌を A 群、y 方向と z 方向を両方持つファンジンを B 群……のように分類しています。この三方向を表した模式図が、“ロリコンファンジンとは何か”に示されています[11]。ただし、この模式図は若干見づらく（失礼）、また志水氏が後に図の誤り（各軸は 120 度の角度で交わるのが正しいが、図では異なった角度になっていることなど）を認めておられる[12] ので、私（降間）の責任でベン図に書き直しました。89 ページをご覧ください。

上記 A 群などの各分類を次ページの表 1 にまとめました。

表1　“ロリコンファンジンとは何か”分類

群	説明
A群	x 方向＋y 方向。純粋ロリコン誌。ロリな女の子のエロ同人誌。 例：「シベール」、「ロータリー」
A’群	x 方向＋y 方向に若干 z 方向が加わる。総合ロリコン誌。比較的文章が多いのが特徴。 例：「愛栗鼠」、「プレザンス」
B群	y 方向＋z 方向。キャラ・ヌード誌。アニパロエロ同人誌。 例：「AMA」、「ヴィーナス」
B’群	x 方向＋y 方向＋z 方向。ロリキャラ専門キャラ・ヌード誌。 例：「アニベール」、「のんき」
C群	x 方向＋z 方向。アニメの少女キャラのファンジン（エロがない）。 例：「美少女自身」
C’群	x 方向（強）＋z 方向（弱）。特定の少女キャラを取り上げたファンジン。y 方向を含むものも。 例：「クラリス MAGAZINE」など

“ロリコンファンジンとは何か”で紹介されている主要な本を紹介します。

・A群

●『ロータリー』



サークル「ロータリークラブ」。1980 年 7 月創刊。「某デザイン学校の有志数名が『シベ』を見て、**「ワシらもこーゆーのやろーやないか！」**ということになり、最初はコピー誌として創刊。ところが、**3 号を同校の文化祭で販売した所、「学校上層部から、えらい圧力がかかりました」**」[13]

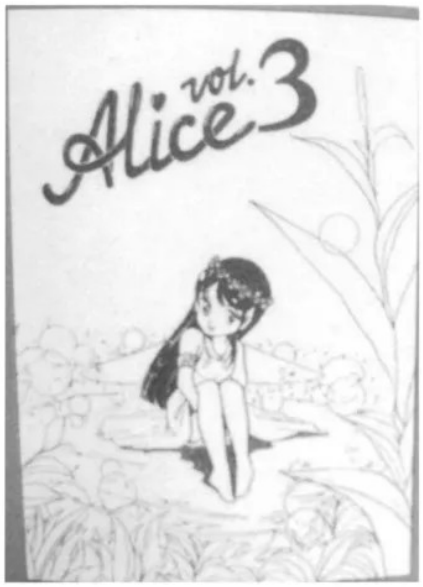
……学校の文化祭で売るな！（笑）

それはともかく、『シベール』を見て「自分たちもこういう本を作りたい」と思ったという点が重要です。『シベール』は明らかに新しいロリコン同人誌の創刊を誘発していたのです。

この『ロータリー』を頒布していた「ロータリークラブ」というサークルは、かなり長い間活動していたようです。『エトセトラ』227 頁、1993 年 6 月号でロータリークラブが活動を続けていると言われているので、少なくとも 13 年ほど活動していたことになります。単に「エロ同人誌を出して小遣い稼ぎしよう」といういいかげんな考えでは 13 年も活動を継続するのは難しいと思います。

『ロータリー』表紙画像は『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、93 頁、一部黒ベタで修正

●『Alice』



サークル「Alice 編集部」。81 年 8 月創刊。シベールメンバーなども参加した高クオリティのロリコン誌。表紙の絵だけを見ても、

絵のレベルが高く丁寧に書かれていることが読み取れます。

表紙画像『エトセトラ』37頁

●『人形姫』

サークル「サーカスマッドカプセル」。1980年12月創刊。ピグマリオンコンプレックスをテーマにした本です。「サーカスマッドカプセル」は、千之ナイフ先生、破李拳竜先生らが中心のサークルです。「もともとは前作った自主アニメに登場した少女サイボーグが仲間内でウケたので、それを中心としたファンジンを考えていた所に、『シベ』や当時のテクノ・ブームの影響を受けて」[14] 当該の内容になったとのこと。

●『ミャアちゃん官能写真集』

略称『ミャア官』。1981年8月発行。吾妻ひでお先生が「20世紀に発行した最後の同人誌」[15]。吾妻先生の漫画『スクラップ学園』の主人公・猫山美亜（愛称：ミャアちゃん）のヌードイラストや設定イラストなどが含まれます。C18（81年夏のコミケ）にて**1,600冊を6時間かけて**頒布したとのこと[16]。



この本はタイトルも含めて各所に影響を与え、アニメ等のキャラを脱がせるエロイラスト本が“○○官能写真集”なるタイトルで多数刊行されています。私が確認しただけでも『バービーちゃん官能写真集』、『マーズ&マーグ官能写真集』、『星一徹官能写真集』（笑）などがあります。

なお、Wikipediaの“シベール（同人誌）”のページに「当時のコミケ参加者は1万人規模であったが、**1日の頒布部数は未だ破られていない**」とありますが、私はこの記述に疑問を持っています。C翼（キャプテン翼ね）ブームの頃、尾崎南先生などの超人気サークルが1日に売ったC翼本の中に、この部数を超えているものがあると考えられるからです。『エトセトラ』153～154頁で、怒悪流（尾崎南先生のサークル）の『綺麗』なる本が「〔1989年の〕春コミで**5000以上**売った」との記述があることからも、以上の数値については今後検証が必要でしょう[17]。

なお、『ミャアちゃん官能写真集』は、復刊ドットコムが出版している『スクラップ学園 上』に全頁収録されているので、吾妻先生ファンの方は同書をぜひ。

『ミャアちゃん～』表紙画像は Underground Magazine Archives http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconFanzine より

・A’群

●『愛栗鼠』、『ロリータ』、『幼女嗜好』

前述の通り。

●『プレザンス』

サークル「シベールFC・ハンバート」。1981年4月に準備号、6月に創刊号。『シベール』のFC（ファンクラブ）ができていたというのもすごいですが、**この本の準備号が出た4月の春コミでシベールが終刊になった**のは可哀想としか言えません。シベール消滅後、サー

クル名を「ハンバート」とし、総合ロリコン誌に変わったようです。

・B群

●『AMA』

サークル「アニメニア・アーミー」。1979年12月創刊。81年7月の第4号で終刊したようです。『機動戦士ガンダム』の成人向け同人誌とのことです（降間は未所持）。

●『ヴィーナス』

サークル「ムーン・ライン製作室」。1981年5月創刊、同年11月の第3号で終刊とのこと。「ハッキリと「アニメ女性キャラクター・ヌード専門誌」を名乗った最初のファンジンだと思われる」[18] と原氏の評。「同誌は「アンチ・ロリコン」を謳ってはいるものの、それはあくまでタテマエで、**スカートのすそからロリコンが見え隠れ**している」とも志水先生……いや原氏は評していますが、“スカートのすそからロリコンが見え隠れ”ってどういう意味なんでしょうか（志水氏は亡くなっているのでもう確認は不可能ですが）。

●『お気に召すまま』

サークル名不明、アニメ評論本。「これまで**アニメに登場したヌード・シーンの特集**を行なっている。場面紹介及び数10枚の写真の他に、ABCの三段階表記による露出度、興奮度、必要度を評価し、また**そのシーンが掲載された出版物をほぼ完璧なまでに網羅した**入念なリスト」[19] を掲載した本。

ものすごく読みたいです（駿河屋とかに入らないかな……）。インターネットの動画配信サービスなどがない時代に、どうやってアニメの映像を保存したりしたのでしょうか。この本の制作には相当な労苦があったと思います。

・B’群

●『アニベール』

1981年4月。シベール編集部。極小部数のみ刊行されたコピー誌。

●『のんき』

サークル「おとぼけ企画」。1980年12月創刊。アニメキャラヌードイラスト系で、みやすのんき先生の本です。“ロリコンファンジンとは何か”で、志水先生はこの同人誌を次のように評しています。

> 『のんき』〔略〕は、創刊号でガンダム・ギャルズ・ヌード特集、2号でセイラ・マス特集、そして3号でロリコン特集（**ヒ、ヒルダちゃーん♥**）を行ない、もっぱらキャラ・ヌード路線を歩んでいる。
>
> 『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、“ロリコンファンジンとは何か”、94頁

落ち着いて下さい、志水先生。

『のんき』の内容については次のURL参照。https://twitter.com/pareorogas/status/1185502777314705408

・C群

『美少女自身・イマージュ・ソフィー』（サークル「EIRISHA」）、『CRA・CON』（宮崎駿ヒロイン特集誌）など。「マンガよりも文章やカットが主体となっているのが特徴」[20] とのことです。

・C’群

●『クラリス MAGAZINE』



「クラリスMAGAZINE」の表紙。繊細なイラスト陣でクラリスを脚色。

『アニメック』17 号（1981 年 4 月）、27 頁

この本については紙幅を大きくとって紹介します。なお、以下『クラマガ』と略します。

サークル「クラリス・マガジン編集室」（“ロリコンファンジンとは何か”より。ただし『アニメック』誌ではサークル名が“A・W・S・C”となっている）。1980 年 6 月[21] に創刊号が発行されました。同年 12 月に第 2 号。著者は「三賀通詐欺 Jr」、「鈴木麻子」名義ですが、本当の執筆者はさえぐさじゅん先生です。『ルパン三世 カリオストロの城』に登場する、**当時の超人気キャラ クラリスのイラスト等が収録された同人誌**で、エロはないそうです。この実物をぜひ読みたかったので探しましたところ、第 2 号のみあるルートで入手できました。折り畳み式ミニポスター（裏にクラリスのコスプレイラスト多数、メグちゃんなどに扮している）、猫耳少女クラリスのほのぼの漫画 1 点（『カリ城』とあまり関係ない内容ですが）、読者からの手紙紹介ページ、ゲスト（N.A 氏）イラスト 2 点など、さえぐさじゅん先生の緻密かつ繊細な書き込みで可愛いキャラが叙情的に描かれています（ただ、**手紙 1 通だけの紹介に 8 ページも使用しているのはどうなのでしょうか**）。



『クラリス MAGAZINE No2』12 頁

ちなみに本のサイズは B6 より少し小さいです（先入観で B5 だと思ってたので本が届いたとき小ささに驚いた（笑））。

『アニメック』17 号のロリコンブーム紹介記事「“ろ”はロリータの“ろ”」では、カリオストロの城とクラリスに多くのページ数を費やしています。その中で『クラマガ』が紹介されています。同誌 27 頁の「はみだしファンタジン」（同人誌紹介記事）では「帝都のロリコンなら持っていない人はいないという、「クラリス狂専誌」があるのです」、「三賀通詐欺 Jr さんと鈴木麻子さんのマンガやゲストのイラストが最高にかわいいんですよ」[22] と**べた褒め**。そして、『クラマガ』の

発行サークルとして、A・W・S・Cの責任者の話を紹介します。

A·W·S·C の責任者である通称**ムーミンパパ**〔こういうペンネームを名乗っていたようだ〕のお話しによると、「クラリスマガジン第 1 号は、去年〔1980 年〕の 6 月に発行しました。これが予想以上の大当りでびっくり。続いて第 2 号は、12 月発行です。12 月 14 日に川崎市民プラザで行われたコミケット〔C16〕では、**500 部用意したんですが、10 時半開場で 11 時 25 分には完売**してしまいました。現在 1 号 2 号とも在庫なしです」

『アニメック』17 号（1981 年 4 月）、27 頁

500 部が約 55 分で完売……**1 分当たり約 9.1 部**売れたことになります。1 部当たりだと約 6.6 秒で 1 部売れることに。うらやましいです（私＝降間の本もこのくらいのペースで……売れたら……いつも 1 冊も売れないことが……ううっ……）。すみません取り乱しました。

当時の『クラマガ』の人気は大変なものでした。シベールの第 7 号（最終号）も 1 時間で 500 部を売り切ったそうですが、それに匹敵する人気です。当時のアニメファンのクラリスにかける情熱はいかほどのものだったのでしょうか。

なお、『月刊 OUT』81 年 1 月号付録のポスター「吾妻ひでお版（青少年向）“眠られぬ夜のために”」中に、チアガールに扮したクラリスの絵と「クラリスマガジン（コミケで売ってた）見てからかぶれてしまったのカリオストロ見てないのに……」との説明があります[23]。これも『クラマガ』の人気 UP に貢献したと思われます。

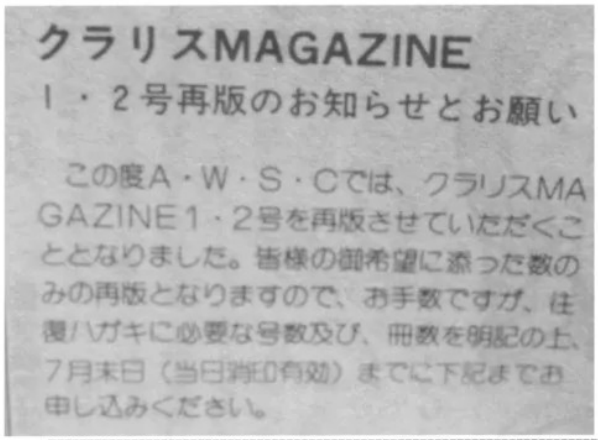
さて、問題はこのA・W・S・Cというサークルです。“ロリコンファンジンとは何か”では『クラマガ』発行サークル名を「クラリス・マガジン編集室」としていますが、『アニメック』では同サークル名が「A・W・S・C」になっています。この疑問を解消するため、入手した『クラマガ』No2 の奥付を確認しました。奥付では“編集.発行元”が「（住所略）A.W.S.C 内「クラリスマガジン編集室」」となっていました。“A・W・S・C”というサークル内に「クラリスマガジン編集室」という分室？　のようなものがあったと思われます。

なお、『アニメック』17 号の当該記事では、『クラマガ』と関係のなさそうな「鳥山明ファンクラブ」なるサークルの本を、A·W·S·C が発行しているとの記述があります。『クラマガ』執筆者のさえぐさじゅん先生とは特に関係のない人の本も発行していたことになります。

以上の点から、A・W・S・Cは、自身では原稿を描かず、別のサークルから依頼を受けて同人誌原稿を受け取り、印刷所に発注して作成した本をコミケットで売り、その売上を（手数料を引いた上で）サークルに渡すという活動をしていたのではないかと推測[24]します。当時、印刷所に原稿をもっていって打合せをしたり（当時は **Web 入稿などない！**）コミケ等のイベントに行ったりする時間がとれないので、原稿書きだけやって本の作成や頒布・通販などの作業は別に任せたいというサークルがあったのではないでしょうか。それらのサークルに対してA・W・S・Cが声を

かけ、本の印刷や頒布を代行していたと考えられます（真相究明中。情報求む）。

『月刊 OUT』1981 年 8 月号「Lunatic Collection- 美少女-」なる記事（おそらくロリコンブームに便乗したアニメ美少女特集）の片隅に、クラマガ再販のお知らせが掲載されています。今回の再販をもって休刊するとの説明もあります。



クラリスMAGAZINE
1・2号再版のお知らせとお願い

この度A・W・S・Cでは、クラリスMAGAZINE1・2号を再版させていただくこととなりました。皆様の御希望に添った数のみの再版となりますので、お手数ですが、はがきに必要な号数及び、冊数を明記の上、7月末日（当日消印有効）までに下記までお申し込みください。

『月刊 OUT』1981 年 8 月号、93 頁

他のアニメ雑誌にも同様のお知らせが載った可能性があります（未確認）。原丸太氏が『アップル・パイ』に執筆した「ロリコン同人誌レビュー」では「81 年 8 月号の『OUT』〔略〕他各アニメ誌上で『クラリス・マガジン』再販の予約者募集が行われた。**これには一万通以上の応募があったという**……」としています。ものすごい数で、本当にこんな応募があったのか、最初疑っていました。

この応募が行われた後、問題が発生します。『アニメック』'82 年 8 月発行の第 25 号、160 頁に次のお知らせが掲載されました。

●クラリスマガジン遅延のお詫びと発送終了のお知らせ

クラリスマガジンをお申し込みの皆様へ
まず当方の不手際によって皆様へのクラリスマガジンのお届けが大変遅れた事をお詫びさせて頂きます。**尚おまたせしたクラリス・マガジンもやっと発送を終了**出来ました。〔略〕
クラリス・マガジン編集部

これで発送は無事終わったと思いきや、同人誌『**漫画の手帖**』13 号（'83 年 7 月 15 日発行、実際の発売日は不明……6 月ごろ？）に次の記事が掲載されます。多少長くなりますが、読者の利便の為に同記事を引用します。

〔略〕本はとっくに完成しているはずなのに、**いつまでたってもクラリスマガジンは送られてこない。**
まあ数千通ともなれば、発送がたいへんなのはわかるのだけど、その間にもアニメック 24 号〔25 号の誤りか〕に「発送は終了しました」などとの誤報が載ったりもして、注文者の混乱に輪をかける結果となってしまいました。
クラリス・マガジンを発行した AWSC の、当時の代表である M 氏〔前述の「ムーミンパパ」のことと思われる〕にうかがったところ、「〔略〕AWSC は**すでに解散**しており、クラリス・マガジンの発送に関しては、〔略〕今年の初めにはすでに発送を完了した〔略〕」とのことでした。
ところが不思議なことに、**私共が調べた限りにおいては、クラリス・マガジンが送られてきたという人は、5 月 15 日現在、一人も確認できない**のです。

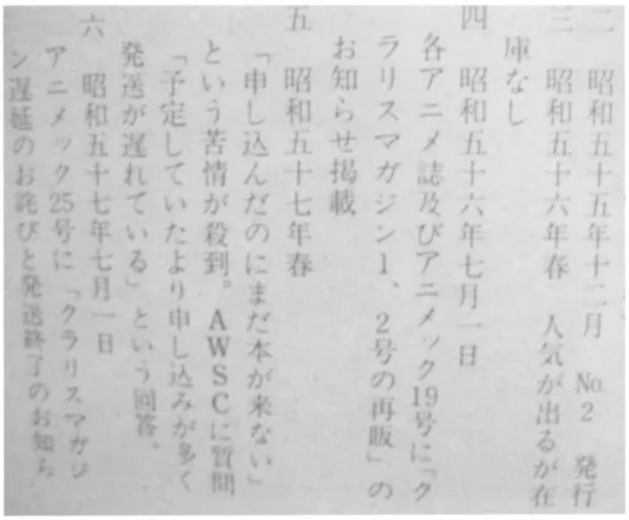
『漫画の手帖』13 号、漫画の手帖事務局、2 頁

さすが漫画の手帖……というべきか、きっちり調べています。この報告が真実とするならクラマガは'83 年 5 月の時点でほとんど発

送されていなかったことになります。他にも、この記事ではクラマガの印刷費 180 万円(！)が印刷所に未払いになっていることを暴露し、「いずれにしてもこのままでは、いつまでたっても送ってもらえない注文者から、**サギ的行為じゃないか**と思われても、しかたがないのではないでしょうか」[25] と疑問を呈しています。'83 年半ばの時点でクラマガ未発送問題が取り上げられていたとわかります。

また、『アニメック』第 28 号('83 年 2 月発行)に次のお知らせが……

『アニメック』1983 年 12 月号、129 頁


二　昭和五十五年十二月　No.2　発行
三　昭和五十六年春　人気が出るが在庫なし
四　昭和五十六年七月一日
各アニメ誌及びアニメック19号に「クラリスマガジン1、2号の再販」のお知らせ掲載
五　昭和五十七年春
「申し込んだのにまだ本が来ない」という苦情が殺到。AWSCに質問
「予定していたより申し込みが多く発送が遅れている」という回答。
六　昭和五十七年七月一日
アニメック25号に「クラリスマガジン遅延のお詫びと発送終了のお知ら

『アニメック』1983 年 12 月号、129 頁

●クラリスマガジン代送係より

本誌〔アニメック〕25 号当コーナー〔同人誌を紹介するコーナーのこと〕において、クラリスマガジン発送終了のお知らせを掲載しましたが、**その後も事故等の問い合わせがつきません**。今後この件に関しましては、当編集部内㊙係宛に往復ハガキでご連絡下さい。〔略〕尚**同誌代表者に対しては当編集部より厳重な注意勧告をいたしました。**

やはりクラマガは発送されていなかったようです。そして、同誌'83 年 12 月号(第 32 号にあたる 1983 年 10 月号より、「第＊＊号」から「＊＊年＊＊月号」に変更)において「**「クラリスマガジン」の苦情に対するお答え**」なる 1 ページの記事が掲載されます。

クラリスマガジンという同人誌について、**あまりにも苦情が多い**為に調査しましたところ以下の事が判明しました。目下、被害に遭った方の為に当編集部では最善の努力をしています。来年早々には何れかの形で決着が付くものと思いますので、暫くお待ちください。

申込が多すぎたためか、発送が追い付いていなかったようです。そして……

通常、普通郵便物に対する事故率は何パーセントかあると言われていますので、**五千人もの申し込み**のあったクラリスマガジンの場合百五十件の未到着があったとしてもそれ程不思議には思わなかったのですが、**単なる事故とは言い切れない事実**もありますので、それについて付記しておきます。

A 昭和五十八年八月二十日

再販分クラリスマガジン**申込み者名簿の一部(約五千名)**を入手。

B 昭和五十八年九月十日

再販分クラリスマガジン申込み者宛の未発送封筒を大量に発見。**もともと発送されていないのではないか**？という疑惑が起きる。AWSC 責任者を呼出し、事実関係を追及するも「必ず善処します。」の言葉を残し**本人失踪**。

C 昭和五十八年十月

AWSC 責任者所在不明、本籍地に照会する

も手掛りなし。なお**クラリスマガジンの印刷料金は今だ印刷所に未入金**である事も判明。

『アニメック』1983年12月号、129頁

本　人　失　踪。（……）

どうやら『クラマガ』再販申込みを各アニメ誌上で募集したところ、本当に1万件以上の申込が来てしまったようです。『アニメック』が発見した名簿の一部だけで約五千名とのことから、『月刊OUT』記事の1万件という数には信頼性があると思われます。また、『漫画の手帖』が示した印刷料金未払いの件の裏もとれたようです。

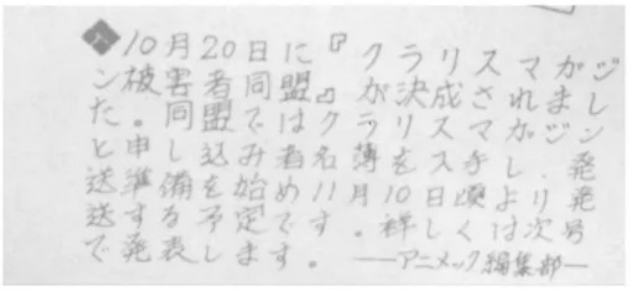
A・W・S・Cに何人のメンバーがいたのかはわかりませんが、これだけ多くの申込件数があると、通販処理（封筒に宛先等を書き、本を封入、投函……）に要する時間と手間が膨大になります。推測ですが、多数の本を発送しきれなくなり、A・W・S・C代表者が嫌になって逃げたのではないでしょうか。

印刷料金を印刷所に入金していないのも問題です。当時、料金後払いで印刷を受け付けてくれる印刷所があったようです。コミケ等で得た売上金を用いて印刷料金を後払いすればよく、印刷前の時点でお金がなくても本を出せるので、一部サークルが頼っていました。しかし、**もしも見込みが外れて本が全然売れないと**……（以下略）。なお現在は、ほとんどの印刷所は前払いのみとしています。

現在のところクラリスマガジン責任者の消息が判らず、断定は不可能なのですが、同人誌とはいえこれだけ多数の人に迷惑をかける事務作業を行ったという事は、**言語道断です**。本誌ファンジンコーナーに掲載した以上、責任を持って、読者の皆様に真実を伝える事をお約束します。

『アニメック』1983年12月号、129頁

「言語道断」……うーん、確かに。アニメック編集部はかなり怒っています。『アニメック』17号のロリコン特集で『クラマガ』を大きく評価・宣伝していたことから、注文しても本が届かない人が、同編集部に対しても苦情をかなり送ったようで、対処せざるを得なかったのでしょう。『クラマガ』が送られてこない被害者の方々も結束し、「クラリスマガジン被害者同盟」が結成されました。



◆10月20日に『クラリスマガジン被害者同盟』が決成されました。同盟ではクラリスマガジンと申し込み者名簿を入手し、発送準備を始め11月10日頃より発送する予定です。詳しくは次号で発表します。——アニメック編集部——

『アニメック』1983年12月号、129頁

そして、**アニメック編集部の怒りは84年1月号で頂点に達します**。同号132～133頁の見開き記事“「クラリスマガジン」その後”は、その怒りの物凄さで必読ものです。ヤフオクで'84年1月号を落札してこの記事を読んだとき、**マジに震えました**。なお、この号にクラマガ問題が掲載されたことは、『エトセトラ』55頁を読んで知りました。それで興味をもってアニメック誌を落札してみたのです。

「12月号を読んだ方からの反響の多さに今さらながら驚いています」「アニメック編集部では〔クラリスマガジン被害者同盟に〕全面的に協力体制をとることにしました」「AWSC 発行のファンジンは内容的にも優れたものだっただけに今回の事件は残念」[26]

同記事最初の段落は次のように話を進めます。そして……

AWSC 責任者のした事は許されるものではありません。彼は同人誌界の顔役でしたので、今だに数人の部下を使い、**他人から預かった本やポスターを売りさばいている**という情報も入っていますので、これ以上被害者を増やさないために情報を公開します。(すでに関東地区の印刷所及び即売会関係者には回状が回っていますので、関東での動きは封じられています。)

〔略〕まったく誠意の通じない相手ですので、**あえて住所氏名を掲載します。**

Σ(-_- ;) ……

〒1■■ 東京都町田市■■
■■■■■■ ■■■アパート■号室
■■■昭(三十歳)

(本人を知っている人は、ビックリしたでしょうね。我々も戸籍を調べるまでは二十六歳と信じていたんですから。なんと公式書類にまでもこう書いてあったのだから、出る所へ出れば年齢詐称で……ですな。)

『アニメック』1984年1月号、132頁

ああっ！ **マジの住所氏名が晒されてるっ！**(さすがに一部伏字) ちなみに町田って私の家から比較的近く……(なお、この住所をGoogle Mapで探したところ現在は駐車場になっていました)。さらに、A・W・S・C責任者の戸籍を調べたとあります。

しかし、これだけでは済まなかったのです。

さて、このページに掲載いたしますのは、彼がかつて同人誌即売会で**荒稼ぎをしていた**ころのスナップです。別にアニメ・ウィークエンダー[27]をやる気はありませんが、**ムカッとくる顔**ですね。(念のために書きますが、かなり控め〔ママ〕な書き方をしているんですよ。)

『アニメック』1984年1月号、132頁


さて、このページに掲載いたしますのは、彼がかつて同人誌即売会で荒稼ぎをしていた頃のスナップです。別にアニメ・ウィークエンダーをやる気はありませんが、ムカッとくる顔ですね。(念のために書きますが、かなり控め〔ママ〕な書き方をしているんですよ。)
つまらないものを掲載してしまいましたが、これで彼も即売会には顔を出せなくなるの

『アニメック』1984年1月号、132頁

あ～～～～っ顔写真がっ！顔までさらされてるっ！！(モザイク処理は引用者)

これ、今やったら(たとえ相手に落ち度があっても)逆に訴訟不可避ですね。**アニメック編集部も無茶をする**ものです。“ムカっとくる顔”って……(怒りがすごい！)

その後、「クラリスマガジン被害者同盟」が本を発見し(推測)、名簿に記載されていた方々に郵送することで、申込から2年以上

かかってようやく被害者に本が届いたようです。『アニメック』'84 年 5 月号 167 頁の記事「クラリスマガジン被害者同盟最終報告」では、「**発送数四千七百二十通**のうち、転居先不明で返送されてきた物は百九十七通でした」とし、そのうち連絡が取れない 163 通の住所（一部）と氏名を列挙しています。そして「被害者同盟は目的を達成いたしましたので、五月一日をもって解散いたします」と報告しています。この号以降、同誌では『クラマガ』に関する記事は見られません。

「**同人誌史上最大の詐欺事件**」と呼ばれる「クラリスマガジン事件」[28] は、かような経緯を辿ったのです。それにしても、A・W・S・C 責任者は今どうしているのでしょうか。

●『ラナリータ』

『未来少年コナン』のヒロイン・ラナメインの本。

・女性中心のロリコン誌

C' 群に近いものとして、スタッフの大部分が女性のロリコン誌もこのころから現れました。

●各種少女アニメ FC 会誌

“ロリコンファンジンとは何か”によると「ヒルダ FC」の本（ヒルダ＝『太陽の王子ホルスの大冒険』のヒロイン。クラリス、ラナ、ヒルダの 3 名は当時特に人気があった）、『若草のシャルロット』、花の子ルンルン、『女王陛下のプティアンジェ』など、各種少女アニメの FC が本を出していたようです。

●『TOFROM』

サークル「少女愛好会トゥフルム」。現在（2020 年）、コミケ準備会の共同代表を務める安田かほる氏（愛称：安田かや）が参加されていたサークルです。

安田 それから、初めてシベールを見たときに「あ、こういうの私好きだったのかも」って。〔略〕TO FROM というサークルで本をつくり始めたのが、1979 年くらいかな。

『コミックマーケット 30's ファイル』青林工藝舎、2005 年、244 頁

シベールの孫、子孫

『シベール』を契機として、男性向サークルが多数生まれ、多くの男性向エロ同人誌がコミケで発行されます。1981 年夏から現在（2020 年）までに発行されたその種の本を全て把握するのは不可能なので（当たり前や）、90 年代前半あたりまでに出版され、『エトセトラ』で米澤氏が紹介している[29] 同人誌からピックアップしたものを紹介します。なお、以下では本をカテゴライズしていますが、このカテゴリ分けは**降間の独断と偏見によるもの**であることをあらかじめお断りしておきます。また、以下に紹介する本の大部分は降間は現物を持っておらず、『エトセトラ』中の記述から内容を推測しています（いいかげんですまぬ）。

・ストーリー重視（非エロ本も含む）

『シベール』のストーリー漫画指向の面を受け継いだ本です。前述の『エピカル』や『アスケロン』、毛有毛現先生のサークル「姫麟クラブ」発行の『**百物語**』シリーズ（『エトセトラ』157 頁参照）、新田真子先生のサークル「UNION OF THE SNAKE」発行の**婦警シリーズ**本（勝手に命名、同 155 頁など参

照）、また「SYSTEM GZZY」の『**遊裸戯**』シリーズなどが該当します。

・イラスト・設定資料本・メカフェチ本

前述の『**TECHNO RORIA**』（プロジェクトアートスタジオバキ）、サークル「STUDIO ARMS」の『**SOLDIER LADY**』（メカ少女イラスト・設定資料本。『エトセトラ』29 頁参照）、富本たつや先生のボンデージイラスト本『**表面張力**』（同 126 頁参照）など。

・アニパロ・ゲームパロ・キャラ萌え系

『シベール』でもアニメのパロディネタが見られましたが、年代が進むにつれて他サークルからも優れたパロディ本が発行されます。故・緒方賢美（さとみ）氏（注：男性）の主宰していたサークル「ばいぶる」では、めぞん一刻の名作エロパロ本『**なつずいせん**』や、『**Little tomorrow**』シリーズなど各種の良質な男性向パロディ本を発行されていました。『なつずいせん』は、高橋留美子作品の優れたパロディ本として、『エトセトラ』中で米澤氏から絶賛されています。

> ばいぶるの出した「なつずいせん」も質の高い作品がつまっている。〔略〕質の高さとは、絵のうまさであり、マンガ作品として描こうとしているかという姿勢の問題であり、エロの為の設定があるかどうかであり、ディテール、コマ展開が作り上げていくエロチシズムのことだ。
>
> 『エトセトラ』、久保書店、2004 年、80 頁

この『なつずいせん』、どうしても欲しかったので駿河屋等で探し続け、最近ようやく入手できました。



『なつずいせん』表紙。一部黒ベタ修正

この本には 3 本の漫画とイラスト（緒方氏）が収録されています。そのうち、米澤氏の評価が高い「めぞん一刻 =扉のむこう=」（緒方氏）は次のような内容です。

宴会に向かう途中、五代を連れてくるよう言われ一刻館に戻った賢太郎。五代は自室におらず管理人室に向かい、暗い室内を覗くと五代と響子が抱き合っている。

「いけませんわ……やっぱりこんなこと……」「やめておくべきだったんですわ 一度きりで…」[30]

そういいながらも五代を求めてしまう響子。「これが……僕の……僕の気持ちなんです…」（以下、詳細に描写すると本誌が 18 禁になるので省略）五代と響子の熱い交合を覗きつつ深刻な面持ちになる賢太郎。



『なつずいせん』44 頁一部。絵柄に注目！

その後、SNACK 茶々丸に着く五代達。騒ぐ大人たちを尻目に賢太郎は物思いにふける。「――ぼくが扉のむこうで見たおにいちゃんは　暗がりの中で見た管理人さんは」「いつもの僕の知ってる二人じゃなくて…」「ぼくが見たあの扉のむこうは…何だったんだろうか…」

米澤嘉博氏は「余韻を残すラストは、作品をピリリとしめている」[31] とし、「2 人の SEX シーンというメインディッシュを、**少年の視点で料理し、かつ少年の不思議な体験という皿にのせている**のだ」と、この作品の構造を評価しています。

私が読んだ感想ですが、「キャラが可愛く絵がうまいだけでなく、ちゃんと**高橋留美子先生の絵に似せて**描いている」（引用コマ参照）ことや、「無理のないストーリー展開」、「丁寧な効果や背景」など、様々な点で質の高い作品と考えます。二次創作エロ同人誌って、元の作品のキャラだけ借りて、原作のストーリーや設定を考慮せず**単にエロをやっているだけ**というものが多い[32] のですが、緒方氏のこの作品は原作のキャラ・設定・その他細部を生かした内容になっています。『コミックマーケット 30's ファイル』249 頁の用語解説で「**完成度の高いパラレルストーリー**として成立している」と評価されているように、「もしかしたら原作内でもこんなことがあったかもしれない」と解釈できるものになっています。原作の話や良さなどを正しく理解したうえで描かれた、「原作でもありそう」と思える内容の二次創作は、エロであっても読んでいて気持ちがよいです。計奈恵先生も緒方氏の作品を次のように称賛しています。

計奈 ロリコン系のパロディって、なんか**元の設定崩す**人って多いじゃないですか。『めぞん(一刻)』でも、**いきなりマスクした強姦魔が出てきて**みたいなものが多かった。それって**別に『めぞん』じゃなくてもいい**わけでしょ。そういった中で、**緒方さんの漫画って、ありそうなラインで H やってました**よね。それは当時からすごいなと思ってた。

『コミックマーケット 30's ファイル』青林工藝舎、2005 年、246 頁

なお、サークル「ばいぶる」は、緒方氏が 2009 年に亡くなられたため、現在は活動していません。

・編集依頼制サークル

シベールが人気を博し、男性向同人サークルのメンバーや男性一般参加者が増えるにつれて、「ロリコン好みの同人誌作家を集めて出された物[33]」が増加します。阿島俊氏が'82

年に記した次の記述が参考になります。

> 元来、同人誌というのはサークルを母体として、同人達の作品を集めて作られるのだが、最近では、編集専門みたいな人がいて、あちこちに声かけて作りあげられる同人誌というのが、新しい形として出てきたようなのだ。
>
> 『エトセトラ』、久保書店、2004 年、25 頁

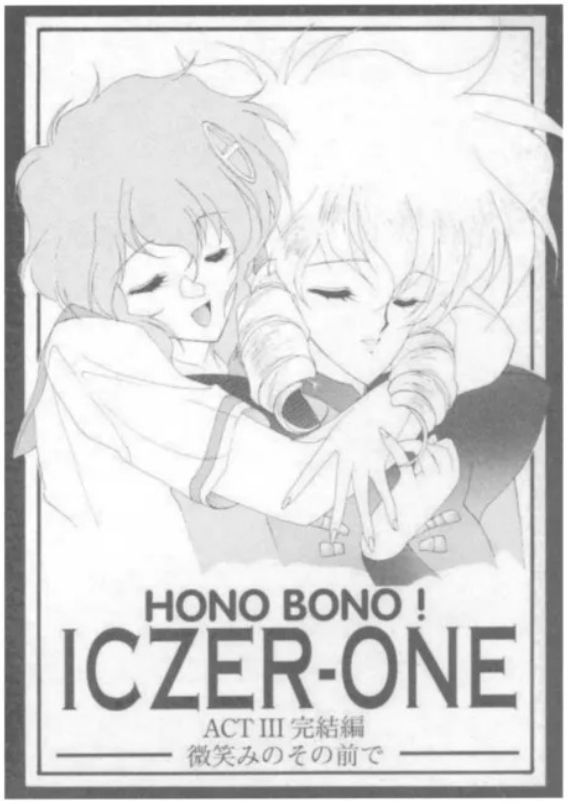
サークル単位で原稿を集結して本を作るのではなく、編集専門の人が様々な作家に原稿を依頼することで、商業誌と類似した形態の本を出すサークルが増えてきました。この種のサークルを編集依頼制サークルと呼びます。

この典型としては前述の「Alice 編集部」が挙げられます。また、80 年代前半から活躍したサークル「モルテンクラブ」（阿乱霊先生などが参加）なども編集依頼制をとっていました。同サークルはのちにスタジオバトルと改名し、白夜書房を通じて雑誌『パンプキン』を刊行します[34]。

・80 年代後半以降の大手サークル

'80 年代後半の大手サークルは多数ありますが、全て列挙するとこの本のページ数がいくらあっても足りません。少しだけ紹介させていただきます。

たつねこ先生のサークル「炬燵屋 Co,.Ltd」は、80 年代後期から 90 年代中期まで A 館や南館に配置される大手サークルとして知られました。'91 年夏コミ（C40）から'93 年夏コミ（C44）まで、いわゆる大手サークルの前にできる長大な行列への対策として、当該のサークルを「特別配置サークル」とし、当時の晴海会場の A 館や南館に配置していました。A 館及び南館には数十程度のごく少数の大手サークルだけ配置し、館内のスペースを大きく取ることで行列を捌いていたのです。この体制を A 館体制といいます[35]。当時、たつねこ先生の「炬燵屋 Co,.Ltd」と、新田真子先生のサークル「UNION OF THE SNAKE」は男性向特別配置サークルの常連として君臨していました。



『ほのぼの!イクサーI・ACTIII完結編 -微笑みのその前で- 前編』表紙

「炬燵屋 Co,.Ltd」は 80 年代後期から『**ほのぼの！イクサー1**』シリーズを発行します。当時、エロ同人誌といえば女子が意味もなく凌辱され、絵も汚い（失礼）ものが多く、コミケに行っていた女性はそれらを軽蔑・敬遠などしていたと考えられます。対して、たつ

ねこ先生の絵は流麗かつスマートで、丁寧な筆致で女の子が可愛らしく描かれており、その上「ソフトなエロチシズム」と「ほのぼのとした展開」、「きちんとしたストーリー」で、女性ファンにも人気があったといいます。自分も最近ようやく同サークルの本を入手できたのですが、その絵柄の美麗さと現在の萌えキャラの絵柄にも通ずる先進的な絵のタッチ、そしてソフトなエロ（性器は露骨には描写されていない）など、当時ここまでのものを描かれていたことに驚きました。

同シリーズは米澤氏の高い評価を受けています。

〔略〕すっきりした上品な絵とスケベさ、そしてちゃんとしたストーリー。学園ラブコメしているところがうれしい。

後書きには「**同人誌ってストーリーに起承転結がついているものって極稀**ですし、サービスの意味を勘違いしているものって多いと思います。エンターテイメントと金儲けとしてのサービスは違うと思います。」とある。確かにその通りだ。——この 2 冊は、**共にある程度の長さをきっちり描き、コマを読ませる、ストーリーを読ませる**ことをしている。

『エトセトラ』、久保書店、2004 年、182 頁

「この 2 冊」とは、前出「UNION OF THE SNAKE」の婦警本の新刊（'90 年）と、『ほのぼの！イクサー 1・ACTⅡ-あの空にとどいて-』（同）のことです。過激な表現のみに走ってストーリーをおろそかにしていた傾向の強い、当時の男性向エロ同人界において、新田真子先生の「UNION～」とたつねこ先生の「炬燵屋～」は、**ちゃんとストーリーがあってページ数も多い漫画を描く**サークルとして高い評価を受けていました。

たつねこ それまで売れていた本を見たら、**たいていイラスト本やゲスト本だった**んですね。それなら漫画を描いた方が面白いんじゃないのと思ったんですよ。

米沢 それまでは規制以前だから、**露骨な絵さえあればいい**みたいな感じもあったよね。

たつねこ だから、当時まともに漫画を描いていたのって、僕は新田さんぐらいしか知らない。**同人誌ってエロ漫画がなかった**んですよ、極端なこと言っちゃうと。

〔略〕

米沢 〔略〕**同人誌の場合、短いものや、イラストだけというの多かった**中で、漫画として読めるものを描くと、評判になっちゃう部分があったとは思うんですよね。

『コミックマーケット 30's ファイル』青林工藝舎、2005 年、269 頁

米澤嘉博氏の発言中の「規制」というのは、1991 年夏コミから開始された、当日の同人誌の見本誌内容チェック及び性器等が無修正の場合は販売停止という措置、及び'90 年から'91 年にかけて発生した有害コミック騒動[36]のことを指します。'90 年冬コミまでは**見本誌内容チェックが行われていなかった**ので、**性器が無修正でもおとがめなし**でした[37]。そこで、一部の男性向サークルは、**ものがモロに描かれた**成年向本を描いて売っていたのです。性器が露骨に描かれているだけでストーリー等がおろそかな本が氾濫していた当時、たつねこ先生らは「話」を重視し内容が豊富

で高品質な同人誌を頒布し、多数の支持を得ていました。

なお、自分は1992年の夏コミ（C42）で初めてコミケに一般で参加しました（当時は浪人生でした）が、その回のカタログの表紙イラストを執筆されたのがたつねこ先生です。同先生の絵を見て「世の中にはこんなすごいきれいな絵を描かれる人がいるのか」と、**感動するとともにものすごく嫉妬しました。**特に、繊細な描線や目及び顔の輪郭の描き方など、私だけでなく他の作家にも大きな影響を与えたと思われます。

（たつねこ先生の絵の重要な特徴・この顔の輪郭（右側キャラ）と目の描き方。また左側キャラの横向きに近い顔における、目と鼻が立体的に重なった描き方も現在の萌え絵に通じるものがある）



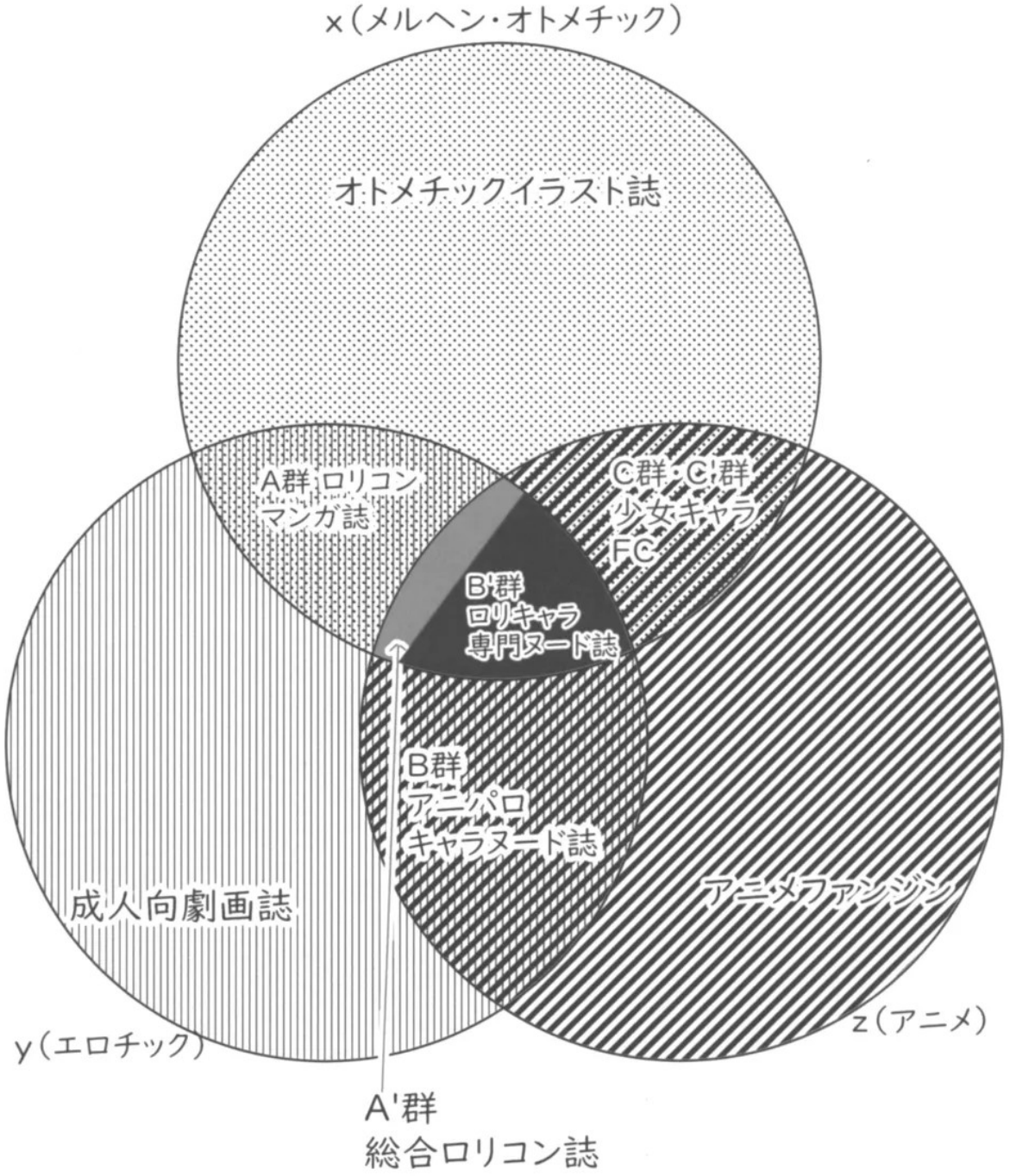
『ほのぼの!イクサーI・ACTⅢ完結編 -微笑みのその前で- 前編』14頁一部

また、「UNION～」や「炬燵屋～」は、当時のコミケではずっと行列ができていて、並んで買うことはできませんでした（初参加のC42で、A館にいた 別のある大手サークルの本がどうしても欲しくて並んだが、**あと数人で買えるというところで完売になり、それ以降行列がトラウマになった**）。

他にも、'90年以降活躍されたサークルは挙げていけばきりがありません。「UROBOROS」のうたたねひろゆき先生、「園田屋」の園田健一先生、「ぷーるぐ・えとわす」のくら☆りっさ先生、「Z・AGNAM」の東・京都先生、「新世界壮健社」のあさりよしとお先生（**元祖本家DUMMYCIRCLEはどうかと思いますが**）、「スタジオかつ丼」の真鍋譲治先生、……、これらの男性向サークルの皆様も、『シベール』という先人がコミケで男性系の需要を開拓していたからこそ、同人活動が円滑に進められたのだと考えます。

エロだって、自分の本当に描きたいものであるならば、まちがいなく一つの自己表現なのであり、臆することはないのだ。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』阿島俊、111頁



原丸太氏作成「ロリコン周辺誌ベクトル図（模式図）」を
降間の責任でベン図にしたもの

[1] 「グループ601」の由来は「映画「アンドロメダ…」に出てくるコンピューターの演算不能のサイン」（コミックマーケット30's ファイル、青林工藝舎、2005年、240頁）

[2] 『エピカル』vol2 計奈恵先生作品では、主人公と彼女が前夜にベッドを共にしたと思われる描写はあるが、そのもののシーンは描かれていない

[3] 『コミックマーケット30's ファイル』、青林工藝舎、2005年、247頁

[4] 『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』、阿島俊、久保書店、2004年、43頁の記述から推測

[5] 『漫画同人誌エトセトラ～』　43頁の記述から推測

[6] 『漫画同人誌エトセトラ～』　78頁

[7] 『遊裸戯』シリーズは「影夢優」名義で発表している

[8] 『漫画同人誌エトセトラ～』　184頁

[9] 『出家日記―ある「おたく」の生涯』にも当該の事情が記されている

[10] 『別冊宝島104 おたくの本』、1989年、JICC出版局、104頁

[11] 興味のある方は『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号92頁をご参照ください

[12] 『ふゅーじょんぷろだくと』1982年1月号158頁の記事「ロリコン・ファンの皆さんへ」より

[13] 『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、“ロリコンファンジンとは何か”、93頁

[14] “ロリコンファンジンとは何か”、93頁

[15] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

[16] 『コミックマーケット30's ファイル』、青林工藝舎、2005年、265頁

[17] うたたねひろゆき先生のサークル「UROBOROS」発行『エヴァンゲリボン』も1万冊を15分（2時間という説も）で完売したらしい。

[18] “ロリコンファンジンとは何か”、94頁

[19] “ロリコンファンジンとは何か”、94頁

[20] “ロリコンファンジンとは何か”、94頁

[21] Wikipediaのシベール記事では8月となっているが、どちらが正しいのか検証中

[22] 『アニメック』1981年4月号、27頁

[23] アニメージュ増刊『アップル・パイ美少女まんが大全集』徳間書店　82年3月の記事「ロリコン同人誌レビュー」より

[24] 『アニメック』1984年3月号166頁の“クラリスマガジン被害者同盟からのお知らせ”記事中で、「ガンダーム3」（南田操著）なる同人誌でもA・W・S・Cに関する事故が発見され、「IVA及び南田氏に連絡した結果、**AWSCに通販を委託した**責任においてIVAができる限りの善処」するという記述がある。A・W・S・Cは多数のサークルから通販の代行業務を受託していたと考えられる。

[25] 『漫画の手帖』13号、漫画の手帖事務局、2頁

[26] 『アニメック』1984年1月号、132頁

[27] '75年～'84年5月まで日本テレビで土曜22時から放送されていた下世話なワイドショー番組「テレビ三面記事 ウィークエンダー」のことか。「ばっちゃらっ ばらっぱ～～♪」という音楽が印象的だった

[28] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

[29] 米澤氏は、特に内容が優れているなど、雑誌上で紹介する価値があると同氏が判断したものを「エトセトラ」で提示しているので、同書に掲載されている本は本書でも触れる価値がある有益なものと考えた。

[30] 響子のこのセリフから、二人がこのときより前に少なくとも1回は情交していたと読み取れる。『コミックマーケット30's ファイル』249頁の用語解説では『なつずいせん』を「五代と響子がはじめて結ばれる場面を描いた」と紹介しているが、これは不正確である。原本を入手しないとわからないことってあるんですよね

[31] 『エトセトラ』、久保書店、2004年、80頁

[32] 私もそういう本をかなり描いているので偉そうなことはいえないのですが……

[33] 『エトセトラ』、久保書店、2004年、25頁

[34] “大魔神・蛭児神建の怒り――なつかしの業界ケンカ史”　http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/hirukogamikennoikari より

[35] その後、「ヒエラルキーができちゃうし、コミケらしくない」（『コミックマーケット30's ファイル』157頁）等の理由でA館体制は廃止される。

[36] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%89%E5%AE%B3%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%83%E3%82%AF%E9%A8%92%E5%8B%95

[37] 今にして思えば、こんな無茶な運用をよく'75年から続けていたと思う……コミケット準備会にもサークルにも「同人誌は逮捕とかされないだろう」との甘えがあったのだろう

第６章　その後の世界

――ブーム発生後のメディアとロリコンの浸透・拡散

かくて天照らす大神がお出ましになつた時に、天も下の世界も自然と照り明るくなりました。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

シベールの終刊（1981年4月）以降に、ロリコンブームや同人誌等について取り上げた雑誌などを紹介します。

漫画情報誌・アニメ雑誌等

●『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号「特集／ロリータ あるいは如何にして私は正常な恋愛を放棄し美少女を愛するに至ったか」

『ふゅーじょんぷろだくと』誌は、清彗社が発行していた漫画評論雑誌『ぱふ』の1981年当時の編集部が、雑誌の方針をめぐって社の上層部と対立して分裂し、ラポート社（『アニメック』発行元）に移って発行した雑誌です[1] [2]。分裂後、両誌は非難合戦を繰り広げていたそうです[3]（……）。この『ぱふ』（及び前身の『だっくす』）は、自分の家の書斎に多数あり（漫画マニアの姉が買っていた）、小さい頃の自分も読んでいました。もっとも、評論記事は内容が難しくてさっぱり理解できず[4]、引用されている漫画コマの絵や掲載された漫画作品（これも文学的でイミフなのが多かったが）を眺めて楽しんでいました。

さて、この『ふゅーじょんぷろだくと』'81年10月号（長いので「10月号」と略）は必読です。当時のブームの様子を知りたい場合、この本の情報が非常に有益です。ヤフオクで時々見るので気になる方は頑張って落札してみてください。

10月号ではロリコン特集に多大なページを割いています。64頁目の記事から、166頁目の漫画最終ページまで計103頁。口絵なども含めればもっと多いです。その全ての記事を紹介するのは難しく、また中には非常につまらないものもある[5]ので、私が重要と感じたもののみを以下に提示します。

・美少女まんが館……アニメ、少女漫画、少年漫画、劇画の各部門で「特にそそられる女の子」を、写真や引用カットを交えて紹介。アニメーション部門では**クラリス・ラナ・ヒルダの御三家**の他、ローザ（『長靴をはいた猫』）、ミミ子（『パンダコパンダ』）など。少女漫画部門ではメリーベル（『ポーの一族』）や竹宮恵子（当時）『私を月まで連れてって』のニーナなど（**ニーナの絵が超可愛い**）、少年漫画部門ではラムちゃんなど、劇画部門ではダーティ松本先生、内山亜紀先生、野島みちのり（谷口敬）先生などのキャラがそれぞれ紹介されています。

・美少女まんがの頂点　吾妻ひでおの世界……Y・エンドウ氏（『東京おとなクラブ』に参加していた遠藤諭（さとし）氏）名義の記事で、吾妻先生の女の子の可愛さ・すばらしさを絶賛しています。この記事の趣旨は自分も全面的に賛同しますが、気になる箇所も。

> 世の中には、いまだに、まっとうに女の子を描けない野球マンガの水島某氏、女の子を横顔でしか描けないクイズ回答者のはら某氏、〔略〕あるいは女の子を可愛いく描くのが売りでありながら、その顔をよーく見てみるとエレフ

ァントマン級のいびつ顔になっている柳沢某氏、〔略〕程度は、本当にもーはいて捨てるほどいるのでありまして（以上のたまたま名前の載ったみなさんゴメンナサイ）、〔略〕

『ふゅーじょんぷろだくと』'81 年 10 月号、80 頁

端的に言って**失礼ですね**これ。これらの方々または有名出版社編集部から訴えられたら**弱小編集部のふゅーじょんぷろだくと は息の根止められる**と思いますが、よく載せたものです（いちばん失礼なのはオレか）。

この記事では「吾妻ひでおは、それまでの数十年間に、幾百の少女マンガ家がそうしようとして試みてきたことを、たったこの数年の間に、ひとりでとびこえてしまった」、「吾妻ひでおこそ、もっともエキセントリックに少女を描き続けている作家」と高く評価しています。また、**少女マンガと吾妻先生の絵を比較していること**が重要な点です。第 2 章で触れたように、吾妻先生が少女漫画の顔を模写し、手塚・石ノ森の体に少女漫画の顔という「萌える組合せ」を習得したことが示されています。

・ロリコン患者インタビュー　ロリコンは世界を征服する　蛭児神建氏の不気味な一日……漫画評論同人誌『漫画の手帖』主催の藤本孝人氏が、蛭児神建氏にインタビューしています。抱腹絶倒の内容です。有意義な箇所やおもろいところを紹介します。

――〔インタビュアーの藤本氏。以下同じ〕蛭児神さんがコミケットで売っている『幼女嗜好』ですか、これはロリコン同人誌の中でも、**かなり過激**ですね。

蛭児神　例えば『シベール』なんかは、どっちかって言うと明るいロリコンと言うか、女の子でも読める同人誌なんですよね。ま、あれはあれでいいんだけど、もっと邪道もあっていい……。それと、**ホモ同人誌が正統であるかのような当時のコミケット文化**に鉄槌を加えようと言う、まあ半ば冗談で。

同誌 1981 年 10 月号、82 頁

蛭児神氏の言葉から、当時のコミケではやはり、やおい（今でいう BL）が主流だったと伺えます。

―― 蛭児神さんの場合は、何才位の少女が対照〔ママ。この雑誌は誤植が多い!〕になりますか。

蛭児神　私は趣味の広い方で、**2 才から 13 才くらいまでなら**。でも、14 才を越えれば**年増**ですね。

同誌 1981 年 10 月号、82 頁

あ、あの～……　蛭児神先生……**その範囲は全部アウト**なんですけど……

その後、蛭児神氏の生い立ちなどの話になり、同氏は「私のイメージの中の少女とは、性から完全に切り離された存在」と説明しますが、藤本氏が異議を唱えます。

―― それにしては蛭児神さんの小説には、**幼女との性行為が出てきます**ね。そのへんの自己矛盾はお感じになりませんか。

蛭児神　もちろん感じてます。ロリコンと言うもの自体が、そう言った自己矛盾を内包しているものなのではないでしょうか。つまり、**少女とは守りたい存在であり、また、襲わなければいけない存在である**と……

同誌 1981 年 10 月号、84 頁

蛭児神氏のこの意見は自分もわかります。ゲーム等で（自分はアニメは見ない）好きな女の子キャラがいると、守りたい・優しくしたいという感情と、「こいつを滅茶苦茶に犯したい」という邪念がなぜか同時に湧いたりします。男子が好きな女の子をついいじめてしまうのもこの辺の自己矛盾に原因があるのではないでしょうか。

―― 襲わなければいけない存在ですか！蛭児神さんは、**実生活でも変質者を実践しておられる**のですか〔引用者注：失礼よ！藤本さん！〕。

蛭児理〔ママ〕 いえ、私は近所では、善良でまじめな人間で通っておりますので。**せいぜい満員電車で小学生の女の子のランドセルなでまわす**程度です。(笑)

同誌 1981 年 10 月号、84 頁

あの～……、蛭児神先生、**痴漢**ですそれ(笑)。（何が「善良でまじめな人間」か！）

―― セーラー服ではいけませんか。

蛭児神 女子高生となると、すでに**女ですからね。興味はありませんね。**

同誌 1981 年 10 月号、84 頁

ぶれないなこの人……

―― ロリコンによる世界征服の野望もあるとか。

蛭児神 やっぱり地道に、これからの世界をになう青少年を手中に入れなければならない。その為には、**例えば幼稚園の通園バスをバスジャックするとか、小学校を占領して基地にする**とか……

――『幼女嗜好』は蛭児神さんのライフ・ワークと考えてよろしい訳でしょうか。

同誌 1981 年 10 月号、84 頁

念のため、蛭児神氏が「幼稚園バスジャック」とか「小学校を占領」とかいってるのはギャグ(シャレ)です(本気だったらこわい)。しかし、**そのギャグが藤本氏にスルーされてる**のが一番おもろいです。

・ロリコン座談会　ロリコンの道は深くて険しいのだ

吾妻先生、野口正之（内山亜紀）先生、谷口敬先生、早坂未紀先生（！）、川本耕次氏（編集者）、蛭児神氏の 6 名が集まり、前述の藤本氏が司会を務めた座談会です。88 ページの写真に居酒屋らしき風景が映っているので、皆さんで飲みながらロリコン談義をしたと考えられます。

なお、座談会記事冒頭で各出席者の顔写真、氏名、肩書、経歴等が紹介されています。例えば吾妻ひでお先生は「吾妻ひでお（美少女まんが家）」といった肩書です。問題は蛭児神氏の肩書（次頁画像参照）が「蛭児神建（**ロリコン変質者**）」になっていることです。せめて「ロリコン同人作家」とかにしろと（ふゅーじょんぷろだくと編集部は失礼）。

この記事も非常に興味深くて全文引用したいくらいですが、重要な箇所のみ紹介します。なお、Web サイト「Underground Magazine Archives 雑誌周辺文化研究互助」の http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/Lolico

nDiscussion に全文が掲載されていますので、興味のある方はこちらを。



同誌 1981 年 10 月号、87 頁

蛭児神 妹願望というのはロリコンであれば誰でもあるでしょうね。私ももし**妹がいればああしてやろう、こうしてやろう（身ぶり手ぶりで）**

一同 ㊗

吾妻 ちょっとかんべんして下さいよ㊗

同誌 1981 年 10 月号、88 頁

……なんの身ぶり手ぶりをしたのかは想像したくないです。この座談会、**完全に蛭児神氏の独壇場**で、氏のオモシロ発言が多数。

—— どうなんでしょう。美少女というのは何才くらいを指しているんでしょう。

蛭児神 私は**14 才を越えたら年増**ですけど

同誌 1981 年 10 月号、89 頁

ホントぶれないなこの人……

吾妻 セーラー服って、でもロリコンなんでしょうかね。

谷口 ええとですね（**今まで静かだったのに急に身を乗り出して**）あのう、10 年前にもこういうブームがあったらしいんですよね。〔略〕

蛭児神 じょしこおせえというのはどうも苦手でしてね。あのキャーキャーいう声を聞いていると、本当に**ひっぱたいて縄で縛って……**

一同 やっぱりやりたいんだ㊗

同誌 1981 年 10 月号、89 頁

……蛭児神先生、“ロリコンは世界を征服する”では「SM はたぶん好きじゃない」とか仰ってましたが、**実は好きなのでは？**[6]（笑）

それにしても、今まで静かだった谷口敬先生がセーラー服の話になると急に身を乗り出してくるのがおもろいです（座談会前半で谷口先生はセーラー服のスカートの長さを熱く語っていた）。

川本 僕なんかは**ブルーマーかぶってころげまわる**くらいですよ、普通の人だから。

谷口 あ、ブルマーいいですね。

川本 チョウチンブルマーの方じゃなくて、ピッタリしてるジャージーかなんかのやつ。あれがいいんですよ。

同誌 1981 年 10 月号、89 頁

川本さん、ブルマをかぶって転げまわるのは**普通の人間ではありません**（私もブルマフェチなので気持ちは非常にわかるが）。……なおこの後、川本氏と谷口先生は「少女のレオタードというのはかわいくない」と意気投合してて私は若干立腹しました（笑）[7]。

―― どうなんでしょうか、人形なんていうのは皆さん

野口 にんぎょうねえ。いいですねえ

早坂 蛭児神さんの独壇場でしょう、人形の話は。

蛭児神 **好きですねえ**。リカちゃん人形だけで**20 体ぐらい持っている**し やっぱりフツーに遊んでいてはつまらないんですよね。〔略〕それから GI ジョーという人形がありますが。ちなみに私は 5 体持ってますけど。**この GI ジョーとリカちゃん人形を合わせると丁度大人と子供の体型になる。**

一同 ぐわあ

蛭児神 したがって**色々な体位を楽しめる**んですね

吾妻 **ビ・ビョーキだ**

川本 **クッセツしきってる**

同誌 1981 年 10 月号、90 頁

……すみません、意識が遠のいていました。

蛭児神 〔「女王陛下のプティアンジェ」の〕セルなんかはお持ちですか

吾妻 いや、もらいもので 2・3 枚〔引用者注：持ってるんですか吾妻先生（笑）〕。

蛭児神 **きんぱくプティ・アンジェ**というセルがありまして

谷口 **しかしまともじゃないな**

吾妻 ああ、水車小屋かなんかに縛られるやつね。

蛭児神 もうなんというか、**これがじつにかわいい。ウフフフフフフフフフフフ**

同誌 1981 年 10 月号、91 頁

「ウフフフフフフフフフフフ」って……やっぱり SM 好きなんでしょ（谷口先生の「しかしまともじゃないな」ってツッコミが光っている）。

なんというか、この座談会、あまり高度な話はなかったのですが、当時のロリコン作家の皆さんの和気あいあい（？）とした様子と、**蛭児神先生の暴走**を生で感じられてほほえましいです。ただし、最後の川本氏の発言は採り上げる価値があるでしょう。

川本 ただ最近ヤバイなと思うんだけど、本当はロリコンなんて暗くてきたないもので、結局、誰かがいってたんだけども少女は美しいんだけど、**その少女を愛する僕たちは美しくない**んだと思うのね。それがあたかもロリコンが美しいものと誤解して入ってきている。吾妻さんのまんがなんか、そういう隠れ蓑になっていると思うんだけど、ロリコンとは言えないんだけど、ワタシ吾妻ひでおのファン。だからロリコンなのよというのは非常に格好いい。そういう悪い傾向があると思う。やっぱり**少女を愛する者はちっとも美しくないもの**なんです。

同誌 1981 年 10 月号、91 頁

この発言は、ロリコン愛好者の若者に対して「人前で恥ずかしい行動をしたり犯罪をし

たりするな」という警告の意味を込めているのだと解釈します。

・ロリコンファンジンとは何か――その過去・現在・未来　ロリコン同人誌界分布図の試み……10 月号の中で最も価値のある記事です。既に何度も引用していますが、1979 年から'81 年までの、『愛栗鼠』や『シベール』に始まる各ロリコン同人誌の紹介と、その分類、及び今後の展望などを、志水一夫氏……い、いや、原丸太氏が詳細に綴っています。各同人誌の誌名や内容のレビューは既に多数引用しているので、他の部分を紹介します。なお、『ふゅーじょんぷろだくと』には誤植が多く、この記事にも多数混入していますが、降間の判断で文意を損なわない程度に訂正しています。

「残す」というのは、文化の基本である。誰もが焚書坑儒には賛成しないが、多くの人々は自分たちが今現在それとよく似たようなことをしているのに気が付かない。**たとえどのようなものであっても、集めて分類し、記録・保存することによって文化たりうる、あるいはまた学問たりうるのである。**極端な言い方をしてしまうと、歴史が書かれてはじめて、その分野は文化たりうるのだ、とも言えよう。

外国マンガ研究家の KOSEI 氏によると、アメリカには、1930 年代を中心にアングラ出版されて流行した、**「8 ページもの」と呼ばれる人気マンガのセックス・パロディー**を集めて、立派な研究書を著わした人がいるそうである。ドイツの風俗研究家フックスも、戦前にヨーロッパの漫画の歴史を著わしている。諸先輩のひそみに倣って、私もこのロリコン誌を集め、分類し、そして記録しようというわけである。

同誌 1981 年 10 月号、92 頁

この点は自分も本当に賛同します。集めて分類し、記録、保存して後世に残さないと、後で批判・検証ができないので永久に忘れ去られ、やがて存在自体もなかったことにされてしまうのです。この記事で紹介されている同人誌のうち、シベールなど有名なものは他の本にも名前が残っていますが、例えば（以下、失礼な文章になります）『美少女自身・美少女狩り』とか『月刊にゅう』など、マイナーなロリコン同人誌はこの記事中でしか紹介されていないと考えられます。しかし、志水氏がこの記事を書いたおかげで、少なくともそのようなロリコン誌がこの時期にあったという記録は歴史に残るのです。

なお、「8 ページもの」[8] については https://twitter.com/kimirito/status/1234884755876765696 に画像が紹介されています。

この記事中の見出し“「シベール革命」の意味”以降の記述も紹介します。

既にお気付きの方もいることだろうが、『シベ』〔シベールの略〕は最初のロリコン誌ではない。それ以前に『愛栗鼠』があり、またほぼ並行して『ロリータ』があった。しかもそれは、読物ありマンガありキャラ・ヌードありの、正に現在のほぼすべてのロリコン誌の先駆とも言うべきものであり、『シベ』への影響それ自体も無視し得ないものであった。なのに何故「ロリータ革命」ではなかったのだろうか。ここに「シベール革命」とは何だったのか、ということを解く鍵が密んでいるように思われる。

『シベ』と他の 2 誌との違い。それは**『シベ』**

がマンガ誌であった、ということにつきるのではなかろうか。「シベール革命」までは、**セックスというのはマンガではなく劇画の世界のもの**だという先入観があった。いわばマンガにとって、**セックスは「他所ごと」**であったのだ。その先入観を『シベ』は、実にアッサリと破ってしまった。「あ、マンガでこんなものも描けるのか!」という驚き——それこそがシベール革命だったのに違いない。

同誌 1981 年 10 月号、96 頁

この部分を最初に読んだとき、『シベール』がロリコン誌ブームを引き起こした理由が明確になったと嬉しくなり、納得した気になったのですが、その後考え直してみるとこの部分は志水氏の瑕疵(かし)ではないかと思い直しました。なぜか。それは「セックスというのはマンガではなく劇画の世界のものだという先入観があった」という部分に疑問をもったからです。例えば、竹宮恵子先生の**『風と木の詩』**。男同士ではありますがセックスがマンガ(『風と木の詩』はどうみても劇画とはいえない)上で描かれています。なお、『風と木の詩』の連載開始はシベール創刊よりも前の 1976 年です。

竹宮は「当時はベッドで男女の足が絡まっているのを描いただけで作者が警察に呼び出されていましたが、**私は作品を描く上で愛やセックスもきちんと描きたかったの。男×女がダメなら男×男でいけばイイ**と思ったの」と語る〔略〕

Wikipedia“風と木の詩” https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A2%A8%E3%81%A8%E6%9C%A8%E3%81%AE%E8%A9%A9

永井豪先生の『ハレンチ学園』(1968 年 12/26 号より連載開始)も、最初の方はともかく後期(第 3 部)では描写がかなり過激になり、ガチのセックスとまではいかないまでも女の子の裸だの公開露出だの股間にハケでペンキを塗られるだのといった性描写が多数みられます。他にも、1979 年までにセックスを描いていたマンガ(注:劇画ではない)は多数見つかるのではないでしょうか(自分は漫画に詳しくないのであまり具体例を挙げられないのですが……)。「セックスはマンガではなく劇画の世界のものだという先入観」が本当にあったのか、疑問です。

ただ、仮にセックスを描いている漫画があったとしても……

もちろんそれ以前にも、**吾妻ひでお作品の中において、ひいては手塚治虫作品の中においてさえ、そういうことはなされていた**のだが、それは**いずれも作者の並み外れた才能にのみ帰されていた**。作者の才能に目がくらむあまり、それがマンガというメディアそのものの中に含まれた一つの可能性であることに気が付かれずにいたのである。

同誌 1981 年 10 月号、96 頁

この理屈でいうと、例えば竹宮恵子先生の『風と木の詩』にセックス描写があったと主張しても、「いや、それは竹宮恵子の並外れた才能によるもので、『セックスはマンガではなく劇画の世界のものだという先入観』があったのは変わりない」と反論できてしまいます(まぁ実際竹宮恵子先生は並外れた才能があるのだが)。志水氏のこの理論は**反論を**

不可能にする無敵の理論ではないのでしょうか。「セックスというのはマンガではなく劇画の世界のものだという先入観があった」か、また本当に「それ（＝マンガでセックスが描けること）がマンガというメディアそのものの中に含まれた一つの可能性であることに気が付かれずにいた」のどうかは、**今後再検証の必要**があります。[9]

> このロリコン誌ブームはどのような形でプロダムに現われてくるのだろうか。〔略〕恐らくは、**成人向劇画誌へのマンガの進出**という形になってくるのではなかろうか。青年コミック誌や女性コミック誌の登場はその一つの現われであろう〔略〕
>
> 同誌 1981 年 10 月号、98 頁

志水氏はこのように予言します。この後、『漫画エロジェニカ』、『漫画大快楽』及び『劇画アリス』の三大三流エロ劇画誌がそれぞれロリコン系の作家を起用します。『漫画エロジェニカ』は中島史雄先生や村祖俊一先生らを起用しました。『漫画大快楽』も谷口敬先生や内山亜紀先生を起用し、『劇画アリス』も吾妻ひでお先生の『不条理日記』など、劇画ではないロリコン系の絵柄の『るなてっく』等を連載します。[10] このような事態になるとともに、1981 年末以降、『レモンピープル』などのアニメ・マンガ調のエロ漫画雑誌が多数創刊されます。

この記事の最後の段落は、ロリコン誌とその作者及びブームに対する志水氏の誠意がよく分かるので、ぜひお読みください。

> 多くのファンジンが生まれ、そして消えていく中で、**これを記録に留めておくのは、後世の人々に対する同時代者としてのわれわれの責任**だと思います。他にロリコン誌を出しておられる方や、ロリコン誌をご存知の方のご教示を仰ぐことができれば幸いです。**勿論正規の価格で購入させていただくつもりです。**〔略〕なお、ロリコン誌のメタ・ファンジン（ファンジンに関するファンジン）を現在準備中です。年末の「フリ・スペ」にご注目下さい。
>
> 同誌 1981 年 10 月号、98 頁

偉い！（コミケとかで**雑誌の編集者のふりをして本をタダでもっていこうとするやつ**に爪の垢を飲ませたい）

なお、「フリ・スペ」とは、ふゅーじょんぷろだくと編集部が当時新宿に設けていた同人誌等の販売店「フリースペース」のことです（現在は存在しない）。それにしても、**この“ロリコン誌のメタ・ファンジン”は完成したのでしょうか。**

・シベールとは何だったのか

原丸太＝志水一夫氏名義の記事。シベールの創刊号から最終号まで、その発行日や定価、発行形態（コピー・オフセットの区別）を概説しています。自分は Wikipedia の「シベール_(同人誌)」の記事執筆にも少し関わっていますが、各号の価格などを追記する際にこの記事が参考になりました。

また、シベールの各号の一部作品のコマを引用し、作品の内容を説明しています。例えば創刊号の吾妻ひでお先生作品では……

> ●れおなるど・だ・ひでお「赤ずきん・いん・わんだあらんど」（創刊号掲載）

赤ずきんちゃんが森の動物さんたちに仲よくしてもらう話。第 2 版では作者名が「**れおなるど・だ・ちんぽ**」となっていた。

同誌 1981 年 10 月号、108 頁

志水先生、第 2 版の作者名は結構です（笑）。……と、ともかく、こんな感じの簡潔・軽妙な紹介文自体が面白いです。え？　引用されたコマ？　**お見せできません**（本誌が成年向になってしまうので……文章で書くと、おふろで赤ずきんちゃんがオオカミの長い×××（真っ黒く塗りつぶされている）を「これなにかしら？」といいながらさすり、オオカミが「えーと あの、その、なーんつーか」といっています。あと、その×××に**「ちばてつや」って白ヌキで書いてある**のが笑えた）。

……って、このままだと読者に**殺されそう**なので引用可能なコマを紹介。



同誌 1981 年 10 月号、108 頁

三鷹公一先生の作品で、各種効果をスクリーントーンではなくカケアミやペン線の組合せで描いています。当時、スクリーントーンは高額なのでなかなか手が届かず、効果のカケアミ等を手描きする漫画家が多かったようです。苦労がしのばれます。引用したコマは現在の肥えた目で見ると大したことはない（すみません……）と考えがちですが、この当時では、シベールの参加者は非常にレベルの高い表現をされていたのです。

・10 月号掲載の漫画

10 月号には吾妻先生や内山亜紀先生などの漫画作品が多数掲載されていますが、それらの内容やレビューを書いていくと本誌のページがいくらあっても足りないため、割愛させていただきます。別の本を出すときにでも書いてみたいと思います（実はふくやまけいこ先生の「地下鉄のフォール」について書きたいのですが……）。

●レモンピープル

久保書店が 1981 年 12 月に創刊したロリコンマンガ商業誌です。阿島俊氏（米澤嘉博氏）の「ロリコン同人誌ピックアップ」では、シベールをはじめとするロリコン同人誌を紹介していました。同連載は「同人誌エトセトラ」と改題し、ロリコンだけではなく各種同人誌を紹介するとともに、そのときどきのコミケや同人業界の状況、事件や問題点を克明に記録していきます。この連載は久保書店刊『漫画同人誌エトセトラ’82-’98 状況論とレビューで読むおたく史』にまとめられています。

●アップル・パイ

徳間書店がアニメージュ増刊として出版（裏表紙の発行日は昭和 57 年 3 月 30 日）し

たロリコンマンガ本（注：エロはない）です。執筆者は早坂未紀先生、和田慎二先生、吾妻ひでお先生、谷口敬先生、このま和歩先生など。当時人気だったロリコン系の作家を多数集めた美少女まんが本です。また、原丸太氏（志水一夫氏）の「**ロリコン同人誌レビュー**」記事が掲載されています。'78年の『愛栗鼠』から、'82年4月ごろまでに発刊されたロリコン同人誌に至るまでの経緯と、ロリコンを取り上げた商業アニメ雑誌（『月刊 OUT』'80年12月号、『アニメック』'81年4月発行の第17号など）を紹介しています。こちらも非常に重要です。[11]

この記事では、ロリコンブームの期間を「覚醒期」、「胎動期」、「発動期」に分類しています。115 ページに、この記事中の主な出来事と志水氏分類の各期間をまとめた図（降間の責による作成）を掲載しています。

この記事で気になった点を。

> 81 年 10 月号〔11 月号が正しい〕の『〔月刊〕OUT』では、**阿島俊という人**が、ロリコン誌ブームに苦言を呈している。しかも、『ふゅーじょんぷろだくと』の同年 10 月号のロリコン特集を、予告を見ただけで批判している〔略〕。
>
> しかし『F 式蘭丸』にも書いてあるように、「否定からは何も生まれない」。
>
> 『アップル・パイ』、徳間書店、1982 年、117 頁

ここで志水氏が「阿島俊という人」という表現を使っていることです。普通、「○○という人」と言う場合、「**誰だか知らないけど名前が○○とかいう者が……**」とのニュアンスがあります。志水氏はおそらく“阿島俊”が誰だか分からなかったのでこの表現を使ったのでしょう。しかし、今では公然の秘密ですが、阿島俊＝米澤嘉博氏なのです。1982 年の時点では米澤氏が別のペンネーム“阿島俊”を使用していることが、まだ広く知られていなかったのでしょうか（「阿島俊＝米澤」であることを知っているなら、志水氏は「米澤氏は普段はロリコンを賞賛しているのに、阿島俊名義でロリコンを批判してるのは何故？」のような批判をするはず）。

志水氏が批判する『月刊 OUT』1981 年 11 月号の記事は、米澤氏の連載「**なんでもかんでもぶちコミックス**」中の「ちょっといわせてマンガあれこれ！」by 阿島俊 というコラムです。見て行きましょう。

> さて、現在では何がマンガ同人誌界で流行なのかというと、紛れもなく『ロリコン』なのである。ロリコン――この心地良き響きが多くの、**どちらかといえば、むさ苦しい男共**を魅き寄せる。〔略〕ロリコンもちょっとひねた（屈折した）男の子達が編み出した、**遊び**なのかもしれない。
>
> 『月刊 OUT』'81 年 11 月号、阿島俊、86 頁。原文のルビ省略。以下同じ

「どちらかといえば、むさ苦しい男共」……悪かったな！（笑）　この辺の記述から志水氏は、“阿島俊”がロリコン誌ブームをバカにしているようなニュアンスを感じ取ったのかもしれません。ただ、この“むさ苦しい男共”というのはコミケ及び参加者（米澤氏も含む）に対する自嘲も含んでいるのではと思います。また、「ロリコンはあくまで遊び」という点は、後述の「**アニメージュ 1982 年 5 月号**」の紹介文をご覧ください。

コミケットでは、神格化（?）した『シベール』亡き後、それに類するロリコンマンガ同人誌が、雨後の筍のごとく続々と登場〔略〕今夏〔'81年の夏〕のコミケットの台風の目は、「ミャアちゃん官能写真集」だったし、ロリコン系には比較的人気が集まっていた。

さてさて、こういった状況に即座に反応しようとしているのが、『ぱふ』から名を変えた『フュージョン・プロダクト』〔ひらがな表記が正当〕で、**9月末に出る号は、なんと「ロリコン特集号」というではないか。ファン状況にこうも早く対処していく姿勢は、フントにエラい！！ ファン雑誌の鑑だ！**（当然誉めているわけではないことを、この辺から読み取っていただきたい。〔略〕）

『月刊OUT』'81年11月号、阿島俊、86頁

米澤さん、かな・カナの区別はちゃんとつけようぜ（これに限らず、米澤……いや阿島俊氏は「と学会」を「ト学会」と書いたり[12]、ひらがなとカタカナの区別をしないことがある）。強調部分で確かに阿島俊氏は『ふゅーじょんぷろだくと』誌を批判……というか皮肉っています。内容を実際に読まずにけなすというのは確かに問題で、この点では志水氏の批判は正当です。

ただ、このコラムの次の部分はと言うと、

〔略〕流行だからといって安易に跳びついては、身を滅ぼすような気がする。また、間違った理論武装も避けた方がいい。虚心坦懐、美少女しか愛することのできない人は頑張ればいいし、ロリコンでたっぷりマンガ遊びをしたい人もやればいい。ただそういう人達が気をつけねばならないのは、**「ロリコンで在らねば人に在らず」という態度だろう。別にロリコンだからエライわけでも何でもない**のだ。

『月刊OUT』'81年11月号、阿島俊、86頁

となっています。米澤氏は、ロリコン誌ブームをバカにしているのではなく、ブームに参加する一部の人の「ロリコンで在らねば人に在らず」という態度を批判しているのでしょう。おそらく、当時、「これからはロリコンだぜ！　他のジャンルなんてカスじゃん」とか**イキってる**サークルが一部あり、ロリコン以外で活動している人を馬鹿にしたりしていたので、それは良くないといいたかったのではないでしょうか。「虚心坦懐、美少女しか愛することのできない人は頑張ればいいし、ロリコンでたっぷりマンガ遊びをしたい人もやればいい」と言っていることからも、米澤氏はブームそのものを非難しているのではないと考えます。

「否定からは何も生まれない」についてはおおよそ同意ですが、例えば昔のテキストサイトによくあった、変な作品を否定してクソボロにけなす記事でも、その**けなし方によって笑えるエンターテイメントになる**こともあるので、難しいところです。

なお、アップル・パイに掲載されている、吾妻先生、早坂先生、谷口敬先生、ふくやまけいこ先生などの漫画作品についても、その内容やレビューを書いていくと本誌のページがいくらあっても足りないため、ここでは割愛させていただきます。

●アニメージュ1982年4月号

この号は自分は未所持なので内容への評価

はできませんが、“1980 年代の資料”（http://web.archive.org/web/20190331114546/http://www.geocities.jp/azicon1/1980_S.html）によると、この号の付録が「**ロリコントランプ**」だったそうです（笑）。



「早坂未紀の世界」“1980 年代の資料”より

決めんなっ！！

……と、ともかく、ロリコンブームの影響がこんなところにも侵食していたのでしょう。ただ、このトランプは別に絵がエロいなどということはなく、いろいろなアニメの少女の顔の画像を使用しているだけでした。また、「「うる星やつら」のラムちゃんや、「未来少年コナン」のモンスリーまでいる」[13] ように、ロリコンの対象年齢（9〜14 才といわれる）から外れたキャラも含まれています。この当時、「ロリコン」という言葉は本来の意味から離れ「**アニメ等の美少女（を好むこと）**」と変化していたようです。

●アニメージュ 1982 年 5 月号

同年 3/21 に開催された C20（’82 年春コミ）を紹介した「**コミケット・アルバム**」なる記事と、「**アニメファンのビョーキスタイル研究　ここまで来た『ロリコン』ブーム。その最前線を追う！**」なる記事中でロリコンが取り上げられています。まず「コミケット・アルバム」から。

> 人気のまとはアニメ関係では『ゴッドマーズ』。『マーズ』のポスター付会誌 100 部を 400 円で売り、完売。約 7 万円の利益が予想されるというサークル「那由他」〔略〕
>
> 『アニメージュ』1982 年 5 月号、84 頁

当時のやおい同人誌ではゴッドマーズが人気だったことが伺えます。C20 の少し前にマーズ（主人公）の兄で、女子に絶大な人気のあったマーグ（CV：三ツ矢雄二！）が死んだため、会場には**マーグの遺影イラストを持参したサークル**があったそうです。なお、この当時は「同人誌」や「本」のことを「会誌」と呼んでいた[14] ようです。現在ではあまり「会誌」って言いませんね。

> もうひとつ、人気が集中していたのはいわゆるロリコン関係を特集している会誌。その見出しは「少女愛好家のために」「クラリスちゃんのにっき」「クラリス姫無事保護　犯人は変質集団（ロリコングループ）」etc……。
>
> 『アニメージュ』1982 年 5 月号、84〜85 頁

‘82 年春の時点でシベールが終刊となって 1 年が経っていますが、ロリコンブームはまだ好調だったようです。「少女愛好家のために」とは、早稲田大学アニメーション同好会が発行した『**別冊アニコム　少女愛好家のために**』のことでしょう。

この本、「当時勃興しはじめたロリコンブームに乗って話題になるとともに非常に大きな売上を記録した」[15] そうで、自分もぜひ読

んでみたいのですがまだ入手機会がありません。なんとしても読みたいです（ふくやまけいこ先生の絵が良い……うっ……[16]）。



Web サイト「漫画ブリッコの世界」、「別冊アニコム　少女愛好家のために」の内容紹介、http://www.burikko.net/people/anicom.html より。表紙はふくやまけいこ先生

また、『クラリスちゃんのにっき』など、クラリス本が人気だったと推測できます。この記事では一般参加者の予算や購入冊数についても触れられています。

ところで、会誌を買う側はお金をいくらぐらいもってきて、そして何冊買って帰るのだろう。「2 万円から 3 万円のあいだです。これで、20～30 冊買うつもり。お目当ては、**マンガ家・高橋留美子さん関係とロリコン！**」（兵庫県神戸市・男子・高 1）

『アニメージュ』1982 年 5 月号、85 頁

<想像図>



お目当ては、
マンガ家・高橋留美子さん関係と
ロリコン！

←兵庫県神戸市・男子・高 1

(C)いらすとや

さわやかに堂々と「ロリコン」言うな！　さわやかに！　しかも高 1 でっ！（高 1 でエロ買うなと[17]）

この**スケベ男子高校生**が高橋留美子先生の同人誌（おそらく『**うる星やつら**』か『**めぞん一刻**』のパロ本）を目当てにしている点も注目です。『うる星～』は 1978 年（厳密には 1979 年から定期連載）、『めぞん～』は 1980 年に連載開始されており、男子青少年に莫大な人気を博して、**'80 年初頭から中期にかけてパロディ同人誌（エロパロ本も含む）が多数刊行**されていました。ロリコンブームの後、コミケに男性向サークルがさらに増えた原因の一つは、**高橋留美子先生作品の人気とそのパロディ同人誌**です。

続いて「アニメファンのビョーキスタイル研究　ここまで来た『ロリコン』ブーム。その最前線を追う！」について。前半は、米澤（記事中では“米沢”表記）嘉博氏にロリコンブームのはじまり等を聞き、内山亜紀先生へのインタビューをするという構成です。

AM〔インタビュアーを務めたアニメージュ編集者らしい。以下同じ〕コミケットに出品されるロリコン・ファンジン（同人誌）は、どのぐらいの数

になりますか？

米沢　全体数 700 ぐらいのうち 30 ぐらいでしょうか。以前に比べるとかなりふえてきましたが、そろそろ頭打ち状態にあるようです。

『アニメージュ』1982 年 5 月号、125 頁

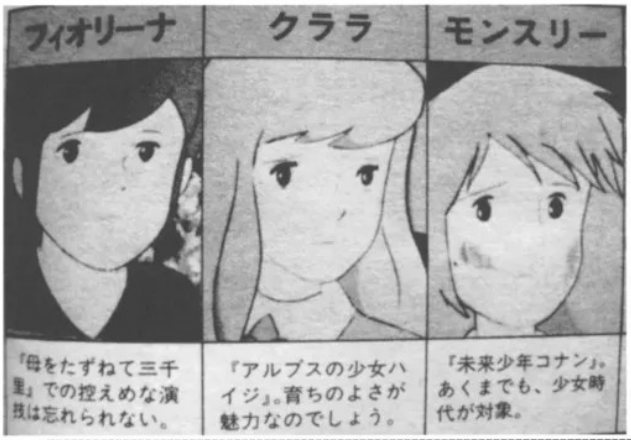
このインタビューは前述の C20 が開催されるよりも前に行われたようなので、「全体数 700 ぐらいのうち 30」というのは、インタビューの前に開催されていた C19 に関するデータと思われます。C19 のサークル数は 600[18]、1 サークルにつき平均で新刊 1 冊～2 冊程度と考えると、全体数 700 というのは C19 参加サークルが出した新刊の総数と考えられます。そのうちロリコン同人誌新刊が 30……つまりロリコンサークルの数は約 30 で、全体の 5%です。少ないと思われるかもしれませんが、2020 年現在のコミケ（サークル数約 35,000）で考えてみると、全体の 5%を占めるジャンルの場合、サークル数は 1,750、ビッグサイトの東ホールの一つを占めるくらいの数になります。当時のロリコンは、2020 年時点の **TYPE-MOON やアイマスなどの超人気ジャンルと同程度のサークル数を集めていた** と分かります[19]。

この記事では『別冊アニコム　少女愛好家のために』に掲載されている「**アニメ少女キャラによるきみの『ロリコン度』診断モデル**」がキャラの顔写真入りで提示されています。ロリコンの度合いを星一つから星三つまでの段階で表し、それぞれの段階に対して 6 人のキャラを示しています。まずはロリコン度が星一つの「まあふつう」から。



『アニメージュ』1982 年 5 月号、126 頁

やはり「クラリス・ラナ・ヒルダ」の御三家が当時は人気でした。それにしても、ラナは**もっとましな表情のカットはなかったのでしょうか。**



『アニメージュ』1982 年 5 月号、126 頁

星一つ「まあふつう」の残りの 3 人。……キャラデザインがおそらく同じ（宮崎？）なのもあってか、**どれも同じ顔に見えます**（アングルも全部同じ…編集者の意図？）。最近の萌え絵はどれも同じ顔って批判されますが、萌え絵がはやる前からアニメの可愛いキャラっておおよそ同じ顔だったのですね。

続いて、ロリコン度が星二つの「かなり重症」は……



『アニメージュ』1982年5月号、126頁

注目すべきは真ん中のアンジェです。他のキャラと比較すると明らかに目が大きく、少女漫画や現在の萌え系に通ずる絵柄になっています。なお、**吾妻先生はアンジェにドはまり**していました。また、他の3人は『魔女っ子メグちゃん』のメグ、ダイアナ（『赤毛のアン』アンの友人？）、アロア（『フランダースの犬』）です。

そしてロリコン度が最もひどい……い、いや、最も高いレベル。



『アニメージュ』1982年5月号、126頁

「もうビョーキ」って……　この「ビョーキ」とは、当時の流行語「ほとんどビョーキ」（山本晋也監督が深夜のH番組「トゥナイト」で言った言葉が流行語となった[20]）から派生した言葉です。ロリコン度が高くなるほどマイナーなキャラにはまるということがいいたかったのでしょうか。なお、星三つの残り3人はしずかちゃん、紫の星の王女、灯台守の少女です（しずかちゃんはともかく残りは「だれやお前ら」ですね）。

この米沢インタビューでは『カリオストロの城』のクラリスの異常人気と『クラリスマガジン』がロリコンブームのはじまりとしています。アニメージュ編集者は「いまやロリコンをこえて“二次元コンプレックス”つまり、絵にかかれた美少女しか愛せない、という人も多くいるとか」と聞いていますが、対する米澤氏の言葉がいいです。

> **米沢**　ええ。マンガやアニメのエロチックなシーンがすきだったり、少年マンガや少女マンガの女の子をかわいいと思ったりするのは、**特別おかしいことじゃないですよね。**ただそれだけにしか魅力を感じないというのはどうでしょうか。むしろ、パロディをやりやすい対象として、アニメやマンガの美少女キャラがあると考えた方がいい。

『アニメージュ』1982年5月号、126頁

米澤氏はこの種のインタビューでは、基本的にアニメ・漫画ファンに対する世間の偏見などをできるだけ払しょくできるように発言していたと分かります。「パロディをやりやすい対象として、アニメやマンガの美少女キャラがあると考えた方がいい」とは、**「ロリコン誌で美少女が描かれるのは「作者がそれしか愛せない」という変態的なことではなく、パロディのため＝あくまでお遊びなんです**

よ」ということでしょう。なお、この点については『ロリコン』（高月靖、バジリコ）に次の記述があります。

> つまりアニメ美少女にエロチックなことをさせるのはパロディであり、ただの遊びだったというわけだ。似たようなことを「編集家」の竹熊健太郎も語っている。竹熊は『網状言論 F 改』（東浩紀編著 2003 年）で、アニメ美少女のロリコン表現は「**最初は『シャレ』とか『パロディ』の一種だった**と断言できます」と述べた。だが「数年を経ずして、**本当に『それでオナニーする』ことを表明する人々**」が登場し、驚かされたという。
>
> 『ロリコン』104 頁より

アニメ美少女にエロいことをさせることが「パロディ」から、「本当にそれでオナニーする」ことを目的としたものに変化した時期、及びその変化が発生したきっかけなどは、まだ全然調べがついていません。この点は今後の課題です。

「アニメファンのビョーキスタイル研究～」後半は内山亜紀先生へのインタビューです。**月産 160 ページもの原稿をひとりで描いている**（！！）こと、実は女の子から「オムツがいい」というファンレターがくることなど、なかなか興味深い内容ですが、紙幅の都合で簡単な紹介にとどめます[21]。

●ジ・アニメ 1981 年 11 月号

近代映画社が発行していた後追いのアニメ雑誌です（1986~7 年ころまでに休刊？）。「特別企画　アニメ世界の妖精たち」なる記事でロリコンブームとアニメに登場する美少女キャラの紹介をしています。この記事については私がTogetterでセルフまとめを作成してツッコんでいます。なおこの記事ではロリコンブームの起源について**なぜか『シベール』に一切触れていません**。エロの話題はご法度なのでしょうか。

（“「ジ・アニメ」（近代映画社）'81 年 11 月号美少女キャラ特集へのつっこみ” - https://togetter.com/li/1491825 参照）

1 点のみつっこむと、吾妻ひでお先生へのインタビューコーナー中に同先生のイラスト（未来少年コナンのラナの絵）がありますが、そのイラストについた説明文が……



出典「ジ・アニメ」1981年11月号67ページ

『未来少年コナン』のヒロイン、ラナちゃん。〔略〕**見てください、このかわいさ！　うおお～！！**（注、ジ・アニメ編集部**ロリコン**

組合員のおたけびです）

『ジ・アニメ』近代映画社、'81 年 11 月号 67 頁

大丈夫なのか、この編集部。[22]

●月刊 OUT 1981 年 8 月号

“Lunatic Collection Part1 美少女”なる記事で、アニメの美少女キャラの紹介等を行っています。他の雑誌と比較してあまり面白くなく、特筆すべき点もないので簡単な紹介にとどめます。

アニメ・ゲームへの侵食

ロリコンブームは、アニメやゲームの分野にも影響を及ぼしました。同ブームに影響を受けた全ての作品を挙げるのは困難なので、一部を紹介します。

●DAICONⅢオープニングアニメ

1981 年 8 月に大阪で開催された日本 SF 大会第 20 回（略称：DAICON3）。岡田斗司夫・武田康廣両氏が主催しました。岡田氏らが庵野秀明氏ら（当時大阪芸術大学の学生！）に依頼して作成したオープニングアニメが大会冒頭で放映され、「素人集団がここまで質の高いアニメを作成できるのか」と話題になりました。また、主人公のランドセル娘の可愛らしさや様々な SF 系作品のパロディなど、美少女ファンやマニアの心をつかむ数々の要素を盛り込み，人気を博しました。

このアニメにも吾妻先生の影響が感じられます。『ふゅーじょんぷろだくと』1982 年 1 月号の特集記事にこのアニメのカットが多数収録されていますが……



『ふゅーじょんぷろだくと』1982 年 1 月号 9 頁

最初に出てきたキャラが吾妻先生の「不気味」と「なはは」なんですね。吾妻先生の当時の人気のほどが伺えます。なお、このオープニングアニメに影響された人々は、同様の内容の漫画などを作成していきます。その結果、「美少女とメカ」という、最も関係が薄かったはずの要素が融合した作品が同人業界に多数出現[23] します。

●『くりいむレモン』シリーズ

フェアリーダスト制作、創映新社が発売したアダルトアニメシリーズ[24] です。「1982 年公開の『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙』に登場するセイラ・マスの**入浴シーンを映画館でカメラに収めている**アニメファンらにビジネスとしてのヒントを得た」[25] ことから企画されました。昔の**おおらかすぎる**状況が伺えます（今の映画館においてスマホ等で写真や映像など撮ったらどうなるか）。

1984年8月発売の第1作『媚・妹・Baby』（今読み直すと**恥ずかしい**タイトルである）に登場した可憐かつ淫猥な妹系ヒロイン・野々村亜美というキャラと、大部分の作品でキャラデザを担当された富本たつや先生（『表面張力』の作者でもある）の美麗な絵は多くのファンの心をつかみました。なお、このシリーズについては、私の拙い文章よりもサークル「華ディスコ」（主宰：みぐぞう氏）発行の良質同人誌『くりいむレモン毒本』等をぜひ参照していただければと思います。また、このシリーズの第3作『SF・超次元伝説ラル』は、『シベール』に参加されたこのま和歩・計奈恵の両先生がキャラクタデザインを担当されています。このような点にも『シベール』の影響が伺えます。

●ロリコン風絵柄のアダルトゲーム

性描写のあるパソコンゲーム（アダルトゲーム）分野においても、1982年頃からロリコン風の絵柄の作品が登場します。

・『ロリータ・野球拳』

パソコンショップ高知（PSK）販売。同ショップの常連・武市好浩氏が作成した野球拳ゲームで、吾妻ひでお先生風……というよりほぼ吾妻先生に等しい絵柄の少女が脱いでいくというシンプルなもの。『蘇るPC-8801伝説』（アスキー）において、武市好浩氏は「その吾妻氏を「神とあがめている」と公言するクリエイター」[26]と紹介されています。武市氏はPSKの店頭で「プログラムを打ち込んでいた常連客の1人」で、同氏が作成したプログラムに店長が注目して発売が決定した[27]とのことです。吾妻先生の影響はパソコン業界にも及んでいました。

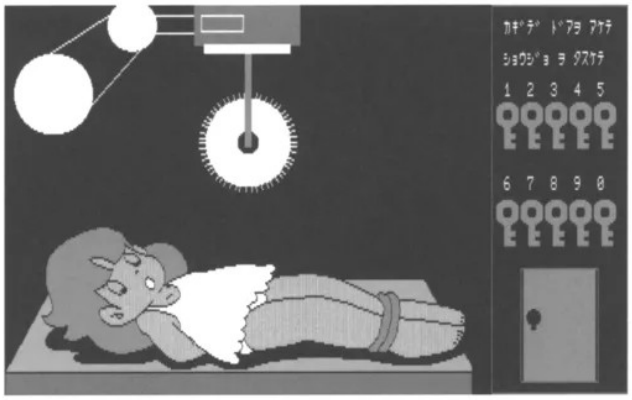
・『ロリータ・シンドローム』

あのエニックス社（当時）から1983年10月に発売された問題のソフト。学習漫画を多く執筆されている漫画家の望月かつみ先生がプログラム及び絵の全てを担当して作成された作品[28]。望月先生の丸っこくて頭身が低くて可愛らしい絵柄と、それに似合わない**エグくて猟奇的**なシチュエーションで話題を呼んだ怪作です。私が子供のころ、某パソコン雑誌でこのゲームが紹介されており、やってみたかったのですが購入する機会がないまま時を過ごしました。もっとも、遊んでたらただでさえ歪んでいる私の人格がさらに歪んでいたかもしれません（笑）。



『電脳世界のひみつ基地』“とんがりギャルゲー紀行 第3回：ロリータ・シンドローム”より

「メゾン・ロリータ」なる建物の女の子が縛られて**回転のこぎりが迫っている**ので正しい鍵を選んでドアを開け助けたり、別の子が拘束されているので**ナイフを投げて拘束を切ったり**（**投げるな！　歩み寄って助けんかい**）……といった具合のゲームです。失敗すると女の子たちは命を落とします……



『電脳世界のひみつ基地』“とんがりギャルゲー紀行 第３回:ロリータ･シンドローム”より

なんで絵柄は可愛いのにこんなエグい内容になったのでしょうか。想像ですが、当時のロリコンブームにおいて蛭児神建氏の猟奇的な作品が話題を集めており、それに影響された可能性があります。また、'70 年代後半～'80 年代初めにおいて『エクソシスト』や『13 日の金曜日』等のホラー映画がヒットしており、その影響も考えられます。

その後、望月先生は『ロリータ・シンドローム 2』として続編を作成されるのですが、あまりにも**内容が過激すぎてエニックスが発売を拒否**し、その後紆余曲折があって光栄（現コーエーテクモ）からタイトルを『マイ・ロリータ』に変更して発売されます。前作よりも変態の度合いがアップし、少女の**パンツを脱がして浣腸したり手術したり卵子をとりだしてクローンを作成したり**といった、**完全試合達成レベルのアウトの量産**っぷりです。さすがに画像の引用は控えますが、興味のある方は『みぐぞうの後ろ向き日記』“マイコン創世記を飾ったロリゲーについて語ってみる”（http://migzou.blog84.fc2.com/blog-entry-133.html）や，書籍『蘇る PC-8801 伝説』の袋とじ頁をご覧ください。

一般週刊誌等の扱い

これまでは漫画専門誌やゲームなど、おたく業界と親和性が高い分野におけるロリコンブームの報道等を見てきました。では、「週刊朝日」などといった一般週刊誌では、ロリコンブームはどのように報道されたのでしょうか。当時の全ての報道をチェックするのは難しいので、現時点で入手できた資料を見ていきます。

●GORO（小学館）“インサイドレポート 成熟した女を愛せないロリコン・ボーイの世界からキミは本当に脱出しているか”

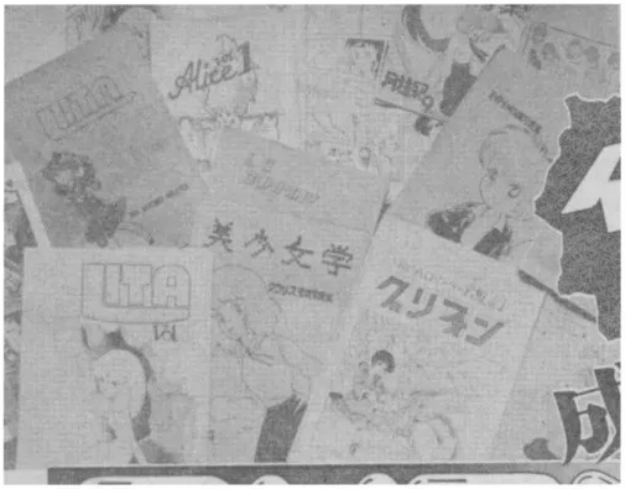
1974～1992 年において小学館から出版されていた男性総合誌です。同誌昭和 57 年 3 月 11 日号では、ヌード写真あり、「自民党 NEW リーダーたちは日本をどう変えるのか」という硬めの政治記事あり、連載漫画あり、……といった、一般週刊誌、ソフト H 誌、漫画雑誌が混ざったような構成です。

同号 42～45 頁に見開き 4 頁の「インサイドレポート 成熟した女を愛せないロリコン・ボーイの世界からキミは本当に脱出しているか」[29] なる記事があります。極端な敵意や悪意こそ感じないものの、この記事ではロリコン愛好者をやや「病んでいる」と否定的に揶揄しているようです。

[この記事の概要]

・ロリコンに関する用語紹介

・当時発行されていたロリコン同人誌のタイトル及び表紙写真（これは貴重か）



『GORO』昭和 57 年 3/11 号、43 頁。『ミャア官』や『美少女学』、『Alice』などが見える。

・蛭児神氏等への短いインタビュー
・ロリコン・ボーイ（ロリコン愛好者のことらしい）人気キャラの漫画、アニメ等「ベスト 5」紹介（どういう基準で選んだのか不明。**アニメ少女ベスト 5 にクラリスがいなかったり**、かなりいいかげんである）
・内山亜紀先生の『あんどろトリオ』紹介。当時の『チャンピオン』編集長によると「読者の 3 分の 1 は女のコ」（！）とのこと
・医学博士や「心とからだの相談センター代表」など識者の否定的な意見

この記事を全部読むときりがないので、かいつまんで紹介します。

推定だが、日本には、**ロリコン・ボーイが約 3 万人もいる。**

『GORO』昭和 57 年 3/11 号、42 頁

どうやって推定したんや。（注：推定方法などは書かれていません）かなりいい加減な姿勢で書かれた記事のようです。

バージンじゃなきゃイヤダという感覚はすでにしてロリコンの現われです。そもそも日本の男性が処女志向なのは、自分の性行動についての自信のなさの証明です〔「心とからだの相談センター代表」荒川氏の意見〕

『GORO』昭和 57 年 3/11 号、44 頁

ほー、じゃイスラム圏とかの男もみんな性行動に自信がないのかしら…

〔略〕スウェーデンは性犯罪がふえたので、15 年前にポルノを解禁した。とたんに犯罪は減った。しかし、普通だった社会で、新しい性的方向を打ち出したものが売れたら、性的犯罪がより減るのか増えるのか、証明はまだないのである。

『GORO』昭和 57 年 3/11 号、44 頁

いや、日本の性犯罪は**昭和 39 年以降減少しています**。法務省公表の犯罪白書（平成 18 年度版）の図（116 頁参照）からもわかります。この図において、ロリコンブームが盛り上がった昭和 55～57 年以降は、強姦の検挙人員や認知件数は増えておらず、むしろ年を追うにつれて減っています。

「証明はまだない」といいながらも、「ロリコンが流行ると性犯罪が増えるかもしれない」という印象を暗に与えようとしたのでしょうか。イヤらしいですね。

なお、この図において平成 11 年から強姦の認知件数が急増していますが、これはこの年から日本の男が狂暴化したということではなく、この年に発生した桶川ストーカー殺人事件への警察の対応が厳しく批判され、「その

後打ち出された、被害者からの相談への対応や被害届の受理の「積極化」という、警察の方針転換」[30] により、これまでは犯罪とされなかった被害が「掘り返され」るようになったことが原因と考えられます。

この記事の末尾では「こえだちゃん」（タカラが発売している 2 頭身人形）にはまった人を紹介した後、「異常の有無は異常さの典型の形でわかる。ロリコン・ボーイよ、キミはやはり、ちょっと病んでいるんじゃないか――」と締めくくっていますが、**余計なお世話**だし論旨としても誤っています（さすがにこえだちゃんにはまってるロリコン愛好者はごく少数でしょうし、ごく少数からロリコン愛好者全体の傾向を測るのも無理がある）。



『GORO』昭和 57 年 3/11 号、42 頁。沖先生や蛭児神氏らしきキャラもいる……

なお、この記事の冒頭には吾妻先生のイラスト（おそらく描き下ろし）が掲載されています。これは結構貴重かも。

●週刊朝日 “現代少年漫画考 ロリコン世代を慰めるウジウジ漫画の大流行”

週刊朝日'82 年 5 月 14 日号掲載の記事。タイトルだけで想像できますが、当時人気があったラブコメ系漫画やロリコン同人誌及び『あんどろトリオ』を揶揄的・否定的に扱っています。この記事の概要は次の通り。

〔略〕いま、少年漫画は「愛」でいっぱいだ。各少年誌の三割から四割は「学園恋愛もの」が占める。
〔略〕
学園メロドラマ、いわゆる「学メロ」ブームのきっかけとなったのは、五十三年の「翔んだカップル」（柳沢きみお、「少年マガジン」）である。

『週刊朝日』' 82/5/14 号、146 頁

この当時「学メロ」（ラブコメのことか）がブームになっていました。『翔んだカップル』ヒットを受けて「雨後の竹の子のように、さまざまなタイプの「学メロ」が登場してきた」[31] とし、これらの作品の主人公の性格が「気が弱くて積極的に行動できない」という主旨の難癖をつけ、……いや失礼、批評をしています（現実でも**中高生の平均的男子だったらなかなか積極的行動は難しい**だろうに……『ハレンチ学園』や『女犯坊』の主人公だったらまた別の文句をいうんだろうが）。

男の子の漫画は**リリシサがなくてはいけない**、と漫画評論家の石子順さんは、この「学メロ」ブームに批判的だ。
「私は“学メロ”を**“ウジウジ漫画”と呼びたい**と思う。というのは〔略〕まず、学校と家の中だけに舞台が限られて、世界が大変狭い。『みゆき』なんか親も出てこない。〔略〕それに男の

子はみな個性のないイイ子ちゃんばかりで、自己主張できない。『好きだ』といえないで、いつまでもイジイジして堂々めぐりするストーリーばかりで、ドラマが少しも進展しない。〔略〕“恋愛の生殺し状態”が延延と続く。それを読んで楽しむなんて、男の子のすることではない」

『週刊朝日』’82/5/14号、147頁

あの～……大丈夫ですか石子先生。**“ウジウジ漫画”**という呼称に悪意を感じます。「学校と家の中だけに舞台が限られて、世界が大変狭い」って、それのどこが悪いのですか。第一、それってラブコメだけでなくたいていの学園系漫画にあてはまりますが。「個性のないイイ子ちゃんばかりで、自己主張できない」ってのも難癖です。個性的すぎるキャラは（バトル漫画ならともかく）読者の感情移入が難しいんですよ。「『好きだ』といえないで、いつまでもイジイジして堂々めぐりするストーリーばかりで、ドラマが少しも進展しない」ってのは**連載を引き延ばす編集者**にでも言ってやってください。

それにしても、「ラブコメを読むなんて男の子のすることではない」と、**右翼のオヤジみたいな男臭い**ことをのたまっておられますが、石子先生、『子どものマンガをどうする』（啓隆閣新社、1976年）という著書[32]では次のように主張しておられます。

少年少女文化の状況は、こうしたおとな、わかものの文化状況を、そのまま反映したものといってもいいすぎではないのです。

モーレツ社員、出世欲、会社のために！ その根性教育をうつしだした鏡が、いまはやりのスポーツ漫画における根性であり、すべてこの世は男と女の世の中といわせる性の知識、小説、グラフなどを投影したのが、ハレンチ漫画なのです。そして、カッコいいスタイルのヒーローの活躍する活劇小説その他の暴力ものの世界は、殺しの連続、そのテクニックだけに追われる活劇漫画になっています。

『子どものマンガをどうする』啓隆閣新社、1976年、9～10頁

石子先生はこれらの漫画を批判し、スポ根ものを「食うか食われるか、弱肉強食、他人をけおとして自分が生きのこる、勝ちのこるというパターンのくりかえし」、『巨人の星』を「その毎日は、敵に勝つこと、仲間をけとばしてもはいあがるど根性の養成にあります」と批判[33]します。また活劇もの（ワイルド7などのバトル系漫画）を残酷と非難します。あの～……“ウジウジ漫画”やラブコメがだめでこれらの漫画もだめだったらいったい漫画家は何を描けばよいと？ **右翼なのかサヨクなのかはっきりしていただきたい**ものです。

この記事の後半で、ロリコンブームについて触れられています。藤本孝人氏の「ロリコンブームが起こったのは二年前〔’82年の2年前。1980年〕から」との意見を示し、『シベール』を次のように紹介します。

そこへ、昨年〔1981年〕春、東京・晴海の国際貿易ビルで開かれた全国の漫画同人誌の展示即売会〔なぜコミケの名前を出さないのか〕で、「シベール」という同人誌が、初めてロリコン漫画を発表した。あとは、あれよあれよという間に軒並みロリコンに転向する同人誌が続出〔略〕。これを漫画界では「シベール革

命」と呼ぶそうだ。

『週刊朝日』'82/5/14 号、149 頁

この部分、誤認があります。第 2 章で説明したように、『シベール』は'81 年ではなく 1979 年春コミで創刊されました。また「国際貿易ビル」なんて適当なこと書いてるし（「東京国際見本市会場」が正当）……。

この記事、前半でも「The かぼちゃワイン」の内容を「女の子じゃなくて、女の子のようなニューハーフの男の子にドキドキする物語」[34] なんて誤って紹介しています。『ストップ！ひばりくん』と混同しているようです。もっとひどいのは次の箇所。

まず、テレビの「アルプスの少女」のハイジや「**宇宙少年コナン**」のラナちゃんなどが「とってもかわいい」と〔略〕

『週刊朝日』'82/5/14 号、149 頁

混ざっとる！　混ざっとるやんけ！『宇宙少年ソラン』と『未来少年コナン』が！

この後、吾妻先生の『ミャアちゃん官能写真集』発売時のパニックの記述も。なお記事中に『ミャアちゃん官能写真集』引用カットがありますが、これ、吾妻先生直々製作の vol.1 ではなく、同先生のアシスタント等の方々が製作された vol.2 の方と思われます。

また、『あんどろトリオ』について「もう**病的な感じ**」（石子氏）などの意見を紹介して揶揄。いちおう内山先生の「**漫画なんておもしろければ、それでいい**じゃないですか」なる意見を紹介してバランスをとっていますが……（もっとも、この意見、内山先生が余計にひどく評価されそうで『週刊朝日』編集部の悪意を感じる……もしかしたら内山先生の意見をねじまげているかもしれん）。

以上のように、**事実関係をまともに調べないままロリコン等をおちょくるだけ**の記事でした。まぁ当時のオヤジ向け週刊誌はおおよそこんな感じだったのでしょう。



ロリコン族のアイドル・ミャアちゃんの「官能写真集」。プレイコミックの「スクラップ学園」のヒロイン

『週刊朝日』'82/5/14 号、148 頁『ミャア官 vol.2』転載。早坂未紀先生や森野うさぎ先生のイラストが（貴重）！

●その他

阿島俊氏は『漫画同人誌エトセトラ』で「最

近、というのは〔1982年の〕二月から三月にかけてのことだが、男性週刊誌でやたら「ロリコンブーム」とかいうものを取り上げて、紹介している。**『プレイボーイ』から始まって『GORO』『HOTDOGプレス』『バラエティ』ついには『ブルータス』まで**乗り出してきた。なにが彼等の勘に〔ママ〕さわるのか、いずれも**否定的なニュアンス**が見てとれる」[35]としています。この当時、これだけの週刊誌がロリコンブームを取り上げていたようです。ただ、阿島氏はこれらの雑誌の号数や発行日を書いてくれなかったので（ちゃんとしてよヨネや〜ん）、『GORO』と『週刊朝日』以外はまだロリコン記事が載っている号を特定・入手できず[36]、当該の記事を確認できていません。いずれ確認しようと思っています。

これらの記事の内容は、おおよそ『GORO』や『週刊朝日』と同様に、ロリコンや愛好者に対して批判的・揶揄的なものと推測できます。ただ、内容よりも「当時はこれだけ多くの一般週刊誌がロリコンブームを取り上げていた」という事実が重要です。同ブームはコミケや同人業界の内部だけにとどまらず、一般社会にも取り上げられるくらいに大きなものになっていたのです。

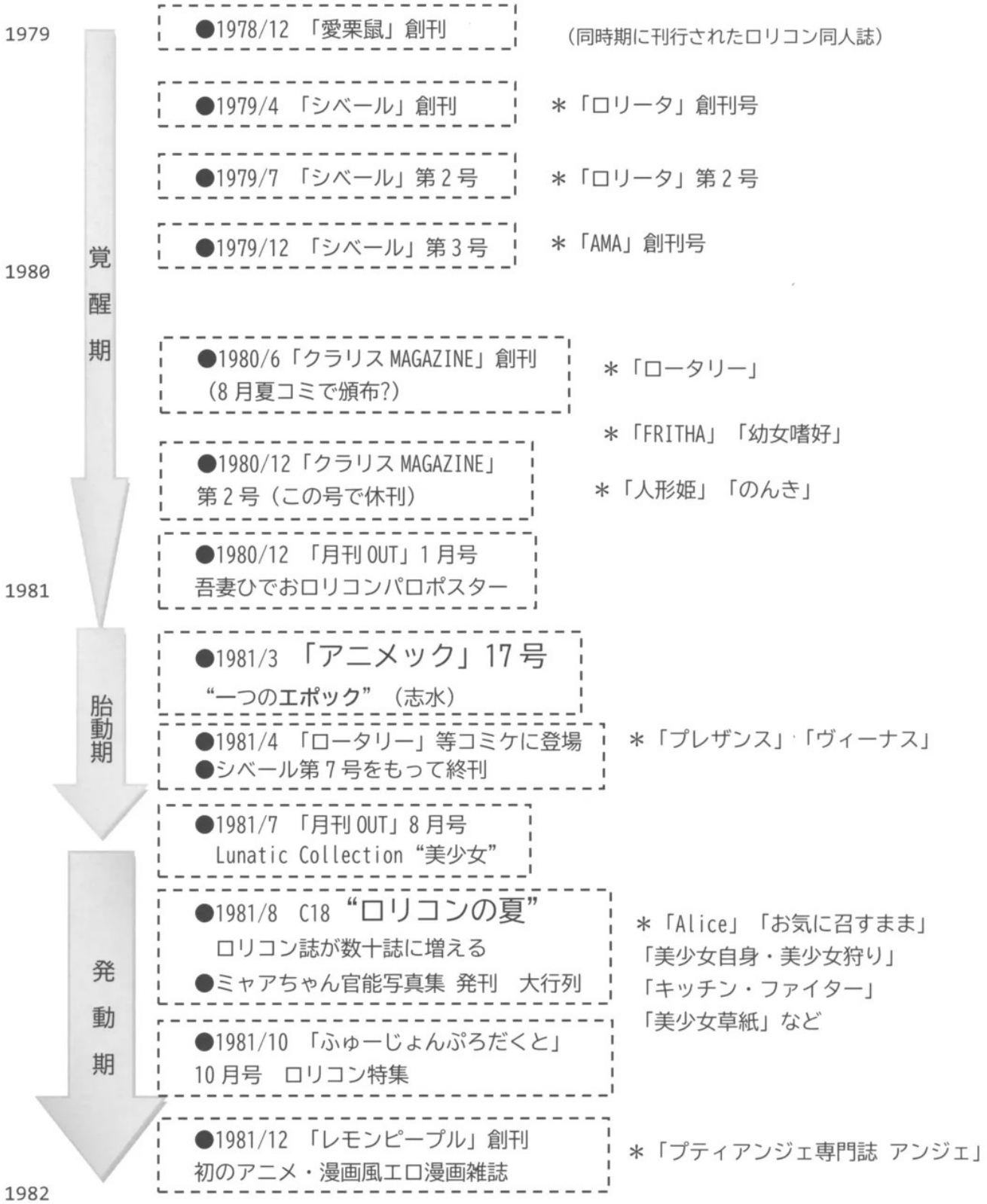
「ロリコン」から「美少女」へ

ロリコンブームの終息後、漫画・アニメ調のエロ漫画は変化していきます。わたなべわたる先生など、可愛らしい顔で胸が大きく肉感的な女の子が登場する作品や、森山塔先生の描くリアル指向のエロ漫画が登場し、狭義のロリコン作品が全体に占める割合は少なくなります。現在、書店の商業エロ雑誌コーナーを見ると、幼い子を題材としたロリコン対象のエロ漫画雑誌（『COMIC LO』）もありますが、大多数の雑誌はより身長の高いキャラが中心となっています。そして……

> 『シベール』が蒔いたロリコン漫画の種は**アニメ調の明るくポップな絵柄で描かれる実用的な「美少女コミック」へと一般化する過程で拡散・消滅**し、コミケにおける男性向け同人誌の主流ジャンルなども〔略〕「美少女もの」や「アニパロ」などになっていく。
>
> Wikipedia『シベール_(同人誌)』

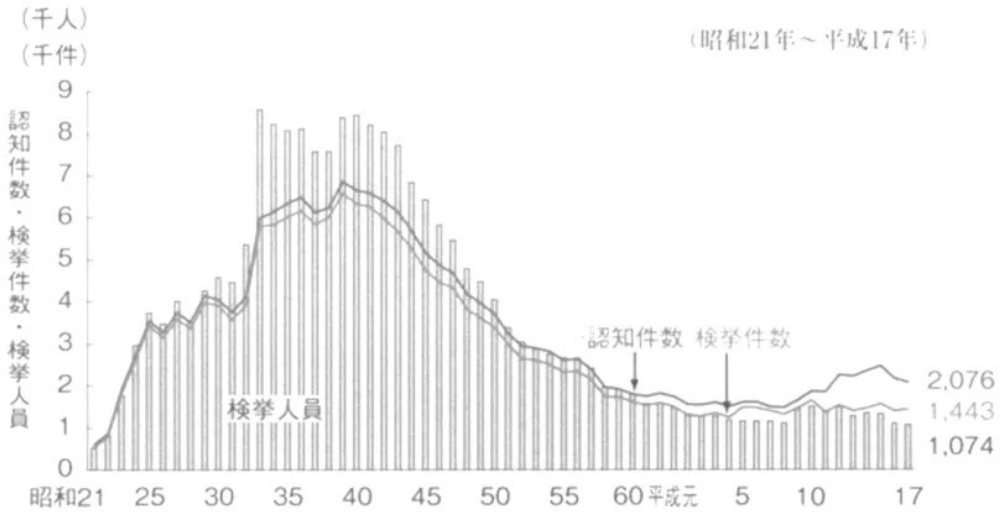
> ロリコンは、〔略〕即物的な少女姦〔略〕ではなく、精神的な「少女」への愛しさ、〔略〕「少女」という美など様々なものを含んでいた。〔略〕それは、SEXという行為とは無関係に成立する、かわいさへの憧憬であり、「美」の収集の一つでもあったはずだ。
> 〔略〕ロリコンマンガは、アニメ、少女マンガ、少年マンガなどの絵によって描かれる「エロマンガ」である「美少女コミック」へと一般化し、消えていくことになるのだ。
>
> 『戦後エロマンガ史』米沢嘉博、279〜280頁

『シベール』は性行為よりも少女の可愛さやストーリー性などを主題としていました。しかし、性器、性行為の過激さ、エロチシズム等をより重視する「美少女コミック」の隆盛により、ロリコン漫画は勢いを失いました。'80年中盤以降、「ロリコンブーム」という「祭り」は終わり、「美少女」という概念がおたく業界に蔓延していったのです。



アップル・パイ 「ロリコン同人誌レビュー」(原丸太氏)分類内容を図にしたもの(一部別媒体の情報含む)

6-4-1-1図　強姦の認知件数・検挙件数・検挙人員の推移



注　警察庁の統計による

『法務省　犯罪白書』“平成１８年版 犯罪白書 第６編/第４章/第１節/1”
http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/52/nfm/n_52_2_6_4_1_1.html より引用

[1] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B1%E3%81%B5

[2] その後、同編集部は「ふゅーじょんぷろだくと」社を設立、「ふゅーじょんぷろだくと」誌の名称を『COMIC BOX』と変更。

[3] 『戦後 SF 事件史 日本的想像力の 70 年』、長山靖生、河出書房新社、2012 年、178-179 頁

[4] 当時の『ぱふ』は高校生～大学生以上を対象としていたようで、評論や批評の文章もそのレベルのものが多かった。分裂後、「ぱふ」は低年齢化を図る。

[5] 10 月号 70～71 頁の「番外編少女を姦想する」（小松杏理）がその例。何を言いたいのかよくわからず、散漫な雑文にしか読めなかった（降間の知能が低いのもあるだろうが）

[6] つーか、好きじゃないと『SM ロリータ』なんて書かないよね（笑）

[7] 私はブルマ・競泳水着・競泳パンツ・レオタード・スク水等のフェチです

[8] 「ティファナバイブル」とも呼ばれる。詳細は Wikipedia 同項目を参照

[9] 『ロリコン』（高月靖、バジリコ）で、高月氏は手塚のエロティシズムに触れた後、子供向けマンガの性的イメージは公然と語られることはなく、「ずっと見えないことにされていた」（同書 98～99 頁）ため、'79 年頃まで語られることはなかったと主張されている。こちらの方が妥当と考える

[10] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%AB_(%E5%90%8C%E4%BA%BA%E8%AA%8C)

[11] http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconDoujinshiReview にこの記事全文が転載されている。ただし、誤字があるので引用の際は注意。

[12]漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史、阿島俊、久保書店、258 頁の記述より

[13] 『早坂未紀の世界』“1980 年代の資料”より

[14] 現在は個人サークル（これもヘンな言葉ですが）が多いが、当時は多数の人間が集まって構成するサークル（漫研なども含む）＝会が同人誌を発行することが多く、その本を会誌と称していたためか？

[15] http://www.burikko.net/people/anicom.html

[16] 「うっ」じゃねーよ（自分へのツッコミ）

[17] まぁ エロじゃないロリコン本目当てだった可能性もあるが……でもこの年頃の男子がエロに興味がないとは考えられぬ

[18] https://www.comiket.co.jp/archives/Chronology.html

[19] なお、やおいのかつての超強力ジャンル C 翼では、1986 年の C31 で 25%のシェアを占めていた……けたが違いすぎる

[20] https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E6%9C%AC%E6%99%8B%E4%B9%9F 参照

[21] 「1982 年頃のロリコンブームについて、米沢嘉博と内山亜紀へのインタビュー」（https://soorce.hatenablog.com/entries/2006/11/10#p1 ）に全文掲載されている

[22] 『ジ・アニメ』誌は早期に休刊したので大丈夫でなかったのだろう

[23] 『漫画同人誌エトセトラ』58～59 頁参照

[24] このシリーズより少し前にワンダーキッズ社から中島史雄先生原作の「ロリータアニメ」シリーズが発売されていたが、第 1 作等が「シナリオは陰鬱、作画は「アパッチ野球軍」みたいな劇画タッチ崩れ」で「イロモノ扱い」（『くりいむレモン毒本おかゆ』4 頁）される代物で、あまり売れなかったそうである（ただし、第 3 作「仔猫ちゃんのいる店」はマシになったようだ）

[25] Wikipedia『くりいむレモン』の項参照

[26] 『蘇る PC-8801 伝説』216 頁

[27] 『蘇る PC-8801 伝説』216 頁

[28] 現在の大規模化したゲームでは無理だが、パソコンゲーム黎明期の当時はプログラム・絵・その他全てを一人で行う制作スタイルが当たり前であった。

[29] http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/GORO19820311 にこの記事が写真と共に全文転載されている

[30] https://yab.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20140331.html

[31] 『週刊朝日』'82/5/14 号、146 頁

[32] たまたま私の自宅にありました。表紙のアトムの後ろ姿がかわいくてつい某児童書古本屋でかなり前に買い、読まずに放置していたのです

[33] もっとも、石子氏のスポ根批判はうなずけないこともない（私＝降間もスポ根ものや軍隊しごき系作品が大嫌いなので）。

[34] 『週刊朝日』'82/5/14 号、147 頁

[35] 『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』 阿島俊、久保書店、26 頁

[36] なぜ GORO と週刊朝日は入手できたのかというと、『アニメック』25 号の原丸太氏のロリコン記事に、GORO と週刊朝日のロリコン紹介記事掲載号の発行日が出典として記載されていたからである。原氏には感謝してもしきれない

最終章　得たものと失ったもの

——ロリコンブームの功罪

両方で對い合つて離別の言葉を交した時に、イザナミの命が仰せられるには、「あなたがこんなことをなされるなら、わたしはあなたの國の人間を一日に千人も殺してしまいます」といわれました。そこでイザナギの命は「あんたがそうなされるなら、わたしは一日に千五百も産屋を立てて見せる」と仰せられました。こういう次第で一日にかならず千人死に、一日にかならず千五百人生まれるのです。

現代語譯　古事記、武田祐吉訳、https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html

もう一度、志水一夫氏の意見を思い出してみます。

ほど遠からぬ内に「かつてロリコン誌ブームというのがあったなァ」と言われる日が来るに違いない。しかし、「ロリコン誌ブーム」は確実にわれわれの中に何かを残して行きつつある。われわれは「ロリコン誌ブーム」というファンダムの変革を通りすぎることによって、**今まさに何かを得ようとし、また失なおうとしている**のである。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、ラポート、98頁

われわれ——漫画やアニメを愛好し、コミケ等同人イベントに参加したり、同人誌を出したりする人たち——大雑把にいえば「おたく」である我々が、ロリコンブームによって得たものと失ったものを、当時の記録などから可能な限り浮かび上がらせます。なお、これから示す「得たもの」と「失ったもの」はすべて私の推測であり、1981年の時点で志水氏が想定していたものと異なる可能性があります。

得たもの

ロリコンブームによって得られたもの——おそらく多数ありますが、重要なものは**“コミケ及び同人誌業界（さらに大きく言えばおたく業界全般）の発展”**と**“多数の才能の開花”**と考えます。

●コミケ及び同人誌業界の発展

1975年12月に開催されたコミケの第1回では、参加者数は推定700人、サークル数は32でした。それから43年後、2018年12月に開催されたC95では、参加者数は**57万人**、参加サークル数は**35,000**になり、サークル数は第1回の約1,000倍、参加者数も約814倍になりました。ここまで規模が大きくなったイベントも他にないでしょう。このようにサークル数と参加者数が膨大になった理由の一つは、ロリコンブームによって発生した次のサイクルです。

ロリコン（エロ）同人誌が人気に
↓
一般参加者が増えイベント規模が増大
↓
他のサークルもコミケに参加するように
↓
より多くの優れた同人誌が頒布される
↓
ロリコン（エロ）同人誌が人気に

↓

一般参加者が増えイベント規模が増大

↓

⋮

（繰返し）

エロを求めるなんて……と眉をひそめる人もいるかもしれませんが、VHSのビデオデッキが一般家庭に普及したのもアダルトビデオの人気が主因でした[1]し、「性」は人間にとってもっとも重要な要素の一つです。エロチシズムの追及によって芸術が発展するように、コミケ及び同人業界もロリコンブームによって発展したのは疑いようもないことです（もっとも、コミケ等が発展・肥大化したのは、'85年以降の**「C 翼・星矢・トルーパー」のやおい大ブーム**の影響がより大きいでしょうが）。

また、第5章で触れたアダルトゲームやアダルトアニメといった、同人誌即売会以外の分野における新しい表現の発生など、「おたく」関連の各種業界にも非常に大きな影響がありました。

●多数の才能の開花

第2章で触れた森野うさぎ先生など、『シベール』に関わったために才能を開花させ、漫画やアニメなどの業界で重要な役割を担うようになった人々は多数おられます。『シベール』関係者、ロリコンブームで活躍した同人サークル、その他の方々の名前を列挙していくと……

・『シベール』系…吾妻ひでお、沖由佳雄、蛭児神建、孤ノ間和歩、計奈恵、豊島ゆーさく、森野うさぎ、早坂未紀、三鷹公一

・『人形姫』系…千之ナイフ、破李拳竜

・三流劇画系…谷口敬、内山亜紀

・“まんが画廊”系…ゆうきまさみ、しげの修一

・『シベール』に影響されたサークル…みやすのんき、まいなぁぼぉい

・『漫画ブリッコ』系…岡崎京子、桜沢エリカ

・『シベール』から派生したサークル…あさりよしとお

・『シベール』の子孫…新田真子、たつねこ、うたたねひろゆき

（以上敬称略。なお、以上は**氷山の一角**に過ぎない）

以上の錚々たる人々が直接的または間接的に、ロリコンブーム及びコミケによって才能を開花させたといえます。これらの人々が自身の作品を発表し、それに影響された若い世代がコミケや商業漫画に参入し……という繰返しによって、日本のクリエイティブ業界は規模を大きくし、発展していったのです。米澤嘉博氏は「ある意味、後に**オタク的といわれるカルチャーの大半は、このロリコンブーム時代の同人誌界から生まれ、育っていった**ものであることは間違いない」[2]と述べています。このブームが以後のおたく界隈にもたらした影響は少なくありません。

●その他

ロリコンブームによって得られたものについて、阿島俊氏は『漫画同人誌エトセトラ～』で次のように述べています（『レモンピープル』1993年5月号の記事）。

表面的な形でのロリコンブームは終ろうとしている。〔略〕だが、このロリコンブームによって、

マンガと美少女で遊ぶことの楽しさ、美少女の絵を描くことの悦び、そしてマンガの持つ気持ち良さみたいなものに、男達は気がついてしまった。〔略〕プロダム＝少年マンガ界ではかわいい女の子を描くことは必要条件になりつつある。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』阿島俊、久保書店、41 頁

第 1 章で触れたように、1970 年代は少年マンガが劇画傾向になり、**女の子の可愛さなどの面がおろそかになって**いました。しかし、（推測ですが）ロリコンブームによって美少女の絵やキャラの可愛さが重視されるようになり、また『レモンピープル』、『アップル・パイ』等の美少女系商業雑誌が人気を博したことから、一般商業誌でも可愛い女の子が登場する漫画が増えていきます。その結果、「プロダム＝少年マンガ界ではかわいい女の子を描くことは必要条件」になりました。特に少年サンデーは 1980 年代以降ラブコメ路線をとり、部数を伸ばします。

1980 年代に入ると、劇画村塾出身の高橋留美子の『うる星やつら』（1978 年）と、『少年ビッグコミック』で『みゆき』をヒットさせていたあだち充の『タッチ』（1981 年）のヒットでラブコメブーム（学園もの、青春もの）を巻き起こし、部数を大きく伸ばして、1983 年には最高発行部数の 228 万部を記録するなど黄金期を迎えた

"週刊少年サンデー" https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%B1%E5%88%8A%E5%B0%91%E5%B9%B4%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%BC

もっとも、この時期も少年マガジンは「**ガクラン八年組**」とかの暑苦しい漫画があった[3]のですが……（笑）

失ったもの

ロリコンブームによって失われたもの——正確には同ブームだけでなく、コミケなどの同人誌即売会の発展、及び C 翼などやおい系ジャンルの超人気獲得・需要増大も原因なのですが——それは同人の**牧歌的な点**です。

マンガ同人誌もかつては、〔略〕**仲間の同人内に配布するものが中心**だった〔略〕。

『同人誌ハンドブック』阿島俊編、久保書店、10 頁

〔コミケの〕発足当初は三十ニサークルで、一般の参加者を入れて六百～七百人の規模でした。まだまだ同人誌自体に商品価値なんかまったくなかった時代ですから、**会員内でばらまかれて終わっちゃう**という、本当の同人誌でしたね。〔略〕一般に向けて出すという発想はないんです。

『別冊宝島 358 私をコミケにつれてって!』宝島社、17～18 頁

第 1 章の復習になりますが、元々の同人サークル活動はおおよそ上のようなものでした。よって、サークルの会員だけか、またはごく限られた一部の人にしか手に渡ることはなく、多数の同人誌を販売（"頒布"とはあえてここでは書かない）して利益を上げるというモデル自体、存在していませんでした。会員が同人誌の制作費を折半して負担するので、本が売れ残ることなどを心配する必要もなく、

ただ**作って仲間内及び少数の同好の志だけで読んで楽しむ**という牧歌的な運営で済んでいました。

しかし、ロリコンブームによって多くの男性一般参加者がコミケにやってくることで、人気のあるサークルでは、その参加人数よりもはるかに多い数の同人誌が頒布されるようになります。『シベール』を例にとると、最も多かったと思われる第 7 号でも参加人数は 13 名[4] 程度（吾妻先生・沖先生含む）ですが、同号の頒布部数は 500 部[5] であり、サークル人数に比べて一般参加者への頒布部数が非常に多くなっています。このように、自分のサークルの本が人気を博して多数の一般参加者に購入されるようになると、会員数を多少上回る程度の部数では足らず、次回以降の新刊などでは以前よりも多くの部数を発行することになります。

自分が作ったものがより多く売れるのは誰でも嬉しいものです。また、完売して購入できなかった一般参加者が落胆する姿を見たり、ひどい場合は当該の者からの**クレームを受けたりする**ことで、もっと多く作らなければとの方向に動くのが人情というものです。その結果、人気サークルの本の発行部数がさらに増加していき、それまでは仲間内及び少数のサークル外のみに配布・頒布されていた同人誌は、商業ルートの一般製品のごとく不特定多数の消費者（あえてこう書く）にも流通するように形態が変化していきました。

そして、より多くの人に見てもらうように絵のレベルの向上やストーリー等の洗練を図り、作品の品質向上に注力するサークルが多数現れました（第 5 章参照）。それ自体は問題はなく、むしろ同人サークルの制作物の品質の底上げとなり良いことです。しかし、「あの人気サークルみたいに **とにかく同人誌を多数コミケで売りたい（そして儲けたい）**」という方向に走るサークルも現れ、次のような問題が起こります。

> 中には、大股びらきのアニメキャラを描いたイラストコピーを **5、6 枚封筒に入れて、1000 円で売った**という**悪質なやり方**をしたところもあったと聞く。
>
> 『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』、阿島俊、久保書店、41 頁

上の引用文は『レモンピープル』1983 年 5 月号の記事です。この時点でこういう方法をとっていたサークルが存在していました。このイラストのクオリティが高ければまだ許せますが……また、**封筒に入れているから中を確認できない**（推測）のもイヤらしいですね。同人誌のいいところはその場でパラ見して内容を確認してから買えることなのですが。1981 年 10 月前後に志水一夫氏も次のように述べています。

> 〔略〕自分の作ったファンジンが売れるというのは気持ちのよいものだ。中には**描きたくないのに「会のため」とロリコンものを描かされた**ファン・ライターもいると聞く。また**表紙だけロリコン誌風**で、**中身はただの下手クソな創作ファンジン**という例もいくつか見られた。**つまらないイラスト集を、さもそれらしくビニール袋に入れて売っている**ものもあった〔略〕[6]。ブームなるものには、常に

こんな一面がつきまとうものらしい。

『ふゅーじょんぷろだくと』1981年10月号、ラポート、97頁

志水先生、**「下手クソな」は余計**です。それにしてもビニール袋に入れるというのもセコいですね……ともかく、こういうことをして自サークルの同人誌を売ろうとするあさましい（あえてこう言う）者も現れるようになりました。私が同人にはまり始めた1993～94年頃も、**表紙がすごく綺麗で可愛らしいキャラの新刊**を買ったところ、そのキャラの絵を描いた作家は**本文を全然執筆しておらず**（あるいは適当なラフイラスト1点のみとか）、**その作家の取り巻き（失礼）の者らが描いた手抜き極まりない質の低い漫画やイラストが少し**、あとは汚い手書きの字のフリートークや穴埋めの駄文しかない本[7]だったことがありました。同人ズレするまで、こんな本をたくさん買ってしまいました[8]（……）。

1983年の時点で、阿島俊（米澤嘉博）氏はこのようなサークルの在り方に疑問を呈しています。多少長くなりますが、重要な点なので引用します。

また、サークルの在り方にも疑問を感じている描き手の人は多い。〔略〕前にこのコーナー〔「漫画同人誌エトセトラ」〕で取り上げたこともある同人誌の描き手から、似たような趣旨の手紙があい前後して届いた。〔略〕「〔略〕友人の買ってくる本を見ているとちょっとひどいんじゃないかという本が多々あります。こういう事いっちゃなんですが、**10分かそこらで描いたイラストや1日2日で描きとばしたマンガ**。それもストーリーがあればまだいいんですが、○○[9]**だけ**。〔略〕こういう2、3日で作りあげられたような本を見ていると何か寒くなります。だったら買わなければいいとお思いになるかもしれませんが、友人の話では**コミケの会場ではいちいち中をたしかめる時間がなく、人の流れにそって表紙だけでどんどん決断していかなければいけない**んだそうです。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』阿島俊、久保書店、42頁

……昔（1983年前後）の時点でかつての私と同じような目に遭った人がおったようです。ロリコンブームの影響で一般参加者が多数集まり、大手サークルの行列の様子を見たりすることで欲を出し、自サークルの同人誌の内容を充実させるのではなく「エロならみんな買ってくれるからとにかく出せばいい」という安易な考えで詐欺的（あえてこう書く）な本を出すサークル（注：全ての男性向エロサークルがそうというわけではないですよ）が現れました。

この種のサークルは、本を買わせるために表紙だけ凝ったり、**一部の有名な描き手に依頼してその名前を利用**したりする手口を用います。

〔略〕また、同人誌界で結構有名な描き手に、「最近、**なんでもいいからイラスト描いて下さい**と言ってくるサークルが増えた」ということを聞かされた。**そんなイラストをとじあわせて作った物が、果たして同人誌でありえるのだろうか**。同人誌の買い手達が、もっと選んで買うべきであろうし、**創り手達も作品を描く、本を作るということはどういうことなのかをもう一度考える必**

要があるだろう。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』阿島俊、久保書店、43 頁

阿島氏の意見は確かに適切です。ただ、「同人誌の買い手達が、もっと選んで買うべき」といっても、そもそもコミケ会場が混雑していて「人の流れにそって表紙だけでどんどん決断していかなければいけない」という構造的問題も原因の一つなので、各人の意識を高めるだけではどうしようもない面があります。人気のある描き手の作品をとにかく集めるというのも、同人誌だけではなく商業雑誌等でよく見られることですので、同人誌だけの問題ではないですが……。

『アニメック』27 号（1982 年 12 月発行）の「ファンジンは今！」という同人誌紹介記事でも、石清水了・桂木茉利・遠藤昇なる 3 人[10]（素性不明、おそらく全員**捨てペンネーム**）が次のように述べています。

石清水 あとさ、プロとかセミプロのいわゆるスター・ライターの人たちに寄稿してもらってね、しかも**本の名前より大きくその人たちの名前をズラズラ書き並べた宣伝ビラをまいたりしている**なんて所がいくつもあったりするでしょ。
遠藤 そうなるともう末期的症状ですな。
桂木 作りたいというよりも、**売りたいということの方が優先されている**感じね。
石清水 しかもそれが妙に高かったりする。
遠藤 まさかそれで食ってるんじゃないでしょうね（笑）

『アニメック』27 号（1982 年 12 月）、155 頁

こいつらの態度はともかく、「売りたいということの方を優先」するサークル（繰り返しますが、男性向サークルの全てというわけではなく一部）が出現したことは事実のようです。

本をとにかく売ろうとすることの弊害（というべきか）の一つに、「**呼び込み**」があります。自サークルの前の通路を通る人らに大声で呼びかけたり強引に引き止めたりすることです。

コミケの規模が大きくなるにつれ、呼び込みが話題に上るようになります。コミケの過去のパンフレットやカタログ中のまんがレポート（まんレポ）等を確認します。

(A)…1977 年 7 月 C6 のレポ漫画



『コミックマーケット30's ファイル』 青林工藝舎、49 頁 漫画コマの一部

(B)…1984 年 12 月 C27 の様子のまんレポ



榎野彦28部衆

『コミックマーケット30's ファイル』 青林工藝舎、116 頁

(C) …1984 年 12 月 C27 の様子のまんレポ



多摩美術大漫研

出典:(B)と同じ

(D)…C26 カタログの記事「タダと自由ほど高いものはない」より

最近よく即売会に関する批判の声を目や耳にする。〔略〕

例えば――〔略〕**歩いている人の前に立ち塞がり押し売りする。後ろから「買って」と言い乍ら息を吐きかける。**

『コミックマーケット30's ファイル』 青林工藝舎、115 頁

(E)…『ミニティー夜夢』収録の漫画「愛なき世界」のコマ（127 ページ引用画像参照）。なお、このコマの存在は作家・山本弘先生のサイト『山本弘の SF 秘密基地 BLOG』の“初めてマンガの中でコミケを描いた作品は？”http://hirorin.otaden.jp/e409884.html から知りました。

(F)…『ぱふ』1987 年 1 月号「編集助人・キャプ子とちゃんばの同人誌狂乱記」より

「私、〔夏コミの会場を〕一人で回る！」〔略〕人込みを歩いた。と、後ろから東邦コスプレをした兄ちゃんが**「ねっ、コレ買って♥」と私の肩をぐわしっ！と掴む**ではないかっ。

『ぱふ』1987 年 1 月号、雑草社、18 頁

多数引用しましたが、当時のアニメ雑誌などをもっと調べれば、この種の「呼び込み」の例は更に見つけられると思います。これだけ色々なメディアで言及されていることから、**当時はこういった呼び込みをするサークルが多数存在した**ようです。現在のコミケ等ではこのような悪質な呼び込みをするサークルは少なくなりました[11]（ゼロになったとは言えません。“迷惑な呼び込みをするサークルについて” - https://togetter.com/li/967238 の

ような例もあるので）。なお、(A)はロリコンブームが起きる前の C6 時点の呼び込みなので例として不適切ですが……まあ昔から本を売りたくてマナー違反する輩はいたということでしょう。

それにしても、(D)の「後ろから「買って」と言い乍ら息を吐きかける」ってのはもう痴漢の類ですね。また(F)の見ず知らずの通行人（注：知り合いとか友人とかいうことではなさそう）の肩を掴んで押し売りするというのも……。**昔は異常だった**ということです。

本を買う側の問題行為として「買占め」が挙げられます。有名サークルの新刊を大量に購入し、それをオークションサイト等で転売することで利益を上げようとする個人または企業が、1990 年前半頃から出現しています（降間が確認した限り。もっと以前から出現した可能性もある）。『コミックマーケット 30’ｓ ファイル』の、うたたねひろゆき先生らが参加された座談会より。

うたたね 一度、〔新刊を〕**736 冊**くださいっていうのがあった。
一同（笑）
里見 端数があるところがかわいいね(笑)。
うたたね 1500 冊しか刷ってなかったので、どうしようかと悩みましたね。

『コミックマーケット 30’ｓファイル』青林工藝舎、274 頁

上の新刊はうたたね先生が'92 年夏コミにて発行された『革命』（かくめいではなく「かわいのち」と読む。ボンデージイラスト本）です。この本を 736 冊購入した奴ですが、地方在住でコミケに行けない現地の友人が非常に多く、本当に 736 人前後に配布するために購入した可能性もあります……が、おおかたは当時大人気だったうたたね先生の新刊を買占め、あとで転売して儲けようとしていたのではないでしょうか。このようなことがあり、うたたね先生は新刊の冊数を増やしましたが……

うたたね〔略〕だからそのあとガンと増やして、「エヴァンゲリボン」では**1 万部**にしたんですけど、**開場 15 分で終わっちゃった**（苦笑）。それに、同人誌古書店がそのころ出始めて、**レヴォ開始 30 分で売り切れた本が、その 1 時間後ぐらいに 1 万 5 千円で売ってた**っていう話もあって。それで、ああもうこのやり方はダメだ、と。

『コミックマーケット 30’ｓファイル』青林工藝舎、275 頁

以上のようなこともあり、うたたね先生は新刊頒布の冊数制限をかけたそうです。現在、コミケで大手サークルが新刊の購入可能部数を「1 人 1 限」などと制限しているのも、転売目当てで大量に買い占める奴への対策です。作り手が必死で作った本を、関係ない奴が**不当に**（ここ重要ね）金儲けするために買い占めて、ほかの人らが適正価格で入手できないようにする悪質な行為が横行してしまったのです。かつて牧歌的だった同人誌即売会とその周辺は、言葉を一切選ばずに言えば、株式市場のような**金欲にまみれた場**になっていったのです。

ここまで書くと「いや、うちのサークルは昔のように会員制で会員と少数の一般参加者にしか新刊を配布していないし、金儲けもし

ていない」と反発される方もいるかもしれません。そういうサークルも当然あるでしょうし（学漫サークルなど）、そのような活動が否定されるわけではありません。ただ、私が言っているのは同人業界全体の平均としてのことなのです。「とらのあな」などの同人誌販売書店がコミケ等のイベントに合わせた新刊を大々的に扱うことや、コミケの経済規模が初期とはけた違いに大きくなったことからも、同人業界を総体的に見た場合、以前と比較して同人の牧歌性が失われているのは事実ではないでしょうか。

ロリコンブーム以降、同人業界の規模の増大に伴い、第5章で紹介した「クラリスマガジン」の発行サークルA・W・S・Cのように、人気の同人誌を印刷しすぎて発送が滞り、あげくのはてに失踪するような輩も現れました。

〔A・W・S・C のクラマガ未発送問題が〕ここまで大きな問題になっていったのは、結局、印刷所との関係や、プロジンとの関係、さらには、**本人がそれ以外に起こした問題**などがあったためと見た方が正しい。〔略〕

こういった問題が起こってくる大きな原因は、**たぶんお金**だ。アルバイトで稼いだ金で同人誌を出すとかいう話は、最近まったく聞かなくなってしまった。それどころか、**何処はいくらもうかった**とかいう話の方が多い。〔略〕

別に同人誌にもうけをのせてはいけないなどとは思わないが、**あくまで遊び、趣味の範囲であることを忘れてはいけない**ような気がする。

『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』、阿島俊、久保書店、55頁

米澤氏は上のように述べています。しかし、ロリコンブーム発生後のコミケや同人誌界は、サークル・一般ともに参加者数や同人誌の発行部数などをますます増加させていき、同人誌の発行で生計を立てることを企図するサークル（前述のモルテンクラブなどはその例といえる）も現れました。同人誌をとりまく界隈の経済規模は、「遊び、趣味の範囲」ではすまない規模になっていった[12]のです。

……ここまで書いてきて思ったのですが、ロリコンブームによって「得たもの」と「失ったもの」は表裏一体です。同ブームによって参加者が増えコミケ及び同人業界の経済規模が大幅に増えたので、前述の**“コミケ及び同人誌業界（さらに大きく言えばおたく業界全般）の発展”**と**“多数の才能の開花”**という「功」が生まれるとともに、同人の**牧歌的な点**が失われるという「罪」（この言葉は適切ではないでしょうが……）も一緒に生まれたのです。

『古事記』では、イザナギはイザナミを救出できず黄泉の国から逃げ帰ります。しかし、その後に行った禊（みそぎ）によって、天照大御神、月読命及び須佐之男命などの神々を得ました。コミケ及び同人業界においても、何かを失うことで別の新しい何かを得ることが、ロリコンブームによって誘（いざな）われたのです。

■『ミニティー夜夢』（吾妻ひでお、秋田書店、昭和 59 年 12 月初版）収録「愛なき世界」、当時のコミケらしき即売会の光景。「ヨネやーん」っていう声がするのが面白い。また、虎縞ビキニのラムちゃん的コスプレをする男（……）が当時けっこういた。



『ミニティー夜夢』、吾妻ひでお、秋田書店、122 頁

[1] “アダルトビデオがVHSをスタンダードにした”https://cinema.pia.co.jp/imp/2140/24515/

[2] 『別冊宝島358 私をコミケにつれてって！』宝島社、47頁

[3] フォローすると、ラブコメ漫画の草分け的な『翔んだカップル』も連載されていました

[4] Wikipedia“シベール_(同人誌)”のページから最終号に参加した作家の人数をカウントした

[5] 「ふゅーじょんぷろだくと」1981年10月号98頁、原丸太“ロリコンファンジンとは何か”より

[6] この略されている部分には「ロリコン誌のビニ本は初期の『シベ』が最初である」とあり、シベールがビニール袋に入れられて売られていたという誤解が広まり、出版物にもその記述が反映される原因になった（『漫画同人誌エトセトラ～』、『文藝別冊[総特集]吾妻ひでお 美少女・SF・不条理ギャグ、そして失踪』など）。しかし、これは誤りである。「ふゅーじょんぷろだくと」1982年1月号158頁の「ロリコン・ファンの皆さまへ」（原丸太）参照。

[7] もっとひどい例になると、サークルメンバーが通っているアニメ系の学校から送られてきた“出席不足”とかの呼出し書類のコピーがページ稼ぎで無意味に貼ってあったり、あるいは変なおやじの写真が貼られてて「お前らの好きなのってこんなのだろオタクども」とか書いてあったりする本が……ってそりゃ「とろろいも」の本だろ

[8] 何でそんな本を買う？と疑問に思われるかもしれませんが、当時の自分はコミケ等同人誌即売会の参加経験が浅く、また短時間で多数のサークルをまわるには、中身を確かめる時間がもったいなく、表紙だけで判断せざるを得なかったのです。まあ、誰でもこういう経験をしていくのですな。

[9] ○○＝エロ と思われる

[10] なお、私はこの3人について、捨てペンネームで自分の正体を明らかにせず、サークル参加者等を嘲笑することを書きたてる点が本気でムカついているので、敬称をつけていない。いずれ、この3人の素性を明らかにしたい

[11] 悪質な呼び込みをするサークルが少なくなったのは、コミケ等におけるマナーを啓発するWebサイトなどが多く作られたことや、SNSの登場によって変な行為をすると晒されるリスクが高くなったことが理由と考えられる。インターネットの恩恵である

[12] 何度も書くが全部のサークルがそうということではない。

ロリコンブームに関する年表

＊人名は全て敬称を略している。

＊月または日が斜体の行は当該の月または日が確定できないことを表す。

＊“”内は「参考文献・Webサイト」の各書・各Webページからの引用。表中出典省略。

年	月	日	出来事（人名敬称略）
1978	*10*		吾妻ひでお、アシスタントの沖由佳雄と共に「日本初のロリコン同人誌」刊行を目指す。
1978	*10*		吾妻ひでお、沖由佳雄と共に『シベール vol.0』（勧誘用のコピー誌）発行。
1978	12	17	C10（’78年冬コミ）開催。蛭児神建のサークル「アリスマニア集団キャロルハウス出版部」にて日本初（推定）のロリコン同人誌『愛栗鼠』発行。
1979	*1*		沖由佳雄、江古田の喫茶店まんが画廊にて蛭児神建と会う。『シベール』への参加依頼。
1979	4	8	C11（’79年春コミ）開催。『シベール』創刊号（サイズはB5（第2号以降も同じ）、コピー誌、26頁、頒価300円）が頒布される。蛭児神のサークル「アリスマニア集団キャロルハウス出版部」にて『ロリータ』第1号も頒布される。
1979	6	15	『シベール』創刊号第2版発行。
1979	7	27	『シベール』第2号（コピー誌、46頁、頒価400円）発行。この号より、孤ノ間和歩、計奈恵、豊島U作が参加。
1979	7	28	C12（’79年夏コミ）開催。『シベール』第2号及び『ロリータ』第2号 頒布される。
1979	8		『シベール』創刊号の一部原稿を合わせた第2号第2版（オフセット化、54頁、頒価300円）が発行。
1979	12	15	『ルパン三世　カリオストロの城』公開。ヒロインのクラリスがのちに人気を博す。
1979	12	*22*	『シベール』第3号（オフセット、54頁、頒価300円）発行。
1979	12	23	C13（’79年冬コミ）開催。 『シベール』第3号頒布される。開場前からシベール編集部の前に人だかりができるほどの人気に。『AMA』（東京アニメニア・アーミー）創刊。ガンダムのエロパロ本。
1979	*12*		この頃までに沖由佳雄及びシベールメンバー（吾妻除く）と蛭児神建との関係悪化。蛭児神は『シベール』には以後参加せず、自サークル「変質社」にて作品を発表する。
1980	2		吾妻ひでお、『少女アリス』（自販機本）にて『純文学シリーズ』連載開始。10月まで連載継続。
1980	4		『週刊少年サンデー』（小学館）4月13日号より『うる星やつら』連載開始。高橋留美子作品は後にコミケ等で男性ファンが多数生まれ、同人誌も多数発行される。
1980	5	*10*	『シベール』第4号（オフセット、46頁、頒価300円）発行。森野うさぎが参加。
1980	5	11	C14（’80年春コミ）開催。『シベール』第4号頒布される。
1980	6		『クラリスMAGAZINE』（A・W・S・C内「クラリス・マガジン編集室」）第1号発行。
1980	7		『ロータリー』（ロータリークラブ）創刊。シベールに影響された本。当初はコピー誌で限定13部。
1980	9	*13*	『シベール』第5号（オフセット、80頁、頒価400円）発行。早坂未紀が参加（この号のみ）。
1980	9	*13*	『幼女嗜好』（変質社）創刊。蛭児神のサークル。
1980	9	14	C15（’80年夏コミ）開催。『シベール』第5号、『幼女嗜好』創刊号頒布される。 『クラリスMAGAZINE』第1号頒布される。
1980	9		『FRITHA（フリス）』（トラブル・メーカー）発行。早坂未紀の個人画集。
1980	11	*1*	『月刊OUT』’80年12月号の連載「病気の人のためのマンガ考現学」（米澤嘉博）第1回にてシベールが紹介される。

年	月	日	出来事（人名敬称略）
1980	12	*1*	『月刊 OUT』'81 年 1 月号の付録ポスター「吾妻ひでお版（青少年向）“眠られぬ夜のために”」。吾妻の美少女アニメパロディイラスト。
1980	12	*13*	『シベール』第 6 号（オフセット、82 頁、頒価 400 円）発行。
1980	12	*13*	『のんき』（おとぼけ企画）創刊。みやすのんき執筆のアニメ等エロパロ本。
1980	12	14	C16（'80 年冬コミ）開催。『シベール』第 6 号頒布される。 『人形姫』（サーカスマッドカプセル）創刊。“ロリコンブーム始まる”
1980	12		『すずらん』（名古屋学院セーラー服研究会）創刊。セーラー服研究誌。
1981	3	*1*	『アニメック』第 17 号（1981 年 4 月号にあたる）刊行。「“ろ”はロリータの“ろ”」記事。“「ロリコン・ファンジン・ブーム」の方向を決定づけた、あるいは予言した、一つのエポック”
1981	4	*4*	『シベール』第 7 号（最終号、オフセット、108 頁、頒価 400 円）発行。
1981	4	*4*	『アニベール』（シベール編集部）発行。
1981	4	5	C17（'81 年春コミ）開催。『シベール』第 7 号頒布される。 『ブレザンス』（シベール FC・ハンバート）、アニメキャラヌード専門誌『ヴィーナス』（ムーン・ライン製作室）が登場。『ロータリー』コミケに進出する。 “参加をみあわせて貰うサークルの数が急増する”
1981	4	26	『プチ・シベール』（B6 版、32 頁）発行。シベール品切れ後の通販に応じるために作成された。
1981	7	*1*	『月刊 OUT』8 月号、「ルナティック・コレクション Part1“美少女”」アニメのロリコン美少女特集。『クラリス MAGAZINE』再販募集。
1981	8	15	C18（'81 年夏コミ）開催。『ミャアちゃん官能写真集』発行。ロリコン同人誌多数発刊。「ロリコンの夏」（志水一夫命名）“ロリコンブーム頂点に”
1981	8		『Alice』（Alice 編集部）創刊。シベールのメンバーも参加しているロリコン誌。
1981	8		『お気に召すまま』創刊。アニメのヌードシーンを集結・評価したリスト本。
1981	8		大阪府大阪市にて、第 20 回 SF 大会（DAICON Ⅲ）開催。「DAICON Ⅲオープニングアニメ」放映。メカと少女の融合、及びアマチュア最高峰の出来により話題に。ロリコン系漫画・同人誌にも影響を及ぼす。
1981	10		『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号発行。特集「ロリータあるいは如何にして私は正常な恋愛を放棄し美少女を愛するに至ったか」。かなり売れたらしい
1981	10		『ジ・アニメ』（近代映画社）'81 年 11 月号にアニメ美少女特集記事掲載。
1981	12	20	C19（'81 年冬コミ）開催。川崎市民プラザが使用できないため、晴海国際見本市会場に変更。“晴海で初めてのコミケ。男性参加者が過半数を占める”
1981	12	20	クーデターによりコミケット準備会から分裂した、元コミケ警備担当の若手スタッフ達が「新コミックマーケット」を秋葉原で開催。
1981	12		初のアニメ調エロマンガ雑誌『レモンピープル』創刊（久保書店）。「ロリコン同人誌ピックアップ」（米澤嘉博）にてシベールが紹介される。
1981	12		週刊少年チャンピオン（秋田書店）1 月 1 日号から内山亜紀『あんどろトリオ』連載。
1982	3	21	C20（'82 年春コミ）開催。
1982	3		『アニメージュ増刊　アップル・パイ』発売。非エロロリコン漫画アンソロ。
1982	3		『アニメージュ』'82 年 4 月号。付録が「ロリコントランプ」（笑）。
1982	4		『アニメージュ』'82 年 5 月号。「アニメファンのビョーキスタイル研究」米澤嘉博インタビュー、内山亜紀インタビュー。
1982	5		『ロリコン大全集』（都市と生活社）。ロリコン特集ムック本。蛭児神建編集（実際は川本耕次らが編集）。
1982	8	8	C21（'82 年夏コミ）開催。この回よりカタログ発売開始。
1982	8		『COMIC BOX』創刊号（ふゅーじょんぷろだくと）。「ロリコン・まんが誌の現状を総括する。」（原丸太）

年	月	日	出来事（人名敬称略）
1982	11		セルフ出版『漫画ブリッコ』創刊。当初は三流劇画雑誌だった。
1982	12	26	C22（’82 年冬コミ）開催。
1982	12		アダルトゲーム『ロリータ（野球拳）』発売。PSK（パソコンショップ高知）より。作者は武市好浩。
1983	2		アダルトゲーム『マリちゃん危機一髪』エニックスより発売。槙村ただしが原画を担当。
1983	4	3	C23（’83 年春コミ）開催。過激なコスプレに警察からの指導が入り、コスチューム着用のまま会場外に出ることが禁止される。
1983	4		『漫画ブリッコ』、ロリコンブームにより、1983 年 5 月号よりロリコン系作家を起用し路線変更。
1983	7		『週刊少年サンデー 31 号』ラブコメ作品多数。少年マンガ誌にも女の子キャラが重視される兆しか。
1983	8		大阪府大阪市にて、第 22 回 SF 大会（DAICON Ⅳ）開催。「DAICON Ⅳオープニングアニメ」放映。
1983	10	20	「クラリスマガジン被害者同盟」結成される。
1983	10		アダルトゲーム『ロリータ・シンドローム』発売。発売元はエニックス（笑）。望月かつみ絵の女の子がものすごい目に合う。
1983	11		『アニメック』’83 年 12 月号。「「クラリスマガジン」の苦情に対するお答え」掲載。
1983	12		『アニメック』’84 年 1 月号。「「クラリスマガジン」その後」掲載。A・W・S・C 主宰者の住所氏名及び顔写真を掲載（！！）。アニメック編集部ブチギレ。
1984	7		アダルトアニメ『仔猫ちゃんのいる店』発売。中島史雄原作。
1984	8		アダルトアニメ『くりぃむレモン パート 1 媚・妹・Baby』発売。
1985	3		『ロリータ・シンドローム』の続編『マイ・ロリータ』、光栄より発売。あまりの内容にエニックスが発売を拒否したため（……）光栄から発売された。

（なお、この年表よりも Wikipedia「シベール_(同人誌)」中の「関連年表」の方が更に詳細に各種事項を取り上げているので、ぜひご一読されたい。）

参考文献・Web サイト

■参考文献

『ロリコン -日本の少女嗜好者たちとその世界-』　高月靖、バジリコ
『戦後 SF 事件史』　長山靖生、河出書房新社
『漫画同人誌エトセトラ'82-'98 状況論とレビューで読むおたく史』　阿島俊、久保書店
『サルでも描けるまんが教室 21 世紀愛蔵版上巻』　相原コージ・竹熊健太郎、小学館
『コミックマーケット 30's ファイル』　青林工藝舎
『同人漫画大百科』　辰巳出版
『同人誌ハンドブック』　阿島俊編、久保書店
『戦後エロマンガ史』　米沢嘉博、青林工藝舎
『別冊新評　三流劇画(エロ)の世界』　新評社
『子どものマンガをどうする』　石子順、啓隆閣新社
『出家日記―ある「おたく」の生涯』　蛭児神建(元)、角川書店
『ワンダー・AZUMA・HIDEO・ランド』　吾妻ひでお、復刊ドットコム
『ミニティー夜夢』　吾妻ひでお、秋田書店
『文藝別冊[総特集]吾妻ひでお 美少女・SF・不条理ギャグ、そして失踪』　河出書房新社
『ぱふ』1987 年 1 月号、雑草社
『ふゅーじょんぷろだくと』1981 年 10 月号、82 年 1 月号　ラポート
『月刊 OUT』1980 年 12 月号、81 年 8 月号、81 年 11 月号　みのり書房
『アニメック』17 号（1981/4）、25 号（82/8）、27 号（82/12）、28 号（83/2）、83 年 12 月号、84 年 1 月号　ラポート
『アニメージュ』1982 年 5 月号　徳間書店
『ジ・アニメ』1981 年 11 月号　近代映画社
『GORO』昭和 57 年 3 月 11 日号　小学館
『週刊朝日』1982 年 5 月 14 日号　朝日新聞社
『蘇る PC-8801 伝説』　アスキー
『別冊宝島 104 おたくの本』　JICC 出版局
『別冊宝島 358 私をコミケにつれてって！』　宝島社
『あんたっちゃぶる②』鈴木みそ、アスキー出版局
『アニメージュ増刊 アップル・パイ』　徳間書店
（同人誌）『シベール』vol.2～vol.5　シベール編集部
（同人誌）『漫画の手帖』13 号（1983/7）　漫画の手帖事務局
（同人誌）『エピカル vol2』、『GROW UP』　グループ 601
（同人誌）『学習漫画・保健 4・女体のひみつ』　SYSTEM GZZY
（同人誌）『なつずいせん』　ばいぶる
（同人誌）『クラリス MAGAZINE No2』　A・W・S・C（クラリスマガジン編集室）
（同人誌）『ほのぼの！イクサー 1・ACTⅢ完結編 -微笑みのその前で- 前編』　炬燵屋 Co,.Ltd
（同人誌）『くりいむレモン毒本おかゆ』　華ディスコ
（同人誌）『同人誌即売会開催史（2000 年代）』　STRIKE HOLE

■参考 Web サイト

『コミックマーケット公式サイト』　“コミックマーケット年表”　https://www.comiket.co.jp/archives/Chronology.html
『早坂未紀の世界』“1970 年代の資料”　https://web.archive.org/web/20190330160544/http://www.geo

cities.jp/azicon1/1970_S.html
“1980 年代の資料” http://web.archive.org/web/20190331114546/http://www.geocities.jp/azicon1/1980_S.html
『ねとらぼエンタ』“かつて、吾妻ひでおは神だった” https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1704/15/news038.html
『Togetter』“まんが画廊のお宝発掘にどよめくビッグネーム達” https://togetter.com/li/768205
“●同人サークルと同人誌に対価があることの成り立ちと歴史の話” https://togetter.com/li/929525
“迷惑な呼び込みをするサークルについて” https://togetter.com/li/967238
“1982 年女性誌におけるロリコン記事～男の子の憧れが「姉」から「妹」になったのはいつか” https://togetter.com/li/229780
『Wikipedia』“シベール_(同人誌)”等 各ページ
『青空文庫』 https://www.aozora.gr.jp/cards/001518/files/51732_44768.html
『Underground Magazine Archives 雑誌周辺文化研究互助』“ロリコンファンジンとは何か――その過去・現在・未来 ロリコン同人誌界分布図の試み by 原丸太” http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconFanzine
“吾妻ひでお＋谷口敬＋野口正之＋蛭児神建＋早坂未紀＋川本耕次「ロリコン座談会：ロリコンの道は深くて険しいのだ」” http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/LoliconDiscussion
“大魔神・蛭児神建の怒り――なつかしの業界ケンカ史” http://kougasetumei.hatenablog.com/entry/hirukogamikennoikari
『米沢嘉博記念図書館』“米沢嘉博記念図書館｜沖由佳雄氏、KAZUNA（計奈恵）氏トークイベント「『シベール』の頃」” https://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/t_event9.html
『漫画ブリッコの世界』“「別冊アニコム 少女愛好家のために」の内容紹介” http://www.burikko.net/people/anicom.html
『情報中毒者、あるいは活字中毒者、もしくは物語中毒者の弁明』“1982 年頃のロリコンブームについて、米沢嘉博と内山亜紀へのインタビュー” https://soorce.hatenablog.com/entries/2006/11/10#p1
『みぐぞうの後ろ向き日記』“マイコン創世記を飾ったロリゲーについて語ってみる” http://migzou.blog84.fc2.com/blog-entry-133.html
“カルトアニメ発掘記・その 5 序章 吾妻ひでお先生と「ロリコンブーム」の思い出” http://migzou.blog84.fc2.com/blog-entry-249.html
『WEB SNIPER』“80 年代初期ロリコン漫画誌の時代–SF と美少女からエロ漫画への変遷を辿って” http://sniper.jp/008sniper/00850event_report/80_1.html
『WEB アニメスタイル』“WEB アニメスタイル ｜ アニメ様 365 日 第 121 回 ロリコンブーム” http://www.style.fm/as/05_column/365/365_121.shtml
『山本弘の SF 秘密基地 BLOG』“初めてマンガの中でコミケを描いた作品は？” http://hirorin.otaden.jp/e409884.html
『日記』“GAINAX の歴史１．DAICONⅢオープニングアニメ(1981 年)” http://blog.livedoor.jp/hiramit/archives/50920232.html
『電脳世界のひみつ基地』“とんがりギャルゲー紀行 第 3 回：ロリータ・シンドローム” https://maedahiroyuki.com/20171116-%E3%83%AD%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%A0/
『法務省 犯罪白書』“平成１８年版 犯罪白書 第 6 編/第 4 章/第 1 節/1” http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/52/nfm/n_52_2_6_4_1_1.html
『YOMIURI ONLINE（読売新聞）』“日本の治安はジェットコースター？：オピニオン：Chuo Online” https://yab.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20140331.html

後書き

『ロリコンブームの跡を追って』最後までお読みいただき誠にありがとうございます。

当サークル初の評論本でしたが、執筆開始から脱稿まで約 4 か月を要しました。これまで私の個人サークル「DarkSiteMoon」名義で刊行していましたスカトロやショタ系のエロ本では、諸事情により執筆時間も本に込めた力も限られ、質が上げられませんでしたが、本誌は自分の全精力と可能な限りの時間を注入し、資料収集にも多額の費用をかけました。今までの本とは異なった出来になっていれば幸いです。

今回の執筆に際してあらためて分かったのは、**吾妻ひでお先生の偉大さ**です。男性向エロ同人誌の母たる存在を生み出し、また『純文学シリーズ』を世に出すことで漫画・アニメ調の商業エロ漫画の起源を作り出したという業績。そして、女の子キャラの可愛らしさ…… 吾妻先生については、今後も調査対象にしたいと思っています。ただ、2019年に先生が亡くなられる前に、何らかの形で謦咳に接することができていれば……と、今更ながら後悔の念にかられております。

本誌は文献調査のみによって得た情報を基に執筆されています。本来は、沖先生など『シベール』に参加された各先生方にインタビューすべきでしたが、**私が極度のコミュ障である**ことや、次のような理由からあえてインタビューを控えました。

> 〔略〕筆者は、古参同人者へのインタビュー等「個人の口伝」による情報には、史料的価値を見出していない。
>
> 十数年前のエピソードを口伝でお話しいただいたとしても、webサイト上で昔語りの思い出話が語られたとしても、その内容は、果たして真実か。
>
> 語り手が、自身を美化して語る事も十分有り得よう。語り手の語る内容が真実か否か、裏付けを取る事は難しい。そもそも、人間の記憶は曖昧だ。
>
> 『同人誌即売会開催史（2000 年代）』（同人誌）、サークル「STRIKE HOLE」、花羅氏、2019 年

サークル「STRIKE HOLE」は以前から自分が作品を愛読しているサークル様です。上記同人誌はかなり本誌のレイアウトや構成等にも影響を与えております。同サークル主宰の花羅氏は「人間の記憶は曖昧になる」との視点から、インタビュー等ではなく文献・Web ページの資料を基にして、全国各地の同人誌即売会の歴史をまとめておられます。私も花羅氏のひそみに倣い、今回は文献調査を基にしてロリコンブームの「跡」＝「文献に残された痕跡」を追って、本としてまとめました。

もっとも、これまで参考にしてきた文献にも誤りが混入している可能性が当然あります。また、調査の結果多数見つかった矛盾点（本誌 37 頁）など、ブームに関わった方々に確認してみないと解き明かせない事項が多々ありますので、いずれはインタビュー等も行わなければならないと考えております。

念のため申し上げますが、本誌は「不完全」です。『レモンピープル』の後追いロリコン商業誌など、時間及び頁数の都合で盛り込めなかった内容も多数あります。また、私が今までに入手できなかった資料も多数存在し、それらの内容が明らかになることで、この本で示した事実が覆る可能性もあることを付記します。本誌の内容を鵜呑みにされず、ご自身の調査された内容やご感想等を大事にされていただきますようお願いします。

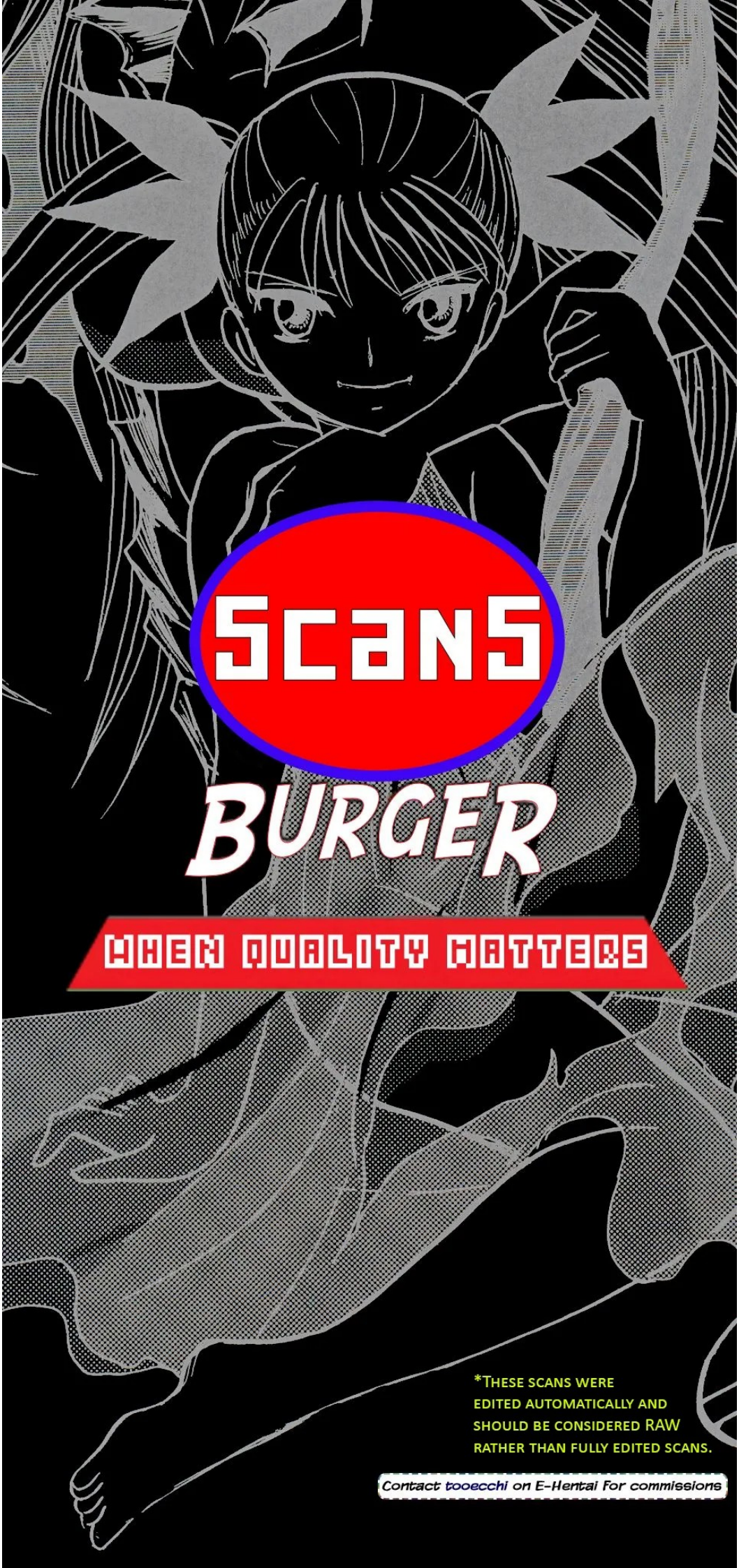
本誌中の事実の誤りや誤字等については奥付の連絡先までご指摘いただければ幸いです。感想等もお待ちしております。

今後「DarkSiteMoon」名義では通常通り男性向本を、「暗黒拠点月」名義では評論本を順次刊行していく予定です。よろしくお願いします。

2020/7/23 降間

【奥付】

『ロリコンブームの跡を追って』
発 行 日：2020/8/2
サークル：暗黒拠点月（DarkSiteMoon 別名義）
著　　者：降間（ふるま）
連 絡 先：batubatu@bloomerlove.sakura.ne.jp
@purimusu_ji （Twitter アカウント）
http://darksitemoon.sblo.jp/
https://ci-en.jp/creator/1503
印刷会社：booknext（株式会社栄光
ブックネクスト事業部）様


SCANS
BURGER
WHEN QUALITY MATTERS
*THESE SCANS WERE
EDITED AUTOMATICALLY AND
SHOULD BE CONSIDERED RAW
RATHER THAN FULLY EDITED SCANS.
Contact tooecchi on E-Hentai For commissions